

ミカワバイケイソウ

被子植物 シュロソウ科

Veratrum stamineum Maxim. var. *micranthum* Satake

【選定理由】既知の生育地点数は1であり、生育個体数は50未満であるとともに減少傾向にある。

【種概要】低地から丘陵地の湿原に生育する。5～6月頃、高さ1m前後の茎の上部に白色花の円錐花序を着ける。花被片の縁に細かい切れ込みがあり、おしべは花被片の約2倍長である。葉裏脈上には小突起がある。固有種。

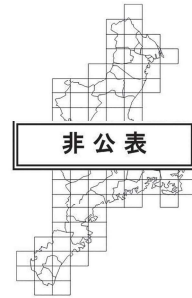
【分布】本州（長野県、愛知県、静岡県、岐阜県、三重県）の低地湿原。県内では菰野町に記録がある。

【現況・減少要因】一帯はネザサの繁茂など遷移が進行し、少ない個体数は更に減少傾向にある。

【保護対策】継続的な現況調査と生育地一帯の間伐や除草等を持続的に実施し、保護・管理を行う必要がある。

(加田勝敏・市川正人)

(写真：菰野町，2016年，池田博撮影)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

VU

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

苔苔類

藻類

キノコ

キバナノアマナ

被子植物 ユリ科

Gagea lutea (L.) Ker Gawl.

【選定理由】既知の生育地点数は1であり、個体数が少なく、採取圧も高い。

【種概要】やや寒い地方の山野に生える多年草。根出葉は線形でやや厚く長さ15～30cm。4～5月頃、花茎の頂に4～10個の黄色い花が散形状につく。

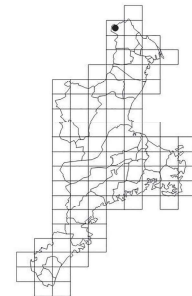
【分布】国内では本州（岡山県以東）、北海道。国外では千島、樺太、朝鮮半島、中国、シベリア東部など。県内ではいなべ市に生育する。滋賀県側でも確認されている。

【現況・減少要因】減少は園芸採取による。

【保護対策】国定公園内である。他の植物も含めてその地域での保護をアピールする。

(山脇和也)

(写真：いなべ市，2009年，池田博撮影)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

—

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

キリシマエビネ

被子植物 ラン科

Calanthe aristulifera Rehb.f. var. *kirishimensis* (Yatabe) Honda

【選定理由】既知の生育地点数は5以下であるが、現状は不明である。

【種概要】常緑広葉樹林の下に生える地生ラン。偽球茎は丸く、エビネより小形。花茎は高さ20～40cm。花期は4～5月、白色またはうすい紅色で10～15花をややまばらにつける。いくぶん垂れ気味につく。

【分布】国内では本州（三重県、和歌山県）、四国、九州。県内では紀州地域に分布。

【現況・減少要因】園芸採取が最大の減少要因。また、森林の伐採も影響を与える。

【保護対策】林縁や里山ではほとんど見かけなくなった。乱獲後の生育地を調査し、残存する個体の一部を保護することも絶滅を防ぐ方法である。

(花尻 薫・土永知子)

(写真：大紀町（植栽），1995年)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

EN

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

キンセイラン

Calanthe nipponica Makino

被子植物 ラン科

【選定理由】1950年の標本記録を最後に、これまで生育情報はなかったが、2023年に県内の山林内で発見されている。他での生育情報がないことなどからEXからCRに変更となった。

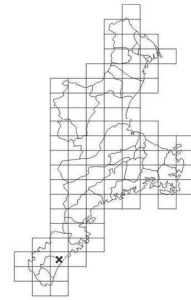
【種概要】深山の林に生える地生ラン。葉は3～5個つき、広披針形で長さ15～30 cm。花茎は高さ30～50 cm、上部は子房とともに短毛がある。6～7月、まばらに淡黄緑色の花を5～12個つける。

【分布】北海道から九州。国外ではチベットに分布。県内では御浜町で1938年と1950年に採集の記録後今回の発見であるが、採取圧力が極めて強いことから新産地地名は明記しないこととする。

【現況・減少要因】県内で半世紀以上ぶりに発見された種である。自生地は湿度の高い林床で、開花個体は10株程度であった。ニホンジカによる採食や山草業者等による盗掘が危惧される。

【保護対策】園芸採取を禁止すると共に、徹底した情報の管理が必要である。
(花尻 薫・宮島美栄)

(写真：2023年，山本和彦撮影)



三重県 2025

CR

三重県 2015

EX

環境省 2020

VU

ササバギンラン

Cephalanthera longibracteata Blume

被子植物 ラン科

【選定理由】既知の生育地点数5以下。個体数はきわめて少ない。

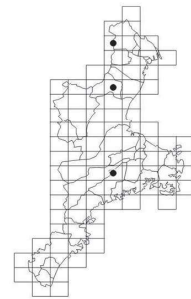
【種概要】山地の半日陰に生える高さ30～50 cmの多年草。葉は長さ5～15 cm、幅1.5～3 cm、種名は笹葉に因んだ。裏面や縁、花序や子房に白い短毛状突起がある。ギンランに似るが花序直下の苞葉は線形で、普通花序より長い。花は5～6月に咲き、白色でわずかに開く。唇弁基部には短い距がある。

【分布】本州、四国、九州。県内ではいなべ市、亀山市、津市、伊勢市、大台町に記録がある。国外では朝鮮、中国。

【現況・減少要因】少なくともいなべ市藤原町の山地で数株が生育している。生育地は石灰岩採掘計画の鉱区内であり消滅が憂慮される。

【保護対策】採掘計画を解消し、生育地の保護をするしかない。生育環境を十分に配慮した移植が考えられるが、持続可能な管理は困難であると思われる。
(市川正人)

(写真：大台町，2021年，井元俊介撮影)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

—

オサラン

Conchidium japonicum (Maxim.) S.C.Chen et J.J.Wood

被子植物 ラン科

【選定理由】既知の生育地点は5以下。個体数は50未満。現在確実な自生地は1ヶ所のみ。

【種概要】樹上や岩上に着生する多年草。偽球は密に接して並び、やや湾曲して斜上し、長さ1～2.5 cm。葉は2個、偽球の先につく。花は7～8月頃葉腋から出る長さ2～6 cmの花柄の先に1～2個ついて白色。冬には落葉する。

【分布】国内では本州（伊豆諸島、紀伊半島）、四国、九州、沖縄。国外では台湾、中国南東部に分布。県内では熊野市と御浜町から記録されている。

【現況・減少要因】熊野市の自生地については現状不明。御浜町の産地については数年前の調査では健在であった。

【保護対策】愛好家等による採取圧が高いため、自生地の詳細は非公表とする。

(山本和彦)

(写真：御浜町，2015年，市川正人撮影)



三重県 2025

CR

三重県 2015

—

環境省 2020

VU

非公表

モイワラン

被子植物 ラン科

Cremastra aphylla Yukawa

【選定理由】既知の生育地点数は1. 個体数は5株ほどである. 同地域で新産地が期待される.

【種概要】湿り気のある林床に生える花茎が20~40 cmの腐生ランで多年草. 通常, 葉はないが菌寄生移行型のランでわずかに痕跡的な葉を持つタイプもある. サイハイランに比較して, 普通葉を持たないこと, 花は褐色を帯びた赤紫色, 花数が少なく, 開きが狭い. 固有種.

【分布】北海道, 本州, 四国. 県内では松阪市飯高町の山地で記録されている.

【現況・減少要因】松阪市飯高町が唯一の生育地で, 数年間にわたり継続観察したが花茎を伸ばさない年があった(菌従属栄養). 現地の個体は地上に葉を出さない(または, 持たない)タイプであるため, あたかも消滅したかのように見えたようである. 森林伐採や斜面崩壊, 園芸採取が減少要因である.

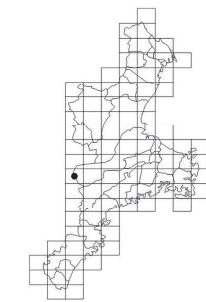
【保護対策】現在の環境を維持するとともに, 採取の防止が必要である.

【特記事項】和名は発見された北海道の藻岩山に因む.

【文献】142.

(市川正人)

(写真: 松阪市, 2003年, 市川正人撮影)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

CR

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

カンラン

被子植物 ラン科

Cymbidium kanran Makino

【選定理由】既知の生育地点数は10以上であるが, 個体数は少なく, 採取圧がきわめて強い.

【種概要】乾いた林床に生える常緑のラン. 葉は束生し, 広線形で革質, 長さ20~70 cm, 幅6~17 mm, 鋭尖頭でふちは少しざらつく. 花茎は高さ25~60 cm. 花は5~12個, 12~1月に開き, 芳香がある.

【分布】国内では本州(東海地方以西)から沖縄. 国外では台湾に分布. 県内では中勢, 南勢, 紀州地域からの標本記録がある.

【現況・減少要因】高価な価格で売買されることもあり, 昔から園芸目的による採取が後を絶たない. 愛好家内で知られている生育地では, 土を篩って根の断片まで採取するという徹底ぶりである. 紀州地域では, 小苗状の株なら散発的に発見されているが, すぐに持ち去られる状況である.

【保護対策】野生状態での開花, 結実株を見つけることが不可能に近いほど, 採取圧が強い. 栽培種を量産するなどして, 商品的価値を下げる対策も必要かもしれない.

(山本和彦)

(写真: 紀宝町, 2016年, 池田博撮影)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

EN

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

エゾスズラン

被子植物 ラン科

Epipactis papillosa Franch. et Sav. var. *papillosa*

【選定理由】既知の生育地点は1か所である.

【種概要】低山帯上部から亜高山帯の林縁や草原に生える. 茎の長さ30~60 cm. 全体に褐色の短い縮毛がある. カキランに似るが葉面, 葉脈上に白色の微細な毛状突起をつける. 葉は5~7枚が互生. 花は緑色で多数が総状についている. 花期は7~8月.

【分布】国内では北海道~九州, 国外では南千島, カムチャツカ, 樺太, ウスリー, 中国東北部. 県内ではいなべ市に生育する.

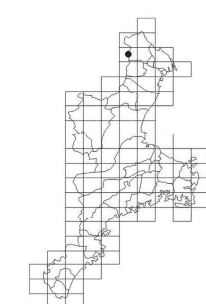
【現況・減少要因】石灰岩の尾根の温帯落葉樹林の林床に稀に生育する. 近くで採石しているので消滅の危険がある.

【保護対策】採石を早急に中止させるか, 採石場所の変更をさせる必要がある.

【特記事項】その他, シコクフクジュソウ, ステゴビル, セリモドキ, フジワラサイコ, フキヤミツバ, オオキヌタソウなど, 絶滅危惧I類の種が11種以上生育している県内でも狭い特異な場所なので, 特別保護区にするか, 天然記念物に一部地域を指定すべきである.

(山脇和也)

(写真: 長野県, 2024年, 三谷有幸撮影)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

—

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

モミラン

被子植物 ラン科

Gastrochilus toramanus (Makino) Schltr.

【選定理由】 標本記録による既知の生育地点数は1。1933年に採集されているが、その後新たな確認記録はない。ただ採集当時の生育環境は現在も温存されていることから、再発見される可能性もあると思われる。

【種概要】 樹上に着生する常緑の多年草。茎は細く、ときに分枝し、小形の葉を2列に互生する、葉には紫斑があり、楕円形、長さ5~11 mm、幅2.5~5 mm。4~5月に葉腋より短い花茎を出し、2~6個の花をつける。

【分布】 本州（福島県以南）、四国に分布する。県内では津市から記録されている。

【現況・減少要因】 現況は不明であるが、生育環境が限られ、個体数もそれほど多くはないことから、園芸目的の乱獲により減少したものと推察される。

【保護対策】 今後新しい自生地が確認されてもその公表は避けるなどの配慮が必要。

【特記事項】 標本は三重県総合博物館に収められている。

(山本和彦)

(写真：三重県外，2024年)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

VU

オオミヤマウズラ

被子植物 ラン科

Goodyera tsukamotoi Seriz.

【選定理由】 生育地点数は1であり、個体数は50未満である。

【種概要】 林下に生える多年草。花茎は約20~30 cmで立ち上がる。基部に着く数枚の葉は5 cm内外の卵形~楕円形で主に濃緑色である。花期は9月。10個内外の小さな白色花は平開しない。ミヤマウズラに似るが、葉に白斑がないことが多い。固有種。

【分布】 本州（関東南部）から九州（屋久島）。県内ではいなべ市。

【現況・減少要因】 2013の県内初の生育確認以降激減した。シカ食害か園芸目的の採取と思われる。

【保護対策】 採取を防ぎ、生育環境の維持が必要である。

【特記事項】 2008年に日本植物分類学会で芹沢俊介氏がこの種について発表。ラン愛好家の間では「ガクナン」と呼ばれる。

(市川正人)

(写真：いなべ市，2013年)



三重県 2025

CR

三重県 2015

—

環境省 2020

—

ギボウシラン

被子植物 ラン科

Liparis auriculata Blume ex Miq.

【選定理由】 標本記録による既知の生育地点数は2。いずれも1930、1940年代の標本であり、最近の確認情報は得られていない。自生地周辺の環境は現在も維持されており、再発見の可能性も否定できない。

【種概要】 樹林の林床に生える多年草。偽球茎は短く、卵形。葉は長さ5~12 cm、幅3~8 cm、ギボウシのように脈間が凹む。7~8月に白色の花をつける。

【分布】 北海道、本州、四国、九州。国外では朝鮮（済州島）に分布。県内では名張市と津市から記録されている。

【現況・減少要因】 生育地の個体数はそれほど多くはなく、山野草愛好家に発見されれば全部採取されるため、再発見が難しい状況になっている。

【保護対策】 今後新しい自生地が確認されてもその公表は避けるなどの配慮が必要。

【特記事項】 標本は三重県総合博物館に収められている。

(山本和彦)

(写真：静岡県，2022年)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

EN

フガクスズムシソウ

被子植物 ラン科

Liparis fujisanensis F.Maek. ex Konta et S.Matsumoto

【選定理由】既知の生育地点数は5以下である。

【種概要】ブナの樹上にコケ類と混生して着生する。茎は偽球茎で、葉は2個、高さ3~10 cmほどになる。花は茶褐色、唇弁は強く反巻きし、側花弁は下垂する。花期は5月下旬~6月。

【分布】国内では北海道、本州、四国、九州に分布。県内では南勢地域の深山からの記録がある。

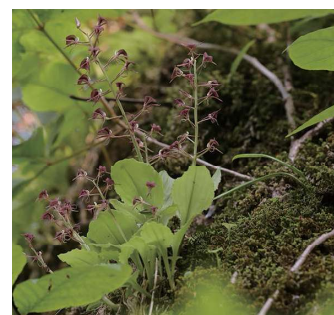
【現況・減少要因】着生木であるブナの倒木が進んでいることや、園芸目的の採取が後を絶たないことなどで、個体数は確実に減少している。

【保護対策】生育地は国立公園内にあるため、開発等の危険性は少ない。それよりも園芸目的による採取が致命的である。保護に関しては、生育地の公表は避ける、パトロールを強化する等の手だてが必要である。また現状を把握するための調査が望まれる。

【文献】114.

(山本和彦)

(写真：岐阜県，2023年，三谷有幸撮影)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

VU

アリドオシラン

被子植物 ラン科

Myrmechis japonica (Rchb.f.) Rolfe

【選定理由】既知の生育地点は2。個体数は50未満。現在確実な自生地は1ヶ所のみ。

【種概要】亜寒帯~冷温帯の林床に生育する多年草。茎は高さ3~8 cm、基部は長く横にはう。葉はまばらに数個つき広卵形、長さ4~12 mm、幅3~8 mm、鈍頭。葉柄は5~10 mmで下半部は膜質鞘状となる。花は7~8月、茎の先に1~3個つき白色。萼片は長さ6~7 mm、基部は互いにくっつき、先は次第に細くなって鈍頭。唇弁は萼片より長く、基部はふくらむ。

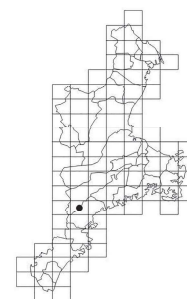
【分布】国内では北海道、本州（近畿地方以北）、四国。国外では朝鮮半島、中国南部~チベットに分布。県内ではいなべ市と大台町から記録されている。

【現況・減少要因】いなべ市の記録は50年以上前のものであり、その後新たな生育情報はない。大台町内では近年の生育情報が得られているが、ニホンジカによる食害が懸念される。

【保護対策】大台町の自生地は国立公園内であり、採取などからは保護されている。

(山本和彦)

(写真：大台町，2017年，川竹守撮影)



三重県 2025

CR

三重県 2015

—

環境省 2020

—

ムカゴサイシン

被子植物 ラン科

Nervilia nipponica Makino

【選定理由】既知の生育地点数は1。個体数は約20個体である。

【種概要】常緑樹林下に生える地中に1 cm弱の球茎を持ち、高さ10 cmほどになる多年草。葉は径3 cmほどの角張った心円形で根生し、花後に1枚を地上に出す。花茎には鱗片葉のみをつける。淡紫褐色で1 cmほどの花を斜上する花茎の先に1個つける。5~6月に咲くが、開かず細長いままである。固有種。

【分布】本州、九州、沖縄。県内では南伊勢町で記録されている。

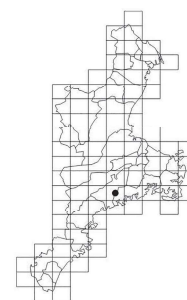
【現況・減少要因】唯一南伊勢町の1か所で生育している。減少要因は植林伐採と土地造成である。

【保護対策】開発行為、および植林伐採をせずに現況を維持することである。

【文献】77.

(市川正人)

(写真：三重県外，2023年)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

EN

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蕨苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ガンゼキラン *Phaius flavus* (Blume) Lindl. 被子植物 ラン科

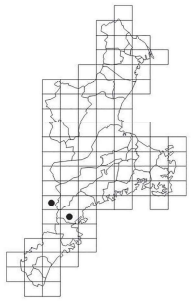
【選定理由】 既知の生育地点数は5以下であるが、現存は確認できない。
 【種概要】 常緑樹林下に生える地生ラン。偽球茎は卵状円錐形で稜があり、長さ3～5 cm。葉は3～5個細長い楕円形、長さ30～50 cm。花は淡黄色で、長さ3～3.5 cm。
 【分布】 国内では本州（関東以西）、四国、九州。県内では紀州地域で記録がある。
 【現況・減少要因】 園芸採取が大きな圧力となり、ほとんどの生育地で消滅した。
 【保護対策】 生育の確認が急務である。再発見された場合には、生育地を明らかにしないことが保護になる。
 【特記事項】 ガンゼキランの葉に斑入りのものがあり、ホシケイランと称している。
 (花尻 薫)



三重県 2025
CR
三重県 2015
CR
環境省 2020
VU

キソチドリ *Platanthera ophrydioides* F.Schmidt 被子植物 ラン科

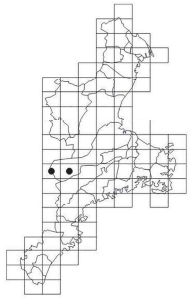
【選定理由】 既知の生育地点は2ヶ所、標本による古い記録しかなく情報不足としてあつかわれていたが、2007年と2012年に大台町で再発見された。個体数は不明だが、多くはないと思われる。
 【種概要】 樹林の林床に生える多年草。茎は高さ15～30 cm、最下位の葉はほぼ水平に開出し、楕円形、長さ3～6 cm、幅2～4 cm、基部は茎を抱く。鱗片葉は1～2個、披針形。7～8月に淡緑色の小花を数個まばらに穂状につける。
 【分布】 北海道、本州、四国、九州。国外では南千島、樺太に分布。県内では大台町と尾鷲市から記録されている。
 【現況・減少要因】 個体数はそれほど多くはないが、再発見された自生地は国立公園内であるため、環境変化による消滅の危険はないものと思われる。しかしニホンジカの食害や愛好家による盗採等の影響が懸念される。
 【保護対策】 ニホンジカの食圧を軽減することやパトロールの強化が必要。
 【文献】 90。
 (山本和彦)



三重県 2025
CR
三重県 2015
CR
環境省 2020
—

オオヤマサギソウ *Platanthera sachalinensis* F.Schmidt 被子植物 ラン科

【選定理由】 既知の生育地は2か所。
 【種概要】 山地林下に生える多年草。茎は高さ40～60 cm。わずかに稜はあるが翼はない。葉は下の2枚が大きく倒卵状狭楕円形で鈍頭。長さは10～20 cm、幅は4～7 cm、表面に光沢がある。上の葉はしだいに小さくなる。7～8月に淡緑白色の小花を多数穂状につける。
 【分布】 北海道から九州に分布。県内では松阪市飯高町で確認されている。
 【現況・減少要因】 群落を形成するような自生地はなく、山中で数個体が確認されたのみである。増減の傾向ははっきりしないが、もともと個体数が少ないため、生育環境の攪乱によって消滅する可能性が高い。
 【保護対策】 生育を確認した時に採取しないことが大切である。
 (山路武夫・山本和彦)
 (写真：松阪市、2023年、山本和彦撮影)



三重県 2025
CR
三重県 2015
CR
環境省 2020
—

ヒナチドリ

被子植物 ラン科

Ponerorchis chidori (Makino) Ohwi var. *chidori*

【選定理由】 既知の生育地点数は5以下であり、個体数50未満、採取圧もきわめて強い。

【種概要】 深山のコケの生えた樹上に着生、楕円形にふくらんだ根がある。茎は高さ7~15 cm。葉は1枚、茎の中ほどにつき長楕円形、長さ6~12 cm、幅12~35 mm。花は7~8月、紅紫色で数個、列状になり同じ方向につく。

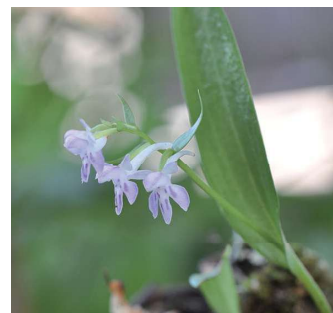
【分布】 日本固有種。本州（中部地方以西）、四国に分布。県内では南勢地域の深山に稀産し、壮齢のブナやミズナラ等の樹上に着生する。

【現況・減少要因】 樹上の高いところに生育するため確認が難しいが、風倒木上でみられることもある。生育地は、国立公園内のため伐採等の危険性は少ない。しかし、着生ラン類はマニアによる乱獲が絶えず、本種も例外ではない。

【保護対策】 保護に関しては、生育地の公表は避ける。パトロールを強化する等の手だてが望ましい。また現存数を把握するための現況調査も必要である。

(山本和彦)

(写真：松阪市，2018年)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

VU

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

苔苔類

藻類

キノコ

ステゴビル

被子植物 ヒガンバナ科

Allium inutile Makino

【選定理由】 既知の生育地点は1か所で、たいへん開発圧の強い所に生育している。

【種概要】 亜寒帯~冷温帯の林床に生育する多年草。茎は高さ3~8 cm、基部は長く横に多年生草本。鱗茎は球形で、直径約1 cm。根出葉は晩秋に2~3個出て、扁平な線形で長さ約20~30 cm。冬を越し、夏に枯れ、その後9月に10~30 cmの花茎が出て、3~8個の花を散形状につける。小花柄は長さ1~2 cm。花被片は6個で線状披心形で長さ約5 mm、基部は合着し、上部は開出する。白か淡く赤紫を帯びる。

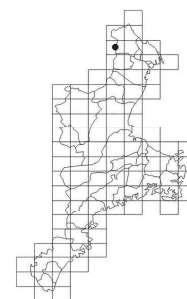
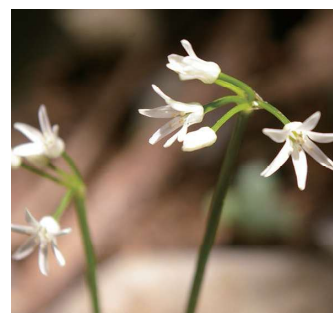
【分布】 日本固有種、本州の10県に点々とみられるが、どこでも個体数はあまり多くない。県内では鈴鹿山系北部で確認されている。

【現況・減少要因】 鈴鹿山系北部の石灰岩地帯の林内に生育する。近くで採石が進んでいるので急激に減少する可能性がある。人や動物の踏みつけもある。

【保護対策】 採石を早急に中止させるか、採石場所の変更をさせる。さらに、近くに絶滅危惧I類に該当する植物も11種以上生育するので、食害や踏みつけなどを防ぐための防護柵を設ける必要がある。

(山脇和也)

(写真：いなべ市，2015年，市川正人撮影)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

VU

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ヒメニラ

被子植物 ヒガンバナ科

Allium monanthum Maxim.

【選定理由】 既知の生育地点は1か所で、自生地の大部分が石灰岩採掘により消失したため、今回の改訂でENからCRに変更された。

【種概要】 山野に生える繊細な多年草である。鱗茎は卵形で長さ1 cmほど。葉は1~2個が根出状に出て平たい線形。花期は4~5月で花茎は6~10 cm。雌雄異種。雌花は1~2個、雄花は2~4個の白い花をつける。ニラ臭がある。

【分布】 国内では北海道、本州（近畿以東）、四国、国外では朝鮮、中国東北部、ウスリーに分布する。県内では鈴鹿山系北部の石灰岩地域に生育する。

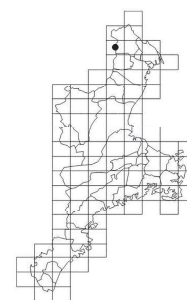
【現況・減少要因】 藤原岳の局所に数百個体生育していたが、藤原鉦山の石灰岩の採掘により急激に減少し絶滅寸前の状態にさらされている。

【保護対策】 石灰岩採掘の抑止か、延期以外に方法はない。

【特記事項】 藤原鉦山の石灰岩採掘により90%以上は消滅する所に集中して生育していたが、その場所が近年破壊された。

(山脇和也)

(写真：いなべ市，2012年，市川正人撮影)



三重県 2025

CR

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ギョウジャニンニク

被子植物 ヒガンバナ科

Allium victorialis L. subsp. *platyphyllum* Hultén

【選定理由】既知の生育地点数は1。生育地の個体数は50未満しかなく、採取圧もきわめて強い。

【種概要】深山の林下に群生する多年草で、強いニラ臭を有する。鱗茎は長さ5 cmほどで褐色の網状繊維におおわれる。葉はふつう2枚で、長さ30 cm内外。花茎は1本出て、6～7月頃に多くの白い花が放射状に丸くかたまつてつく。鱗茎は食用になり、和名は行者のニンニクの意。

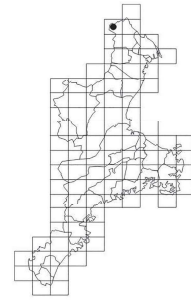
【分布】国内では本州（近畿以北）、北海道。国外では千島、樺太、朝鮮半島、中国、カムチャツカなど。県内ではいなべ市で記録がある。

【現況・減少要因】園芸採取が大きな圧力となり、ほとんどの生育地で消滅した。

【保護対策】県内では生育地が1か所知られていたが、現在は確認できてない。

(山脇和也)

(写真：滋賀県，2015年，市川正人撮影)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

—

ミズアオイ

被子植物 ミズアオイ科

Monochoria korsakowii Regel et Maack

【選定理由】既知の生育地点数は5以下、個体数は50未満である。

【種概要】水田や浅い沼地に生える1年草。茎や葉柄は多孔質で柔らかく高さ20～40 cm、根生葉は10～25 cm、茎葉は4～10 cmの葉柄を持ち、葉身は心形で長さ・幅ともに4～15 cm、深緑色で光沢がある。葉先は急に細くなる。花序は9～10月頃、茎の上方に花序をつける。花は径2.5～3 cm、青紫色で柄の先につける。大形のコナギやホテイアオイに似る。

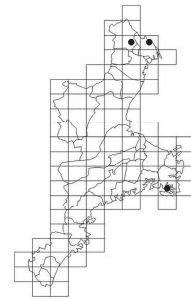
【分布】北海道、本州、四国、九州。県内では桑名市、伊賀市、志摩市で記録がある。国外では東アジアの温帯・暖帯域。

【現況・減少要因】水環境の変化で毎年出現するとは限らない。桑名市では休眠種子が農地改良や農道敷設などの攪乱によって発芽し、生育を確認できる程度である。埋立など湖沼開発により絶滅に瀕している。

【保護対策】生育地の一部に氾濫原環境を復元した保護区を設置し、保護管理が必要である。

(市川正人)

(写真：桑名市，2000年)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

NT

ミクリ

被子植物 ガマ科

Sparganium erectum L. var. *erectum*

【選定理由】既知の生育地点数は5以下。

【種概要】湖沼、水路などに群生する多年草の抽水植物。草丈は2 mにもなる。葉には背稜があり断面は三角形。花序は分枝しそれぞれに雌性頭花と雄性頭花を数個ずつつける。花期は6～9月。

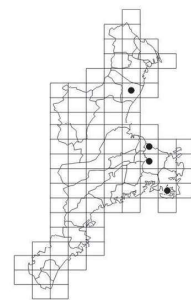
【分布】国外では北半球、オーストラリア。国内では北海道から九州。県内では鈴鹿市、伊勢市、志摩市で記録がある。

【現況・減少要因】近年生育が確認されているのは、伊勢市、志摩市のみで鈴鹿市は不明。

【保護対策】生育立地の保全に努めると同時に、地域の人への啓発活動が必要である。

(山路武夫・山本和彦)

(写真：志摩市，2017年，池田博撮影)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

NT

オオミクリ

被子植物 ガマ科

Sparganium erectum L. var. *macrocarpum* (Makino) H.Hara

【選定理由】 既知の生育地点数は1であり、個体数はおよそ1,000未満。

【種概要】 本州、四国にまれに産する多年生の抽水植物。ミクリによく似るが、果実が際だって幅広く、長さ5～9mm、幅5～8mm、上部はほぼ平坦。

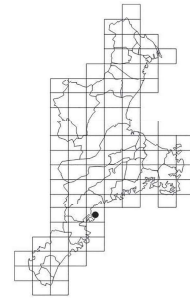
【分布】 本州、四国に分布。ミクリと混同されている場合が多く、正確な分布状況は不明。県内では今のところ紀北町の湿地1か所のみ生育が確認されている。

【現況・減少要因】 生育地周辺の湿地は、所々埋め立てが進み、かつてと比べ湿地面積が大きく縮小している。したがって、本種も以前と比べ減少している。

【保護対策】 これ以上の埋め立てを中止し、自生地のみでなく、現在残されている周辺の湿地も含めて保全することが必要である。

(山本和彦)

(写真：紀北町，2015年)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

VU

ツクシクロイヌノヒゲ

被子植物 ホシクサ科

Eriocaulon kiusianum Maxim.

【選定理由】 既知の生育地点数は5以下であるが、現在の生育が期待できるのは1か所のみ。生育環境が不安定な水辺の植物である。

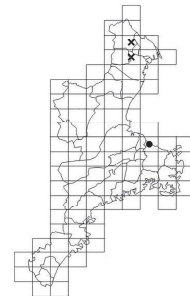
【種概要】 浅い池の水際などに生育する一年草。無茎で根生葉は長さ10～18cm、幅0.3～0.6cm。花期は9月頃、総苞片は長楕円形で頭花より少し短い。

【分布】 国内では本州（関東地方以西）、四国、九州。県内ではいなべ市、四日市市、明和町、伊勢市で記録がある。

【現況・減少要因】 浅い池の水際などでまれにみられるが、いなべ市の自生地は現在は確認できない。年による消長が大きく、水位の変動が減少の一因となっていると思われる。

【保護対策】 生育地を開発や工事で消失させないことが大切である。

(山路武夫・岡田峰尚)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

VU

イセウキヤガラ

被子植物 カヤツリグサ科

Bolboschoenus planiculmis (F.Schmidt) T.V.Egorova

【選定理由】 既知の生育地点数は5以下。各地点の生育個体数は多くはない。河口部の岸辺に生えるため、護岸工事等の影響を受けやすい。

【種概要】 満潮時に水没するような汽水域に生育する多年草。基部から出る2～4個の葉は稈と同長または短く、横断面は鋭三稜形である。小穂は1（2～3）個で刺針は6（～7）本。柱頭は2本。

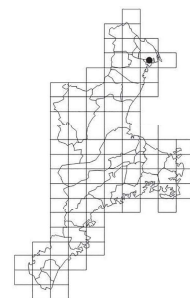
【分布】 北海道から九州。県内では木曾岬町・桑名市に記録がある。国外では中国・サハリンなどアジア地域に広く分布。

【現況・減少要因】 各生育地とも減少傾向にある。生育地は護岸工事や埋立などの影響を受けやすい。工事に当たっては十分な対策が必要である。

【保護対策】 汽水域の環境保全に万全を期すような施策が望まれる。また、工事実施等に当たっては、事前調査の実施が重要である。

【文献】 21。

(加田勝敏・市川正人)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

藓苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

トダスゲ

被子植物 カヤツリグサ科

Carex aequalta Kük.

【選定理由】既知の生育地点数は1であり、個体数は10未満しかない。
 【種概要】湿地に生えるやや大型の多年草。高さ40~80 cm。葉は幅3~5 mm。果期は5~6月。雌小穂は円柱形で長さ3~5 cm。頂小穂は線形で雄性、雌小穂より短い。果胞は卵円形でふくらみ、長さ3 mm。
 【分布】国内では本州、九州に分布するが、非常にまれ。国外では中国中部にも分布。県内では紀州の湿地1か所から記録されている。
 【現況・減少要因】現在、マニアによる採取とニホンジカの食害により減少傾向にある。また生育地周辺まで土地造成が進んでおり、さらに自生地自体の埋め立て計画もあり、絶滅が懸念されている。
 【保護対策】生育地の環境が劣化するなか、周辺の地域を含めて、保全のための施策が求められる。
 【特記事項】三重県指定希少野生動植物種。

(山本和彦)



三重県 2025	CR
三重県 2015	CR
環境省 2020	CR

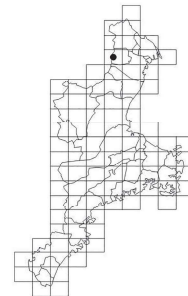
コタヌキラン

被子植物 カヤツリグサ科

Carex doenitzii Boeckeler

【選定理由】既知の生育地点数は1。生育地の個体数はおよそ50未満である。
 【種概要】山地の岩上や草地などに生える多年草。葉は幅3~5 mm、裏面はやや粉白色を帯びる。小穂は2~3個つく。雌鱗片は濃赤血色。6~7月に熟す。タヌキランという和名はその花穂をタヌキの尾に見立てたもの。
 【分布】国内では北海道、本州（中北部、近畿地方）、屋久島に分布。県内では菰野町に生育する。
 【現況・減少要因】岩場に生育する。乾燥しているように見えるが岩場からは水がしみ出ている。風水害による生育地の崩壊が考えられる。
 【保護対策】登山道整備の際には、崩壊しないように管理する必要がある。

(山脇和也)



三重県 2025	CR
三重県 2015	CR
環境省 2020	—

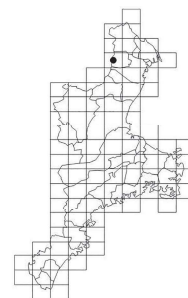
コウヤハリスゲ

被子植物 カヤツリグサ科

Carex koyaensis J.Oda et Nagam. var. *koyaensis*

【選定理由】既知の生育地点数は1。個体数は50未満。新産地が期待される。
 【種概要】明るい林内や林縁の小湿地に生える多年草。ハリスゲ類でハリガネスゲやヒカゲハリスゲに似るが、長い根茎を引くことが大きな特徴である。葉は0.8~2 mmで柔らかい。花穂は長さ4~6 mm、雄花部は極短く2~3花、雌鱗片は卵形で1.3~1.6 mm、4~6花をつける。果胞は長さ2~2.3 mm、卵形~広卵形で先は嘴状、脈は不明瞭である。固有種。
 【分布】本州（福井県、三重県以西）。県内では現在のところ、唯一菰野町の山地で記録されている。
 【現況・減少要因】生育環境に変化がなく、比較的安定した生育状況にあるが、多少シカの食害が認められる。
 【保護対策】生育環境の維持とシカ防護柵の設置が必要である。
 【特記事項】2008年に新種記載された。基準産地は和歌山県高野山。

(市川正人)



三重県 2025	CR
三重県 2015	CR
環境省 2020	—

ヌカスゲ

被子植物 カヤツリグサ科

Carex mitrata Franch. var. *mitrata*

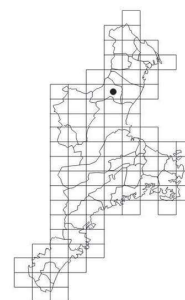
【選定理由】既知の生育地点数は1であり、個体数は250未満である。周辺県では比較的多いが本件では極端に少ない。

【種概要】林縁の草地に生える多年草。叢正して株を作り、走出枝は出さない。高さは約10~30 cm。葉は幅1.5~2 mm。小穂は花茎の上部に3~4個着くが、根元にも着くことも多い。変種関係で類似のノゲヌカスゲとは雌鱗片に芒がないことなどで区別される。

【分布】本州（福島以南）、四国、九州、対馬。県内では亀山市。国外では朝鮮、中国。

【現況・減少要因】個体数は少ないが維持されている。道路の拡幅工事や民家の石垣改変が懸念される。

(市川正人)



三重県 2025

CR

三重県 2015

—

環境省 2020

—

ビロードスゲ

被子植物 カヤツリグサ科

Carex miyabei Franch.

【選定理由】既知の生育地点数は1。個体数は250未満である。

【種概要】砂質の湿地に生える多年草。長い地下茎があり、わずかに叢生する。基部の鞘は帯紫色で網状繊維に分解する。葉は幅4 mm内外、花茎は70 cmに達する。小穂は離れて着き、上部の2~3個は雄性、下部の側小穂の多くは雌性である。果胞は長さ4 mm内外で密毛があり、鱗片よりやや長い。固有種。

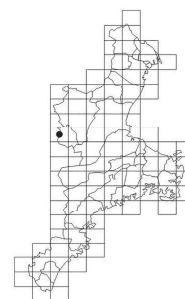
【分布】北海道、本州、九州。県内では名張市。

【現況・減少要因】洪水による河畔の荒廃が懸念される。

【保護対策】生育環境の保全と個体の保護を要する。

【特記事項】近畿地方全体でも少ないスゲである。

(市川正人)



三重県 2025

CR

三重県 2015

—

環境省 2020

—

オオクグ

被子植物 カヤツリグサ科

Carex rugulosa Kük.

【選定理由】既知の生育地点数は1であり、植生の遷移や埋め立てにより失われる可能性がある。

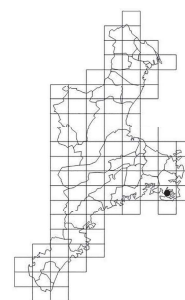
【種概要】沿岸域の湿地に生え、茎は高さ40~70 cmに達し、5~7月頃果実が熟す。果胞の形態はシオクグやコウボウシバに似ている。基部の葉鞘は葉身がなく濃赤色の部分がある。

【分布】朝鮮半島、中国東北部、ウスリー。国内では北海道、本州、九州。県内では志摩市に生育する。

【現況・減少要因】道路工事や建物によって、生育地の湿地が周囲から少しずつ埋め立てられている。また植生の遷移に伴い大型の植物に被陰され、個体数が減少している。

【保護対策】生育地の湿地ではかつてアンペライを刈り取って盛んに利用していたが、利用の減少に伴い植生の遷移が進行した。このため地元住民と行政によって、希少な湿地植生の保全を目的とした植物の刈り取りと、アンペライの継続的な利用の試みが始まっている。

(加田勝敏・半田俊彦)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

NT

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ツクシナルコ

被子植物 カヤツリグサ科

Carex subcernua Ohwi

【選定理由】既知の生育地点数は5以下。これらのうち2か所は、ニホンジカの食害によりここ10年以上生育が確認されていない。残りの自生地もニホンジカの食圧が高く、消滅寸前の状況である。

【種概要】湿地に生える多年草。茎は高さ40~60 cm。5~6月に熟す。果胞に隆起した脈があることによって、よく似た種のアゼナルコスゲと識別できる。

【分布】国内では紀伊半島、四国、九州に分布。県内では紀州地域から記録されている。

【現況・減少要因】紀州地域に点在する湿地にまれにみられる。これらの自生地の中には、ニホンジカの食害で個体数が減少しているところや、埋め立て計画のある湿地もある。

【保護対策】県内でも限られた生育地に対して、すみやかに保護の網をかぶせる必要がある。またニホンジカの食害については、近年いろいろな地域で問題となっている。今後、個体数を調節する手だても必要かと思われる。

【特記事項】三重県指定希少野生動物植物種。

(山本和彦)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

EN

クロハリイ

被子植物 カヤツリグサ科

Eleocharis kamtschatica (C.A.Mey.) Kom. f. *reducta* Ohwi

【選定理由】既知の生育地点数は2であり、各生育地の個体数は50未満である。

【種概要】海岸近くの湿地に生える多年草。稈は細く、高さ15~50 cm、径1 mm位。花は7~10月。穂は狭卵状披針形、先はやや尖り、長さ0.7~2 cm、濃い紫褐色。柱頭は2個、果実はレンズ状。

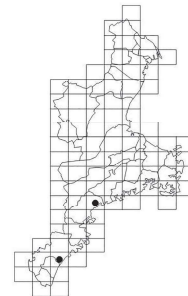
【分布】国外では千島列島、中国東北部、朝鮮半島。国内では北海道、本州、九州に分布。県内では紀北町と熊野市の沿海地の湿地から報告されている。

【現況・減少要因】両生育地とも今のところ埋め立て等の開発計画はなく、生育地は現状のまま維持されている。しかし、紀北町ではここ数年来、カワウの糞により水辺の木々が白くなり、水質の富栄養化が進行している。またニホンジカの食害も目立っており、これらの影響が懸念される。

【保護対策】カワウの糞害およびニホンジカの食害を除去する必要がある。また生育地周辺の河川改修や海岸部の開発にも十分な注意が必要である。

【文献】26。

(山本和彦)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

—

オオヌマハリイ (ヌマハリイ)

被子植物 カヤツリグサ科

Eleocharis mamillata H.Lindb. var. *cyclocarpa* Kitag.

【選定理由】既知の生育地点数は1であり、個体数は100未満しかない。

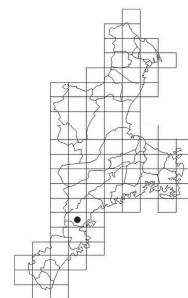
【種概要】湿地に群生する多年草。長く横に這った走出枝がある。茎は高さ30~70 cm、円くて平滑、やわらかくつぶれやすい。花は7~10月。穂は柱状で茎より少し幅広く長さ1~3 cm、幅3~6 mm、先は鈍い。

【分布】国内では北海道、本州、九州。国外では朝鮮半島、ウスリー、中国(東北)に分布。県内では今のところ紀北町1か所のみ分布する。

【現況・減少要因】紀北町の小河川に自生する。本来北方系の植物である本種が、紀伊半島南部の低地に隔離分布することは貴重である。生育地周辺は、ナガエミクリやフサモ、セキシウモ等の水草類やタコノアシも多産し、郷土を代表する貴重な水辺空間となっている。

【保護対策】自生地の小河川は今のところ開発はされていないが、埋め立てが間近まで迫っている状況がある。

(山本和彦)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

—

ヤリテンツキ

被子植物 カヤツリグサ科

Fimbristylis ovata (Burm.f.) J.Kern

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

藓苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

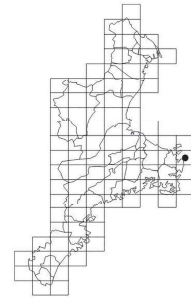
VU

NT

DD

【選定理由】既知の生育地点は1か所である。
 【種概要】海岸沿いの日当たりの良い草地に生える多年草。有花茎は高さ15～40 cm。葉は茎よりも短い。小穂は普通1個つき、黄緑色で卵形でやや扁平。秋に熟す。
 【分布】本州（三浦半島、紀伊半島）、九州、南西諸島。国外では朝鮮半島南部、台湾、中国南部、マレーシア、インドネシア、インド、オーストラリア、アフリカ。県内では鳥羽市の菅島で生育が確認された。
 【現況・減少要因】荒れた山道のそばに数株あり絶滅寸前の状態であったが現在は確認されていない。絶滅した可能性が強い。
 【保護対策】遊歩道整備をするときがあれば、存在を確認して残さなければならない。

(山脇和也)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

NT

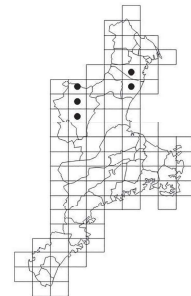
オオイヌノハナヒゲ

被子植物 カヤツリグサ科

Rhynchospora fauriei Franch.

【選定理由】既知の生育地点数は5以下であるが、現存が確認できるのは1か所。生育地の個体数は50未満である。
 【種概要】叢生する多年草。茎は針金状で立ち、高さ40～60 cm。花期は7～10月。花序上部はつまった散房花序であるが、2～3個は離れて着き、密に多数の小穂をつける。イヌノハナヒゲによく似ているが、刺針状花被片は果実の3～4倍の長さがあり、まばらに下向きにざらつく。
 【分布】国内では北海道、本州、九州の湿地に生え、北方を好む。県内では四日市市、鈴鹿市および伊賀地域の湿地で記録されている。
 【現況・減少要因】四日市市や鈴鹿市での生育は確認できない。伊賀地域で1か所生育箇所があったが、現況不明である。湿地は残っているので、環境の変化（乾燥化）や遷移が減少の要因と考えられる。
 【保護対策】湿原を保護し、一定の水分量の保持や遷移を止める管理が必要である。

(山脇和也)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

—

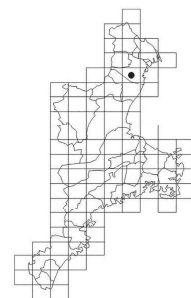
ミクリガヤ

被子植物 カヤツリグサ科

Rhynchospora malasica C.B.Clarke

【選定理由】既知の生育地点数は1で、個体数は100未満である。
 【種概要】湿地に生育する多年草。短い匍枝がある。茎は高さ40～90 cm、中央より上に葉をつける。葉は幅0.5～1.0 cmで線形。頭状花序は球形で無柄、苞の葉腋に2～5個つける。
 【分布】国内では本州（東海地方、近畿地方南部、中国地方）、九州、沖縄。国外では台湾、マレー半島などに分布。県内では、四日市市西坂部町の御池沼沢で生育が確認されている。
 【現況・減少要因】御池沼沢のものが県内唯一の個体群で、その存続は危機的な状況にある。圃場整備（湿田の乾田化）などにより生育環境が劣化した。
 【保護対策】国指定天然記念物「御池沼沢植物群落」の構成種であるが、指定区域の個体群は貧弱で、その保護増殖が急務である。近年、三重県により、保護対策として極近隣に移植を試みた。その後の生育状況は順調である。

(武田明正・市川正人)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

EN

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ツクシカンガレイ

被子植物 カヤツリグサ科

Schoenoplectiella multiseta (Hayasaka et C.Sato) Hayasaka

【選定理由】既知の生育地点数は1のみ。非常にまれな植物と考えられ、生育環境である溜池の安定的な存続が難しいという全国的な状況から、CRと判定した。

【種概要】カンガレイに似るが、根茎が長く横走り、節間は10~25 mm。稈は根茎に1.5~5 cmの間隔で単生する。小穂は長さ7~11.5 mm、刺針は長さ3~10 mmで瘦果長の半分からわずかに長い。有花茎の先端につく苞が近縁他種に比べて著しく短いことがよい区別点である。

【分布】国内では本州（福井県、京都府、山口県）、九州。県内では名張市に分布。

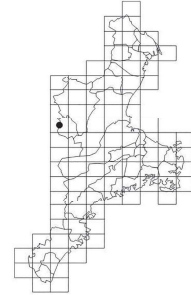
【現況・減少要因】不明。

【保護対策】自生地の開発（溜池の埋め立て）規制および水質の維持。

【特記事項】2004年に記載されたばかりで、まだ分布の実態や生態などがよくわかっていない。県内での分布は2005年に市川正人氏によって採集された標本によってはじめて明らかになった。標本は京都大学総合博物館に保管されている。

【文献】23.

(藤井伸二)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

—

シンジュガヤ

被子植物 カヤツリグサ科

Scleria levis Retz.

【選定理由】確実な既知の生育地点数は5以下であるが、現存が確認できるのは1か所である。

【種概要】多年草で、短い木質の根茎がある。分花序は大きく、長さ4~8 cm、果実は平滑で格子紋は不明である。果実が丸くて、真珠に感じが似ているのでこの名がある。7~10月に熟す。

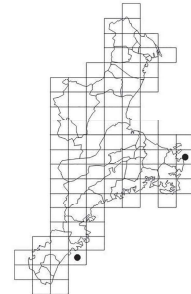
【分布】国外では中国（本土、台湾）からマレーシア、インド、ミクロネシア、オーストラリア。国内では本州（伊豆七島、紀伊半島）から沖縄に分布。県内では鳥羽市、熊野市で記録がある。

【現況・減少要因】もともと生育地が少ない。湿地の開発によって減少したものであると思われる。

【保護対策】生育地である湿地全体の保全が重要である。

【特記事項】熊野市産（1956年）、鳥羽市産（1937年）の標本は京都大学総合博物館に保管されている。

(後藤稔治・岡田峰尚)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

—

ミズタカモジ

被子植物 イネ科

Elymus humidus (Ohwi et Sakam.) A.Löve

【選定理由】既知の生育地点数は1であり、個体数も少ない。

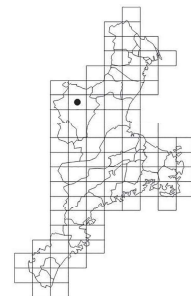
【種概要】水田の畦や溝の周辺および休耕田に生える多年草。稈は叢生、基部が横に這い、先が立ち上がる。高さ30~60 cm。花期はカモジグサより早く5月頃、花後茎が倒伏して先に小苗を生ずる。小穂は花軸に圧着する。

【分布】本州（福島県以南）から九州にかけて分布する。県内では、唯一伊賀市で近年になり発見された。

【現況・減少要因】休耕田が近くにあり、さらに周囲の田が放棄されると雑草が生い茂り生育できなくなる。

【保護対策】生育地周辺の水田が今後も継続して耕作されることが大切である。

(南 正祝)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

VU

ウンヌケ

被子植物 イネ科

Eulalia speciosa (Debeaux) Kuntze

【選定理由】既知の生育地点数は5であり、個体数は少なく生育地は不安定である。

【種概要】草地に生える大形の多年草。稈は叢生して高さ80~120 cm。稈の基部は黄褐色の毛が密生する葉鞘に囲まれる。花期は8~10月、葉より高い茎の頂に数本の細長い花穂をほぼ掌状につけて一方に傾き、密に多数の小穂をつける。小穂は双生し、1個は無柄、他は有柄。披針形で1花からなり、苞穎には黄褐色の長毛を生じ、護穎には濃黄褐色で長い芒があり、総苞毛は著しいが苞穎より短い。総には関節があって熟すると折れて脱落する。

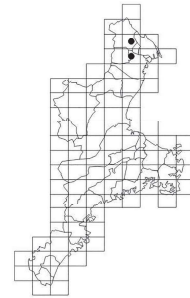
【分布】国内では本州（静岡県以西）、四国、九州、国外では朝鮮半島、中国、タイ、インドの暖温帯。県内では桑名市、四日市市に分布する。

【現況・減少要因】丘陵地や山地の日当たりの良い草地に生育するが、開発または人的管理不足による植生遷移の進行によって減少している。

【保護対策】生育地の開発を抑止する。また生育地の定期的な草刈りにより草地植生の維持管理を行うことが必要である。

【特記事項】近似種ウンヌケモドキは、稈の基部が赤褐色を帯び、葉鞘には黄褐色の毛を密生しない。

(葛山博次)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

VU

ヒゲシバ

被子植物 イネ科

Sporobolus japonicus (Steud.) Maxim. ex Rendle

【選定理由】既知の生育地点数は5以下。1949年（伊賀市）に確認以降の記録はないが、生育の可能性が期待されるためCRとした。

【種概要】湿地に生える高さ5~25 cm、根元で分枝する単生の1年草。葉は狭い披針形で長さ2~7 cm、縁には硬い長毛がまばらに生える。花序は線形で長さ3~7 cm、8~10月に開花・結実する。

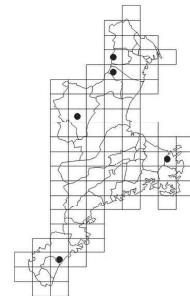
【分布】本州から九州。県内では菰野町、鈴鹿市、伊賀市、伊勢市、熊野市に記録がある。国外では朝鮮、中国。

【現況・減少要因】1949年以降の生育は未確認であり情報もないが、目立たない種であり、生育が期待される。

【保護対策】少なくともかつての生育地環境を保全したい。

【特記事項】標本は三重総合博物館および三重県立上野高校に収蔵されている。

(加田勝敏・市川正人)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

—

コバノリュウキンカ

被子植物 キンポウゲ科

Caltha palustris L. var. *nipponica* H.Hara f. *pygmaea* (Makino) Ohwi

【選定理由】既知の生育地点数は2。個体数は50未満で少なく植物体は小さいがシカの食害を受け激減していること、また園芸採取の痕跡もあることでCRとした。

【種概要】山地の水湿地に生える多年草。根出葉は長さ・幅ともに3~5 cmの心形~腎形で茎葉は小さく鈍鋸歯縁である。花茎は高さ約10~15 cmで直立、または斜上する。径1.5 cmほどの黄色い（萼の色）花を5~7月に咲かせる。固有種。

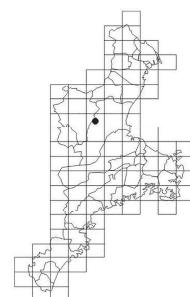
【分布】本州。県内では津市、伊賀市で記録されている。

【現況・減少要因】シカ食害や園芸採取が認められるが、生育環境としては比較的安定している。植生遷移、シカ食害、園芸採取などが減少要因。

【保護対策】現在の生育環境を維持し、湿地開発をしないことである。風車増設が進行しているが、自然に配慮した調和ある計画を切望する。

【特記事項】リュウキンカやエンコウソウに似ているが、花を含めて全体的にかなり小形である。なお、県内には植栽を除いてリュウキンカ、エンコウソウは分布しない。

(市川正人)



三重県 2025

CR

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

(写真：津市、2012年)

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

藓苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蕨類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

コウヤハンショウヅル

被子植物 キンポウゲ科

Clematis obvallata (Ohwi) Tamura var. *obvallata*

【選定理由】 既知の生育地点数は5以下で、およそ50未満の個体数しかない。
【種概要】 ハンショウヅルに似るが、花柄の小苞より先の部分が短くて小苞が花のすぐそばにくる。小苞は大きく、長さ13~20 mm、広楕円形~倒卵形。萼片は紫褐色。

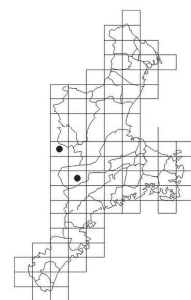
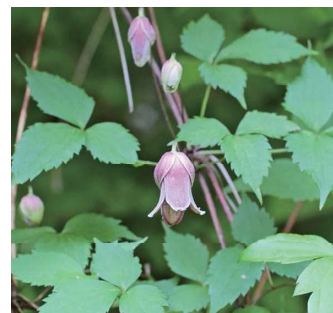
【分布】 紀伊半島の山地に分布する。県内では、名張市赤目溪谷および台高山系からの記録がある。

【現況・減少要因】 県内での確実な生育地は、2ヶ所のみで個体数は少ないが、開花個体も見られる。

【保護対策】 赤目溪谷は室生赤目青山国定公園に指定されている。そのため森林伐採等大きな開発行為はないが、遊歩道の整備やマニアによる採取で溪谷内の貴重な植物がいくつか減少している。本種も、不注意で消失してしまわないよう注意が必要である。一方、台高山系の自生地は林道整備や森林伐採等で消滅する危険性があり、注意が必要。

(山本和彦)

(写真：松阪市，2019年，池田博撮影)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

CR

オキナグサ

被子植物 キンポウゲ科

Pulsatilla cernua (Thunb.) Berchtold et J.Presl

【選定理由】 既知の生育地点数は6以下であるが、最近の情報が皆無に近く、ごく近い将来に絶滅の危険性がきわめて高い。

【種概要】 日当たりのよい草地に生える多年草。4~5月頃10 cm前後の花茎を出して、暗紫色の鐘形花を下向きに開く。果実は多数が球状に集まってつき、花柱は伸長して長さ3 mmの白毛を密生する。名の由来は果実の状態による。

【分布】 朝鮮半島，中国の暖帯から温帯。国内では本州から九州。県内では伊賀市（1921~1956年），名張市（1956年），津市（1914年），松阪市（1974年）で記録がある。

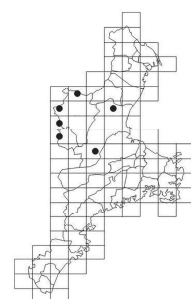
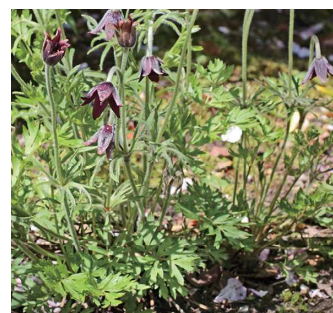
【現況・減少要因】 ススキ草原の火入れ，草刈等の管理作業がなくなり，高茎草本ばかりの草原になり，枯れ草が集積して富栄養化が促進されたために，本種を含めた草丈の低い草本が生育できなくなった。

【保護対策】 既知の生育地において，何らかの要因で裸地化や低茎草原が復活すれば，埋土種子からの発芽が期待される。また，ススキ草原の管理がなされれば復活することが期待される。

【特記事項】 標本は三重県総合博物館，三重県立上野高校に収蔵。

(加田勝敏)

(写真：北勢町（植栽），2019年，池田博撮影)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

VU

バイカモ

被子植物 キンポウゲ科

Ranunculus nipponicus Nakai var. *submersus* H.Hara

【選定理由】 旧県カテゴリーでは絶滅（EX）としていたが，2016年に菰野町で生育が確認された。

【種概要】 小川や湧水池などの冷水を好む沈水性の多年草。和名は「梅花藻」の意。花期は春から秋，ときには冬で，5枚の花弁をもつ直径約1.5 cmの白い花を付ける。

【分布】 日本固有種。国内では北海道，本州。県内では伊賀市に標本記録，桑名市他に文献記録があり，かつては桑名から鈴鹿にかけて自生していたと考えられる。

【現況・減少要因】 湧水量の減少・枯渇が考えられる。

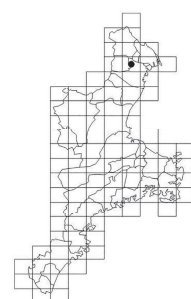
【保護対策】 生育地の流水量の確保と低水温の維持に努める必要がある。

【特記事項】 自生の可能性の他，他県からの移入の可能性もある。

【文献】 85，152，161。

(中 優・福田知子)

(写真：菰野町，2016年，市川正人撮影)



三重県 2025

CR

三重県 2015

EX

環境省 2020

—

ヒキノカサ

被子植物 キンポウゲ科

Ranunculus ternatus Thunb var. *ternatus*

【選定理由】 既知の生育地点数は5以下であり、開発圧が強い。

【種概要】 河口周辺の湿地に自生する茎の高さ10~20 cmの多年草。根元から数個の紡錘状の太った根と細い根ができる。花期は4~5月。

【分布】 国内では関東以西の本州（埼玉，静岡，岡山，三重，大阪），四国（徳島，香川），九州，沖縄。県内では中勢地域（津市美杉町），南勢地域（伊勢市，志摩市），紀州地域（熊野市，御浜町）に分布。

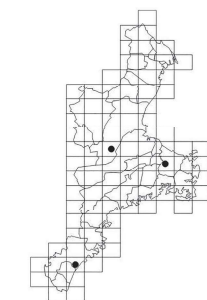
【現況・減少要因】 生育地は河口部に多く、増水による長期間の水没があれば絶滅のおそれがある。紀州の自生地では河川の増水で上流域の水田，家屋への被害が毎年あり，河川工事が行われている。

【保護対策】 紀伊半島ではきわめて重要な自生地であり，河川改修や開発による影響を防止し現状を保護しなければならない。

【特記事項】 三重県指定希少野生動物植物種。

(花尻 薫)

(写真：御浜町，2014年，山本和彦撮影)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

VU

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

苔苔類

藻類

キノコ

タマカラマツ

被子植物 キンポウゲ科

Thalictrum watanabei Yatabe

【選定理由】 既知の生育地点数は5以下である。

【種概要】 ミヤマカラマツに似るが，岩上に生え，全体が小さく，無毛で高さは20~30 cm，ミヤマカラマツでは花柱は短く0.5 mm程度であるが，本種では柱頭も含めて1~1.5 mm。また，根は球状または紡錘状にふくれ，匍枝はない。花期は6~8月。

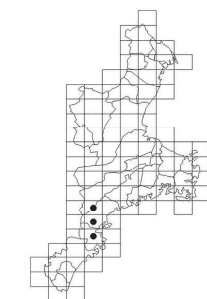
【分布】 国内では本州（近畿地方，静岡県，愛知県），四国，九州。県内では尾鷲市（1934年）と大台町大杉谷（1956年，1966年）で古い記録がある。2009年に大台ヶ原での生育が確認された。

【現況・減少要因】 大台ヶ原頂上稜線付近の樹林内の岩地や大杉谷に生育する。環境の変化（伐採や台風などによる被害）により，減少する可能性がある。園芸目的で採取されれば消滅の可能性もある。

【特記事項】 標本は三重県総合博物館，京都大学総合博物館に保管されている。

(山脇和也)

(写真：大台町，2018年，池田博撮影)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

VU

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ベニバナヤマシャクヤク

被子植物 ボタン科

Paeonia obovata Maxim.

【選定理由】 既知の生育地点数は5以下であり，採取圧が強い。

【種概要】 温帯の落葉広葉樹林下や林縁の草地などに生える多年草。高さ40~60 cm。葉は2回3出複葉。花は淡紅色，茎の先端に1個つき径4~5 cm，5月に咲く。めしべの柱頭は強く外に曲がる。葉の裏面には毛があるが，毛のないものをケナシベニバナヤマシャクヤクという。

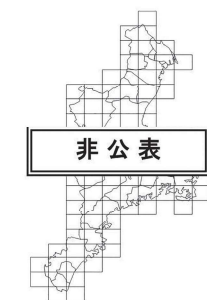
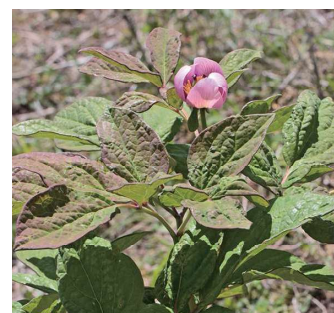
【分布】 国内では北海道，本州，四国，九州。国外では朝鮮半島，中国（東北），樺太に分布。県内では中勢地域からの記録がある。

【現況・減少要因】 県内の分布は，今のところ中勢でしか確認されておらず，個体数もわずかである。園芸目的の採取により危機的な状況にある。

【保護対策】 山野草愛好家による乱獲の被害をなくすことは難しい。生育地の公表は避けるべきである。

(山本和彦)

(写真：津市，2019年，池田博撮影)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

VU

非公表

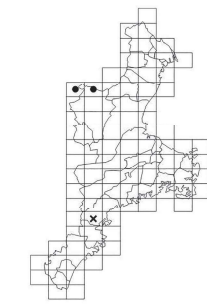
哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蕨類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

マルバノキ

被子植物 マンサク科

Disanthus cercidifolius Maxim.

【選定理由】既知の生育地点数は3で、個体数は少ない。
 【種概要】高さ2～3mの落葉低木。葉身は円心形、長さ5～10cm、幅6～11cm、先は短くとがり、基部は心形。花期は10～11月、長さ3～4mmの花柄の先に2個の花をつける。花弁は暗赤色で長さ約6mm。
 【分布】日本固有種。本州（中部地方以西）、四国の日当たりのよい岩地に分布。県内では伊賀市、紀北町の標本記録がある。
 【現況・減少要因】伊賀市のもは2地点で確認されている。一方、紀北町では、銚子川上流の溪流沿いの岩場で1975年に発見されているが、1980年頃、投棄された土砂のため埋没枯死。自生地を含む溪流は台高山系を源とする溪谷の一部で、奥が深い。したがって今後の精査により生育地周辺で発見される可能性は高い。
 【保護対策】本種の自生が予想される谷筋等での治山工事では、生育地を破壊しないような配慮が必要である。
 【文献】57.



三重県 2025
CR
三重県 2015
CR
環境省 2020
—

(山本和彦)

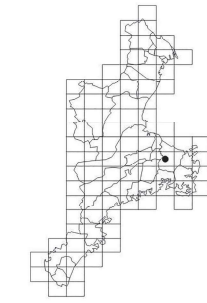
(写真：紀北町，1975年，山本和彦採集，三重県総合博物館所蔵)

トキワマンサク

被子植物 マンサク科

Loropetalum chinense (R.Br.) Oliv.

【選定理由】既知の生育地点数は1。個体数は20以下で、老木化している。
 【種概要】高さ3～6mとなる常緑小高木。葉はやや厚く、葉身は卵形または楕円形、長さ1.5～4cm、幅0.8～2cm。花は4月末～5月開花、黄白色。
 【分布】国内では三重県、熊本県、静岡県。国外では台湾、中国大陸中南部、ヒマラヤ東部。県内では伊勢市に分布。
 【現況・減少要因】生育地周辺は神宮林として管理されているため、開発等の心配はない。しかし一部の個体は自然災害により風倒した。
 【保護対策】生育地での健全な世代交代を促す対策が必要である。
 【特記事項】全国の既知の生育地点数は3、静岡県湖西市が本種の北東限となる。栽培され庭木として植栽されているものは多い。



三重県 2025
CR
三重県 2015
CR
環境省 2020
EN

(岡 与一・半田俊彦)

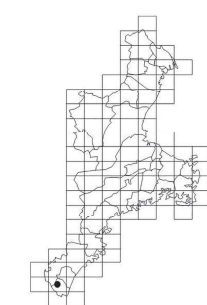
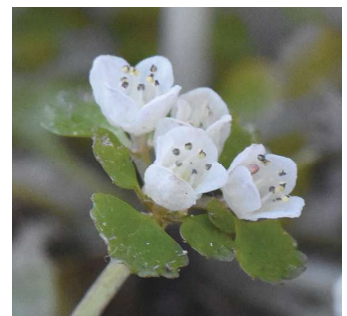
(写真：伊勢市（植栽），2010年，池田博撮影)

キイハナネコノメ

被子植物 ユキノシタ科

Chrysosplenium album Maxim. var. *nachiense* H.Hara

【選定理由】既知の生育地点は1か所である。個体数は少ない。
 【種概要】水の流れ落ちる滝の周辺の様な所に生育する。ハナネコノメに似るが、萼片は円頭形で短く、準直立。雄しべは萼片より短い。花糸は白色で、裂開前の葯は暗赤紫色。
 【分布】日本固有種。本州紀伊半島。三重県では2013年に紀宝町で確認された。
 【現況・減少要因】今の所、紀宝町の林道のそばの水の流れ落ちる斜面のみである。台風の後の出水や洪水、林道の改修工事などで、消滅の可能性がある。よく調べれば、生育場所が存在するかもしれない。
 【保護対策】林道の改修工事などの時、注意を要する。
 【文献】183.



三重県 2025
CR
三重県 2015
CR
環境省 2020
—

(山脇和也)

(写真：紀宝町，2023年，山本和彦撮影)

チャボツメレンゲ

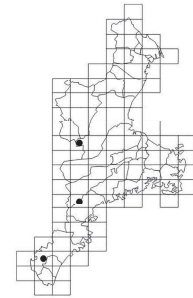
被子植物 ベンケイソウ科

Meterostachys sikokianus (Makino) Nakai

- 【選定理由】 既知の生育地点数は5以下であり，採取圧が強い。
- 【種概要】 きわめて限定された岩石の上の蘚苔類などに混じり，点在して自生する。根茎が短く，先端にロゼットをつくる。ロゼット状の葉は円柱状線形。長さ7～12 mm。花期は7～9月で紅白色を帯びる。
- 【分布】 国内では紀伊半島（奈良，三重），四国，九州。県内では伊賀地域（名張市），南勢地域（大台町），紀州地域（熊野市，御浜町）に分布。
- 【現況・減少要因】 大台町，紀州地域では現存するが，名張市の生育地は70年前の記録であり現状は不明。園芸目的の採取が懸念される。
- 【保護対策】 生育地での採取防止策として，定期的な調査が必要である。

(花尻 薫)

(写真：大台町，2022年，山本和彦撮影)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

VU

アズマツメクサ

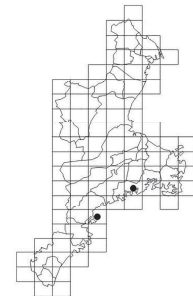
被子植物 ベンケイソウ科

Tillaea aquatica L.

- 【選定理由】 既知の生育地点数は2であり，生育地間の個体の交流はない。
- 【種概要】 水田や海浜泥地に生える1年草。高さ2～5 cm。茎は基部で分枝し束生する。葉は線状披針形で，鋭頭，長さ約5 mm，幅約1 mm。花期は4～8月。花は4数性，長さ1.5 mmほど，茎の上部葉腋に単生し，柄はない。
- 【分布】 国内では北海道，本州，国外では北半球の温帯に分布。分布は広いが，近年激減している種である。県内では南伊勢町と尾鷲市の2地点からのみ記録がある。
- 【現況・減少要因】 南伊勢町，尾鷲市のいずれも海跡湖の岸辺で，2005年に発見されている。現環境が維持されれば持続していくものと思われる。両生育地とも今のところ開発計画はない。
- 【特記事項】 県内の海跡湖周辺は，海辺の塩湿地と淡水の湿地生の植物が混在し，興味深い植物相となっている。県内すべての海跡湖の現況を把握し，保全策を講じることが急がれる。
- 【文献】 144。

(山本和彦)

(写真：南伊勢町，2009年，池田博撮影)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

NT

ヤマブドウ

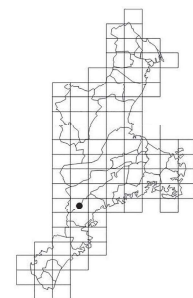
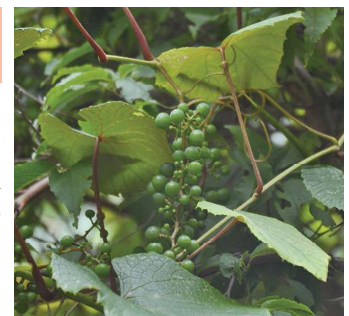
被子植物 ブドウ科

Vitis coignetiae Pulliat ex Planch.

- 【選定理由】 既知の生育地点数は5以下であり，個体数は50未満である。
- 【種概要】 山地の林縁や沢沿いに生える落葉蔓性，巻きひげで他に絡み，這い上がる木本である。樹皮は濃褐色で縦に裂け，枝は褐色～帯赤褐色でまばらに毛が生える。葉は互生し，長さ約10～30 cmの五角状心円形，縁に浅い鋭鋸歯がある。裏面には密に赤褐色のくも毛がある。葉柄は約20 cm。雌雄別株で花期は6～7月。液実は10月頃に熟す。
- 【分布】 北海道，本州，四国。県内では大台町。国外では南千島，サハリン，ロシア東部。
- 【現況・減少要因】 果実のサル食害による減少。

(市川正人)

(写真：大台町，2015年，山本和彦撮影)



三重県 2025

CR

三重県 2015

—

環境省 2020

—

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ

EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

イヌハギ

被子植物 マメ科

Lespedeza tomentosa (Thunb.) Sieb. ex Maxim.

【選定理由】 既知の生育地点数は5以下であり、生育条件が明らかに悪化し個体数は減少している。

【種概要】 多年草。高さ150 cm、茎はやや木化している。花は枝先に多数つき、黄白色、長さ1 cm程度。葉は互生し、3個の楕円形の小葉からなり、中央の頂小葉は長さ3~6 cm。植物全体に黄褐色の軟毛がある。花期は7~9月。開放花はほとんど結実しないが、閉鎖花が総状花序の基部ときに先端に生じ、無柄、おしべの痕跡がありよく結実する。

【分布】 国内では本州、四国、九州、沖縄、国外では東シベリア、中国、台湾、インド、ヒマラヤの熱帯から冷温帯。県内では孤野町、津市、伊賀市、名張市などに分布する。

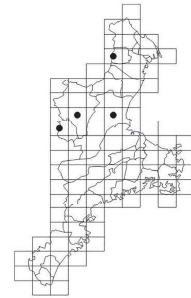
【現況・減少要因】 本種の生育環境は、丘陵地から山地の河川敷やその周辺の日当たりのよい砂地の草地であり、容易に土地の改変が行われ、生育地が消失している。また、河川敷などの多目的利用により生育地が減少している。

【保護対策】 本生育環境となる河川敷の砂地の保全、高水敷にあつては、植生の遷移により退行することのないよう、草刈りなどの人的管理が必要である。

【文献】 69.

(葛山博次)

(写真：名張市，2011年，市川正人撮影)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

VU

オオバクサフジ

被子植物 マメ科

Vicia pseudo-orobus Fisch. et Mey.

【選定理由】 既知の生育地点数は1であり、個体数は50未満である。

【種概要】 山麓や野原に生える多年草。茎は蔓状で稜があり、ほとんど毛はない。小葉は2~5対、洋紙質で長さ2~6 cmで軸の先は巻きひげとなる。托葉は歯牙のある扇形である。8~10月頃、13~15 mmの青紫色の花を開く。果実は無毛扁平で長さ2~3 cm、幅4~5 mm、数個の種子を持つ。

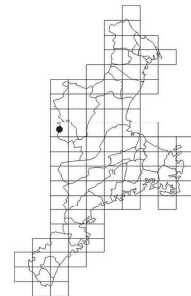
【分布】 北海道、本州、四国、九州。国外ではアジア北東部。県内では名張市だけに記録されている。国外では朝鮮、中国、ウズリー、アムール、ロシア。

【現況・減少要因】 川岸の土手と畦を兼ねた草地に現存する。強度な草刈や護岸工事が減少要因となる。

【保護対策】 適度な草刈を持続し、現在の環境を維持する必要がある。

(市川正人)

(写真：京都府，2013年)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

—

チョウセンキンミズヒキ

被子植物 バラ科

Agrimonia coreana Nakai

【選定理由】 既知の生育地点数は1。個体数はきわめて少ない。

【種概要】 山地草原や高原、林縁に生える多年草。全体に長軟毛が多く、分枝は少ない。葉は奇数羽状複葉で小葉は3~5枚で薄く、菱状卵形で丸味を帯び、鈍鋸歯縁である。托葉は扇形で大きい。花は7~9月で、ヒメキンミズヒキに比べて大きく、雄しべの数が多し。実はヒメキンミズヒキより大きく、キンミズヒキにほぼ同大である。

【分布】 北海道、本州、四国、九州に分布する。県内ではいなべ市北勢町の高所に記録されている。国外では朝鮮、中国、ウズリー。

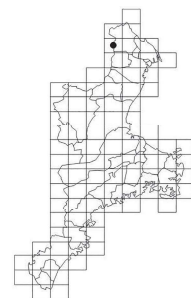
【現況・減少要因】 生育地域ではヒメキンミズヒキが比較的多い中、混生して散在し、個体数はきわめて少ない。登山道沿いに生育するため、踏みつけによる減少が懸念される。

【保護対策】 生育環境の保全、特に踏みつけをできる限り避ける。

【特記事項】 キンミズヒキ、ヒメキンミズヒキに類似する。形態的特徴を総合的にみて同定する必要がある。

(市川正人)

(写真：いなべ市，2012年)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

VU

キンキマメザクラ

被子植物 バラ科

Prunus incisa Thunb. var. *kinkiensis* (Koidz.) Ohwi

【選定理由】既知の生育地点数は5以下であり、個体数もきわめて少ない。

【種概要】日本海側の山地に多く、太平洋側では石灰岩山地の露岩上に生える5~7mになる落葉小高木である。葉は長さ5~6cm、幅2~5cmの倒卵形から広倒卵形で先は尾状に長く伸び、縁には欠刻状の重鋸歯がある。3~5月に白色から淡紅色、径1.5~2cmの花をつける。萼筒は長さ7~10mmで細長く鐘形である。萼片は全縁で縁は有毛。固有種。

【分布】本州（長野県、富山県、石川県、福井県、愛知県、近畿地方、中国地方）に分布。県内ではいなべ市、菰野町で記録されている。

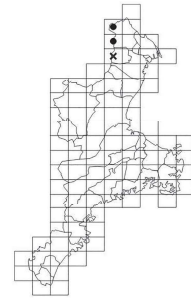
【現況・減少要因】現在、いなべ市北勢町の1地域で確認されている。この生育地では北東斜面に6本、谷間に10本ほどの成木・老木をみるだけである。露出石灰岩上に生育しており崩壊や採石が減少要因となる。

【保護対策】石灰岩採掘が近くまで及んでいる。藤原岳孫太尾根は石灰質で植物相は多様であり、この観点に立った生態系の保全が必要である。

【文献】143.

(市川正人)

(写真：いなべ市，2015年)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

オオヤマザクラ

被子植物 バラ科

Prunus sargentii Rehder var. *sargentii*

【選定理由】既知の生育地点数は2であり、確認している個体数は3個体。

【種概要】大形の落葉樹、樹皮は暗紫褐色、平滑で、横に長い皮目が目立つ。葉身は卵形、楕円形または倒卵状楕円形、上面は濃緑色、わずかに毛を散生するか無毛、下面は粉白色をおび無毛、長さ8~15cm、幅4~8cm。葉柄は無毛、上部に蜜腺がある。花期は4~5月、葉より先に咲き、大型で径3.2~4cmになる。花弁は淡紅色でかすかな芳香がある。

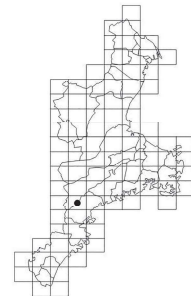
【分布】国内では北海道、本州（近畿以西では分布が局在）、四国（四国山地の高所）、国外では朝鮮半島、中国、サハリンに分布。県内では大台町の高所に生育する。

【現況・減少要因】確認している3個体の内、1個体は斜面の崩壊により危機的な状況。他の2個体は現在のところ健在。ニホンジカやクマによる樹皮剥ぎ等の被害が懸念される。

【保護対策】生育地は国有林で、吉野熊野国立公園に含まれている。

(山本和彦)

(写真：大台町，2017年)



三重県 2025

CR

三重県 2015

—

環境省 2020

—

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

アリマグミ

被子植物 グミ科

Elaeagnus murakamiana Makino

【選定理由】既知の生育地点数は4であり、各地点の個体数は少ない。前回カテゴリーは目視情報のため情報不足（DD）であったが、近年生育が確認された。

【種概要】林縁や林内に生育する。葉は4~8cmの楕円形で、縁は波打つ。若葉の表面は、はじめ淡褐色の星状毛が密生するが後に落ちる。裏面は銀色鱗状毛が密生し、赤褐色星状毛が混じる。花は4~5月、果実は6~7mmで6~7月に熟す。固有種。

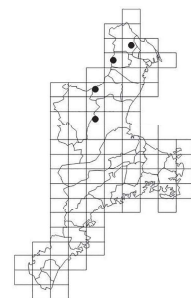
【分布】本州（静岡から近畿）。県内では桑名市、菰野町、亀山市、津市に記録がある。

【現況・減少要因】津市内の青山高原に数個体が生育している。森林伐採時には配慮が必要である。

【保護対策】生育環境の維持管理が必要である。

(市川正人)

(写真：津市，2013年)



三重県 2025

CR

三重県 2015

DD

環境省 2020

—

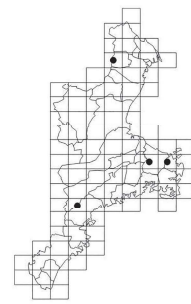
哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

コウヤグミ

被子植物 グミ科

Elaeagnus numajiriana Makino

【選定理由】既知の生育地点数は5以下。個体数は極めて少ない。
 【種概要】山地のやや明るい林下や林縁に生える落葉低木。若枝は赤褐色の鱗状毛で覆われる。葉身は長さ3.5～5 cm、幅1.5～2 cmの楕円状～卵形、質は厚い。表裏ともに鱗状毛であるが、枝の下部では星状毛に移行する。5～6月に下垂した淡黄白色の花を1～2個葉腋につける。萼筒は6 mm弱である。果実は広楕円形で7～8月に熟す。固有種。
 【分布】本州（紀伊半島）、四国。県内では菰野町、津市、伊勢市、熊野市で記録されている。
 【現況・減少要因】県内の記録は上記の通りであるが、少なくとも伊勢市南西部の個体は2011年の標本があり、2.5 mの成木であることから、現在も生育していると思われる。植生遷移と森林伐採が減少要因。
 【保護対策】森林伐採時には注意を払い、移植などで残す方策が必要である。（市川正人）



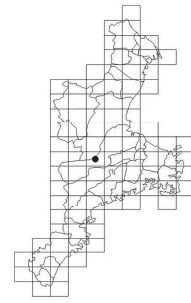
三重県 2025
CR
三重県 2015
CR
環境省 2020
—

ヨコグラノキ

被子植物 クロウメモドキ科

Berchemiella berchemiifolia (Makino) Nakai

【選定理由】既知の生育地点は1。1954年の標本記録はあるが、その後詳細な調査は行われていない。生育地が岩場であることから開発等によって消滅することは考えられないことなどからCRが妥当と評価した。
 【種概要】落葉小高木で高さ10 mほどになる。本年枝は茶褐色で無毛、灰白色の皮目が目立つ。葉は互生、長楕円形～卵状長楕円形で全縁、長さ6～13 cm、幅3～5 cm、裏面は粉白色を帯びる。花は6月頃に咲き、黄色で小さく直径約3 mm、枝先と枝先近くの葉腋から集散花序をだす。
 【分布】国内では本州、四国、九州、国外では朝鮮半島南部に分布。県内では津市からの記録がある。
 【現況・減少要因】不明。
 【保護対策】1954年に採集された標本は三重大学附帯施設演習林に保管されている。（山本和彦）



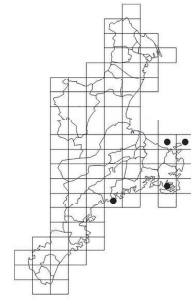
三重県 2025
CR
三重県 2015
—
環境省 2020
—

ラセイトソウ

被子植物 イラクサ科

Boehmeria splitgerbera Koidz.

【選定理由】既知の生育地点数は5以下であるが、現在は1地点のみに生育し個体数は50株未満であることからENからCRへ変更となった。
 【種概要】海岸の崖や岩の間に生える多年草。茎は太く、高さ30～70 cm。葉は広卵状楕円形、厚く表面がラシャの布に似ている。花は7～9月頃、穂状に出る。
 【分布】国内では北海道南部から紀伊半島の太平洋側の海岸に分布。県内では伊勢市、鳥羽市、志摩市、紀北町で記録がある。
 【現況・減少要因】伊勢市、鳥羽市では現在生育を確認できない。紀北町の記録は古く、現況は不明である。減少の大きな要因は、開発による生育地の消滅あるいは海岸の浸食などによる生育環境の悪化である。
 【保護対策】生育環境を保全することがもっとも重要である。（岡 与一・半田俊彦）



三重県 2025
CR
三重県 2015
EN
環境省 2020
—

(写真：志摩市，2018年，山本和彦撮影)

ソハヤキミズ

被子植物 イラクサ科

Pilea sohayakiensis Kitam.

【選定理由】既知の生育地点数は1（生育面積は約10 m²）。200個体ほど生育していたが、軟弱な植物でもあり、減少傾向にある。

【種概要】茎は10 cm以下で葉とともに無毛である。葉は広卵形鈍頭で鈍鋸歯縁、長さ1.2~2.5 cm、葉柄は葉身と同長、互生し茎上部に着く。花は8月、1 cmほどの柄に集散花序をつける。雌雄同株で雄花（花被片4、雄しべ4）と雌花（花被片2）がある。1年草。固有種。

【分布】本州（三重県、和歌山県）、四国（徳島県）、九州（宮崎県）に分布するが、各分布域における生育地点は限られ、個体数も少ない。県内では松阪市に生育する。

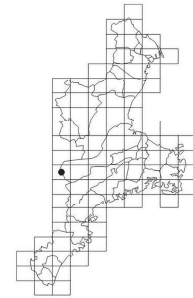
【現況・減少要因】松阪市飯高町が現在のところ唯一の生育地であるが新産地が期待される。乾燥化など生育環境の変化に影響され易い。

【保護対策】生育地の乾燥化に注意しながら現在の環境を維持する。

【文献】12.

(市川正人)

(写真：松阪市，2023年，山本和彦撮影)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

VU

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

フモトミズナラ

被子植物 ブナ科

Quercus crispula Blume var. *mongolicoides* (H.Ohba) Seriz.

【選定理由】既知の生育地点数は1であり、分布がきわめて限定的である。

【種概要】おもに低山地の、乾燥してやせた場所に生える落葉高木。中国大陸などに分布するモンゴリナラと非常によく似ており、かつてはモンゴリナラとされたが、現在ではコナラの亜種とされる。一方で、ミズナラの変種とする見解もある。葉の長さは10~27 cmでミズナラに似る。開花期は4月。堅果は1年成で、開花した年の秋に熟す。堅果はコナラやミズナラのような縦に細長の形状ではなく、その幅に比べて高さは低く約2 cm。

【分布】日本固有種。東海東部と北関東に隔離分布する。県内では桑名市でのみ記録がある。

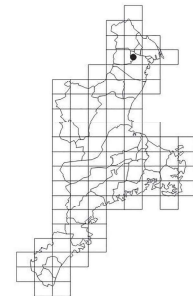
【現況・減少要因】桑名市の1か所のみ。もともと限られた分布をしている上、低地に生育するため、開発・伐採等により減少したと考えられる。

【保護対策】局所的に生育する種のため、現在の生育地の保全が重要である。

【文献】48, 107, 113.

(平山大輔)

(写真：桑名市，2017年，池田博撮影)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

—

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ヤチヤナギ

被子植物 ヤマモモ科

Myrica gale L. var. *tomentosa* C.DC.

【選定理由】既知の生育地点数は1。生育する個体数はおよそ50未満である。

【種概要】湿地に生える落葉低木。高さ30~80 cm。葉は倒披針形から倒卵状長楕円形。長さ2~5 cm、幅0.8~2 cm。先はやや丸く上部に少数の鋸歯がある。基部は楔形。両面に軟毛散生。油点が散在する。隔離分布する種として知られている。

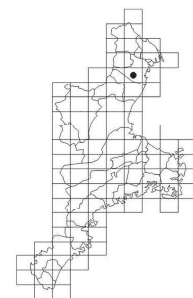
【分布】国内では北海道、本州（三重県以北）、国外では樺太、千島、朝鮮半島北部、東シベリア域。県内では四日市市西坂部町の御池沼沢にのみ生育する。

【現況・減少要因】自生地に隣接した湿田で実施された圃場整備事業と丘陵地の市街地化で湿地への水の供給が減少し、生育地の乾燥化が進んだこと、ならびに遷移の進展により、繁茂する高茎植物の被圧が強まったことにより衰退した。

【保護対策】国指定天然記念物（御池沼沢植物群落）として保護されているが、定期的に植生遷移の進行に伴う被圧を抑制する必要がある。

(武田明正・市川正人)

(写真：四日市市，2002年，山路武夫撮影)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

—

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蕨類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ヒトツバハギ

被子植物 ミカンソウ科

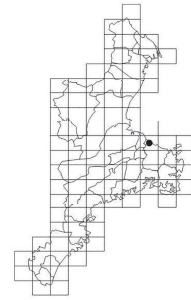
Flueggea suffruticosa (Pall.) Baill.

【選定理由】 既知の生育地点数は5以下であり、個体数は50未満である。
 【種概要】 土手や林縁に生える高さ約1～3mの落葉低木。葉は互生し、長さ2～7cmの長楕円形で全縁、両端は尖り、両面無毛である。花期は6～8月。雌雄別株で葉腋に淡黄緑色の小さな花を着ける。雌花には1cm内外の柄がある。蒴果は3溝のある4～5mmの扁球形である。固有種。
 【分布】 本州（関東、中部以西）、四国、九州。県内では伊勢市。
 【現況・減少要因】 河川の堤や河畔林付近に生育するが個体数は少ない。河川改修に伴う土手の改変に注意をしたい。
 【保護対策】 河川改修時には同環境に移植を試みる。



(市川正人)

(写真：伊勢市，2020年，池田博撮影)



三重県 2025

CR

三重県 2015

—

環境省 2020

—

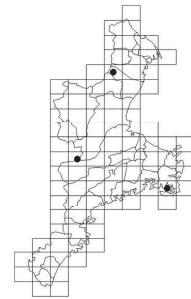
ヤマヤナギ

被子植物 ヤナギ科

Salix sieboldiana Blume var. *sieboldiana*

【選定理由】 既知の生育地点数は5以下。個体数は少ない。
 【種概要】 山地や丘陵に生え、生育環境によって高さ3～4mになり、株立ちする落葉低木。雌雄別株。葉は互生し、葉身は長さ8～14cm、幅2.5～5cmの長楕円形、波状鋸歯がある。葉裏に通常、毛はない。葉柄は1～2cm。花は3月下旬に葉の展開と同時に咲く。腺は雌雄ともに1個、雄しべは1～2本、離生、または合着する。子房には綿毛が密生する。固有種。
 【分布】 近畿以西の本州、四国、九州に分布。県内では亀山市、津市、伊賀市、志摩町で記録がある。
 【現況・減少要因】 少なくとも野登山上部で雌株・雄株あわせて数本の生育を確認している。現在安定した生育状況にあるが、林道整備工事にともなう伐採が減少要因。
 【保護対策】 現在の環境を維持し、林道工事の際には移植を計画することである。
 【特記事項】 近縁種との同定が難しいが、新産地が期待される。

(市川正人)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

—

サクラスミレ

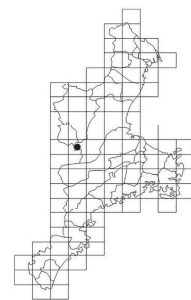
被子植物 スミレ科

Viola hirtipes S.Moore

【選定理由】 既知の生育地点数は1であり、生育地の範囲も狭い。
 【種概要】 山地の明るい草原に生育する多年草。葉は長卵形で長さ3～6cm、長い柄がある。花柄や葉柄の下部には長い軟毛がある。花は淡紅紫色で5月頃咲く、花弁の先は凹む。
 【分布】 国外では朝鮮半島、中国東北部。国内では北海道から九州。県内では伊賀市で記録がある。
 【現況・減少要因】 室生火山群に属する伊賀市の山地で確認されている。しかし、生育環境である明るい草地は減少している。
 【保護対策】 生育地の環境保全のため草刈り等の管理が必要である。

(山路武夫)

(写真：奈良県，2018年，池田博撮影)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

—

アゼオトギリ

被子植物 オトギリソウ科

Hypericum oliganthum Franch. et Sav.

【選定理由】既知の生育地点は10以下。1966年の大台町宮川産の標本記録以降、確認情報がなく、絶滅したと考えられていた。最近になり2地点で新産地が発見されたためCRに搭載された。

【種概要】日当たりのよい湿地に生える多年生草本。茎は叢生し、よく分枝する。葉は無柄でわずかに茎を抱く。葉の全面に明点が散在し、縁には黒点が密に並ぶ。花期は7～9月、花はまばらにつき、直径10～13 mm、果実は丸味を帯びる。

【分布】関東以西の本州、四国、九州。国外では朝鮮南部に分布する。県内では伊賀市、津市、大台町、多気町、伊勢市から記録されている。

【現況・減少要因】伊賀市、津市、大台町からは最近の確認情報は無い。伊勢市では数年前に発見されたが、その後現状不明である。現在確実な自生地は多気町の榑田川水系のみ。河川の増水等の攪乱や定期的な草刈り等により個体群が維持されてきたと考えられる。2015年より行政と地元住民により保全と普及啓発に向けた活動が実施されている。

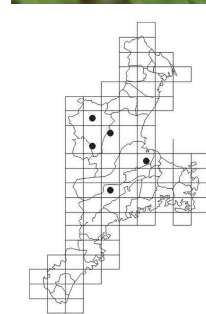
【特記事項】三重県指定希少野生動物植物種。

【保護対策】自生地周辺の現状の保全と定期的な草刈りが必要。

【文献】34, 53, 57, 69, 139.

(山本和彦)

(写真：多気町，2013年，市川正人撮影)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

EN

ヒメキカシグサ

被子植物 ミソハギ科

Rotala elatinomorpha Makino

【選定理由】既知の生育地点数は1。沈水状態で生育するため、総個体数は不明。国内で現存が確認できる唯一の個体群と思われる。

【種概要】水湿地に稀に生育する1年草。県内の自生地では沈水状態で生育する。茎は地面を這い、枝は直立して高さ4～7 cmになる。葉は対生し、倒卵状楕円形～円形、先は円形、無柄、長さ3～10 mm、幅1.5～4 mm。萼筒は短い円筒形で4稜があり、長三角形の4裂片があり、裂片の先は尖る。花後に萼筒が宿存し花柱が約2 mmある点が、萼筒が宿存せずに花柱が約0.5 mmのキカシグサとのよい区別点になる。

【分布】国内では、関東、近畿、四国に分布。県内では、紀北町に分布。

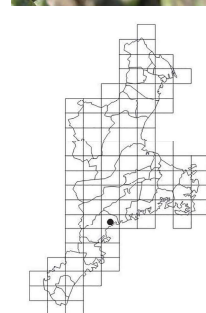
【現況・減少要因】カワウコロニーの形成による水質悪化が著しい。周辺域でのシカによる食害が顕著だが、本種への影響は不明。

【保護対策】これ以上の水質悪化が進行しないように何らかの対策を講じる必要がある。

【文献】16.

(藤井伸二)

(写真：紀北町，2016年，山本和彦撮影)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

CR

ミズスギナ

被子植物 ミソハギ科

Rotala hippuris Makino

【選定理由】既知の生育地点数は10以下であり、各地点の個体数は50未満である。

【種概要】池に生える多年草で、地下茎は細長く横に這う。茎は円形、多くの節があり、分枝する。葉は5～12個輪生し、水中葉は線形で長さ2～3 cm、先は短く2裂する。水上葉も線形で長さ0.5～1 cm、幅0.6～1 mmである。花は白色で、9～10月頃、水上葉の葉腋につける。柄はなく4つの花弁は2浅裂する。固有種。

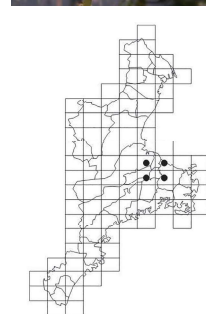
【分布】本州（関東地方から近畿地方南部）、九州に分布。県内では津市、松阪市、明和町、多気町、伊勢市、玉城町の溜池で記録されている。古くは1904年採取・津市河芸町の標本がある。

【現況・減少要因】松阪市内1カ所の生育状況は比較的良好。湖沼開発による溜池の埋立や堤体工事が減少要因。

【保護対策】現在生育している溜池を現状のまま維持管理する必要がある。農薬等の化学物質の流入にも配慮する必要がある。

(市川正人)

(写真：松阪市，2019年)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

CR

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

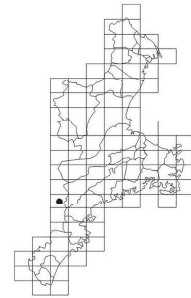
ケゴンアカバナ

被子植物 アカバナ科

Epilobium amurense Hausskn. subsp. *amurense*

【選定理由】既知の生育地点は1か所であり、50個体以下である。
 【種概要】山地の溪流沿いに生える。イワアカバナに似ているが、茎は低く、高さ6~40cmになり、茎の中部では毛は2列に生える。茎の中部の葉は卵状披心形。茎と子房には上向きに曲がる単細胞毛がある。
 【分布】国内では北海道、本州、四国、国外では台湾、極東ロシア、中国東北部、朝鮮、樺太に分布する。近県では、奈良県の大峰山地の落葉樹林内にわずかに生育している。県内では大台ヶ原頂上付近の沢沿いにわずかに生育する。
 【現況・減少要因】大雨や崖崩れで無くなる可能性もある。
 【保護対策】沢沿いの登山道の整備など。

(山脇和也)



三重県 2025
CR
三重県 2015
CR
環境省 2020
—

カラスシキミ

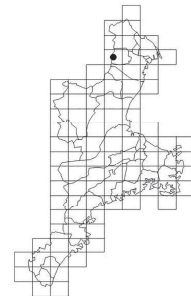
被子植物 ジンチョウゲ科

Daphne miyabeana Makino

【選定理由】既知の生育地点数は3。総個体数は50未満。分布上注目される。
 【種概要】山地林内に生育する常緑小低木(1m以下)。葉は倒披針形で、長さ4~12cm、幅1~2.5cmで全縁、表の葉脈は凹み、裏に出る。柄はない。6月頃、枝の先端に、先が4裂する長さ約5mmの花を数個つける。固有種。
 【分布】北海道、本州(隠岐を含む鳥取県以北の日本海側)。県内では菰野町の山地3ヶ所で記録されている。
 【現況・減少要因】菰野町に計30個体ほどが生育している。斜面崩壊が減少要因となる。
 【保護対策】生育地は豪雨による土砂流出・斜面崩壊の発生が予想される。生育環境を考慮した移植が方策の一つである。
 【特記事項】ジンチョウゲやコショウノキに類似する。

(写真: 菰野町, 2013年, 池田博撮影)

(市川正人)



三重県 2025
CR
三重県 2015
CR
環境省 2020
—

タチスズシロソウ

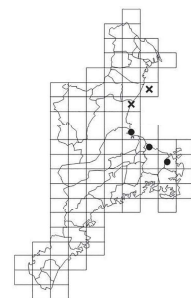
被子植物 アブラナ科

Arabidopsis kamchatica (DC.) K.Shimizu et Kudoh subsp. *kawasakiana* (Makino) K.Shimizu et Kudoh

【選定理由】既知の生育地点数は5以下であり、各地点の個体数は50未満である。
 【種概要】海岸や湖岸の砂地に生える全体が緑白色の越年1年草。茎は高さ15~40cmで直立し、大きいものでは下部から分枝する。枝は比較的少なく、茎とともに無毛である。根出葉が目立ち、倒披針形で1.5~4.5cm、浅く羽裂し毛がある。茎葉はへら状線形、全縁で毛はない。4~5月に白色で花弁の長さ4~8mmの花をつける。果実は長さ2~4cmで毛はない。固有種。
 【分布】本州(東海地方、近畿地方)・四国に分布。県内では四日市市、鈴鹿市、津市、松阪市、明和町、伊勢市で記録されている。
 【現況・減少要因】急激に生育域や個体数が減少し、少なくとも四日市市や鈴鹿市では消滅した。海岸線後退にともなう護岸工事や海岸開発などが減少要因となる。
 【保護対策】生育環境である海岸堤防背後(堤外)にある砂地の保全と遷移の抑制が必要である。

(写真: 明和町, 2005年, 山路武夫撮影)

(市川正人)



三重県 2025
CR
三重県 2015
CR
環境省 2020
EN

ヒロハコンロンソウ

被子植物 アブラナ科

Cardamine appendiculata Franch et Savat.

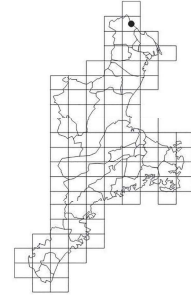
- 哺乳類
- 鳥類
- 爬虫類
- 両生類
- 汽水・淡水魚類
- 昆虫類
- クモ類
- 貝類
- 甲殻類
- その他動物
- 維管束植物
- 蕨類
- 藻類
- キノコ

- EX
- EW
- CR
- EN
- VU
- NT
- DD

【選定理由】既知の生育地点数は1であり、現在は確認できない。
 【種概要】山地の谷川の水辺に生える多年草。茎は高さが50 cm程度で、葉は5～7個の小葉からなり、コンロンソウより葉先に丸みがある。葉柄の基部は耳があり茎を抱く。花期は5～7月。
 【分布】国内では本州中北部。県内ではいなべ市北勢町の谷川沿いの湿地に生育している。
 【現況・減少要因】1か所に20数個体しかなく、生育地の遷移が進んだり、また林道整備が行われたりして、今では生育の確認ができていない。
 【保護対策】もとの生育地近くの林道や河川改修の時、事前の詳細な調査が必要である。

(山脇和也)

(写真：愛知県，1949年，砂子剛採集，三重県総合博物館所蔵)



三重県 2025	CR
三重県 2015	CR
環境省 2020	—

ツチトリモチ

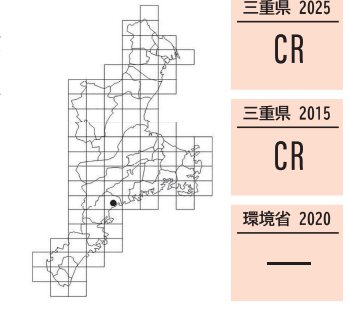
被子植物 ツチトリモチ科

Balanophora japonica Makino

【選定理由】既知の生育地点数は1であり、未知の生育地もわずかと思われる。
 【種概要】山林内に生える寄生植物。雌雄異株であるが、雄株は発見されていない。ハイノキ属の根に寄生する。茎は高さ5～10 cm、頂端に花穂をつける。花穂は橙赤色で長さ3～6 cm、幅2～3 cm。花期は10～11月。
 【分布】国内では本州（三重県，和歌山県），四国，県内では紀北町からの記録がある。
 【現況・減少要因】本種は、紀北町の山林内で1976年に発見されている。自生地ではクロバイの根に寄生しているとのことである。山奥深くということ、最近の情報は不明であるが、当時の生育状況から推測して生育地およびその周辺で個体数は維持されているものと思われる。
 【保護対策】生育地は深山であるため、開発等の危険性は少ないが、周辺の伐採等には注意が必要である。

(山本和彦)

(写真：伊賀市，1951年，筒井養之助採集，三重県総合博物館所蔵)



三重県 2025	CR
三重県 2015	CR
環境省 2020	—

ヤナギヌカボ

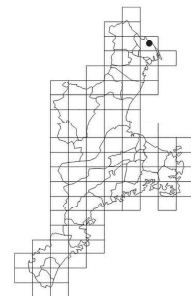
被子植物 タデ科

Persicaria foliosa (H.Lindb.) Kitag. var. *paludicola* (Makino) H.Hara

【選定理由】過去の生育地点数は5以下で個体数は250以下であるが、生育環境の変化で現在の生育は確認できない。新産地の発見や既生育地域での再発生の可能性もあるためCRとした。
 【種概要】湿地や水辺に生える30～60 cmの1年草。茎の下部は地を這い節から発根する。上部は枝を分け斜上する。茎は無毛であるが、葉は両面ともに毛があり、裏面には腺点がある。長さ3～9 cm、幅2～9 mmで短柄がある。托葉鞘は筒状で同長の縁毛がある。9～10月、細い総状花序にまばらに1.5 mmの淡紅色花をつける。
 【分布】北海道，本州，九州。県内では桑名市，いなべ市で記録されている。かつては伊賀市にも生育した。国外では朝鮮。
 【現況・減少要因】県内分布の内、桑名市の1か所で確認されていたが、河川改修工事により現在は生育を確認できない。開発圧力が大きい。
 【特記事項】サイコクヌカボに似るが、ヤナギヌカボは花序の花はこれよりもっと混み合う。

(市川正人)

(写真：伊賀市，1951年，筒井養之助採集，三重県総合博物館所蔵)



三重県 2025	CR
三重県 2015	EN
環境省 2020	VU

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蕨苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

マダイオウ

Rumex madaio Makino

被子植物 タデ科

【選定理由】既知の生育地点数は6。現存集団の生育地周辺が開発されたこととシカ食害によって急減した。また、外来種との交雑による攪乱が懸念される。なお、伊賀地域ではすでに絶滅した可能性が高い。北勢地域でも近年は確認できない。

【種概要】水湿地に生育し、高さ1 m以上になる多年草。葉は有柄で長さ30 cm、幅8 cm、裏面脈上に短い剛毛を密生する。花期は6月頃。果実序は節間が長くてやや疎らに果実をつけること、果実の内萼片に長いトゲ状の突起を持つことが大きな特徴。各地でトガマダイオウ（エゾノギシギシ×ノダイオウ）との混同があり、同定には注意が必要。

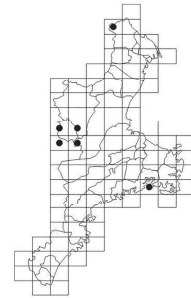
【分布】日本固有種。本州から九州に分布。県内ではいなべ市、伊賀市、名張市、津市、南伊勢町で記録がある。

【現況・減少要因】現存集団である南伊勢町の生育地周辺がソーラー発電の用地として開発されたこととシカ食害によってこの20年間で急減した。現在はほぼ消滅状態である。

【保護対策】このままでは絶滅は確実視される。開発等で生育地が壊されない配慮が必要である。また、シカ個体群の抑制が急務である。

(藤井伸二)

(写真：いなべ市，2002年，市川正人撮影)



三重県 2025

CR

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

ヒナワチガイソウ

Pseudostellaria heterantha (Maxim.) Pax var. *linearifolia* (Takeda) Nemoto

被子植物 ナデシコ科

【選定理由】既知の生育地点数1。個体数は非常に少ない。

【種概要】山地の夏緑林の林内や林縁に生える高さ7~15 cm多年草。葉は線形で長さ2~5 cm。花卉が細く、ワチガイソウに比べ雄しべが長い傾向があり、花卉の半分からほぼ同じ長さになる。

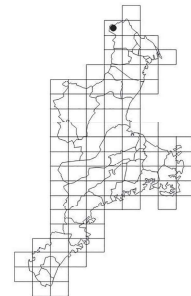
【分布】本州中部（茨城県、千葉県、東京都、三重県、滋賀県）、四国（徳島県、高知県、愛媛県）に分布する。県内ではいなべ市に分布する。

【現況・減少要因】鈴鹿山系北部にまれに生育する。自然崩壊や人の踏みつけなどによる減少が危惧される。

【保護対策】防護柵などを作り生育地を保護する。

(山脇和也)

(写真：いなべ市，2015年，池田博撮影)



三重県 2025

CR

三重県 2015

—

環境省 2020

VU

ミヤマコナスビ

Lysimachia tanakae Maxim.

被子植物 サクラソウ科

【選定理由】確実な生育地点数は1であり、個体数も少なく、道路脇に生育し、自然災害や森林伐採等で絶滅の可能性はある。

【種概要】コナスビに似るが、茎は長く地を這い、葉柄、花柄ともに長い。葉肉内に黒色の腺点と腺条があり、萼裂片は倒披針形で先は鈍い。

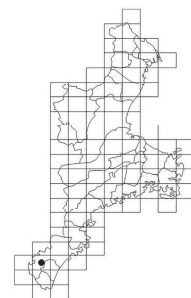
【分布】本州（紀伊半島）、四国、九州中部に分布する。県内では熊野市に僅かに生育している。

【現況・減少要因】熊野川を隔てた和歌山県側にはよく見かけるが、何らかの理由で産地が少ないのだろう。

【保護対策】森林伐採や道路拡張計画等には事前の届出が必要である。

(大洞浩一)

(写真：紀宝町，2018年，池田博撮影)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

—

オオキヌタソウ

被子植物 アカネ科

Rubia chinensis Regel et Maack var. *glabrescens* (Nakai) Kitag.

【選定理由】既知の生育地点数は2であり、未知の生育地もほとんどないと思われる。

【種概要】山地の比較的明るい場所に生える多年生草本。地下茎を有し、茎は立ち、高さ30~60 cm。卵形から広披針形の葉4枚が輪生する。開花期は5~7月。茎先端や葉腋の集散花序に緑白色の花をつける。花冠は4~5裂し、直径は3~4 mm程度。秋に黒い球形の果実をつける。

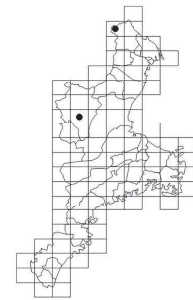
【分布】国内では北海道、本州、四国、九州に分布。国外では朝鮮半島から中国大陸東北部に分布。県内ではいなべ市と伊賀市で記録がある。

【現況・減少要因】いなべ市、伊賀市各1か所のみ。山地の明るい場所を好むため、土地の改変や、管理不足による植生遷移の進行（照度の低下）が減少要因か。

【保護対策】生育地の保全が望まれる。

(平山大輔)

(写真：いなべ市、2015年、市川正人撮影)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

コケリンドウ

被子植物 リンドウ科

Gentiana squarrosa Ledeb.

【選定理由】既知の生育地点数は5以下であるが、現況は1か所の生育が確認されているだけであり、生育個体数も少ない。

【種概要】日当たりの良い原野に生育する越年草。3~6月頃、ロゼットの間から3~10 cmの花茎を伸ばし、副裂片を持つ、花冠の長さ10~15 mm、淡青色の筒状花をつける。

【分布】本州から九州。県内では桑名市、四日市市、菰野町、名張市、伊勢市に記録がある。国外では朝鮮、中国、台湾、インド北部、シベリア。

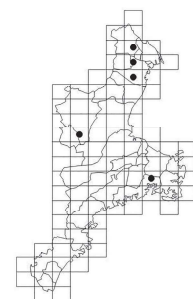
【現況・減少要因】現在、名張市の1ヶ所で生育が確認されるだけである。生育環境の維持・管理を要する。

【保護対策】生育する原野環境の保全が必要である。生育地の土地改変時には注意を要するとともに種子採取と播種、同環境への移植などの対策が必要である。

【文献】30。

(加田勝敏・市川正人)

(写真：名張市、2013年、市川正人撮影)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

—

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

クサナギオゴケ

被子植物 キョウチクトウ科

Vincetoxicum katoi (Ohwi) Kitag.

【選定理由】既知の生育地点数は1であり、個体数は50未満である。

【種概要】山の木陰に生える多年草。茎は直立して高さ30~100 cmになるが、先はややつる状に伸びて葉をつけない。葉は茎の中部に集まり、5~10 mmの葉柄があり、葉身は長さ8~17 cm、幅3~5 cmの卵状披針形で鋸歯はなく両端ともに尖る。上部の葉はかなり小さくなり、その腋に5~6月頃やや大きい円錐花序をつける。小花柄の先には径6~9 mm、裂片楕円形、無毛の淡紫色の花を開く。長さ4~5.5 cmの袋果ができる。固有種。

【分布】本州（東海・近畿地方）・四国の暖帯域。県内では紀宝町に限り記録されている。

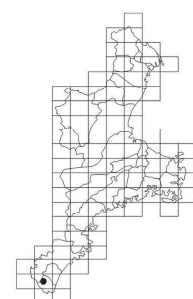
【現況・減少要因】小さな谷間の木陰に確認されている。個体数が少なく、採取や強度の除草による影響が懸念される。

【保護対策】個体周囲の適度な草刈を施すこと、および採取からの保護を必要とする。

【特記事項】花の白い品種をシロバナクサナギオゴケという。県内では淡紫色のものが多い。

(市川正人)

(写真：紀宝町、2022年、池田博撮影)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

VU

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

マルバチシャノキ

被子植物 ムラサキ科

Ehretia dicksonii Hance



【選定理由】既知の生育地点数は2で、個体数は10未満しかない。
【種概要】落葉性の小高木、樹皮は灰色でカキノキの幹に似る。葉は互生し、広楕円形から長楕円形、長さ6～22.5 cm、幅5～12 cm、表面は剛毛があつて著しくざらつき、鋸歯縁、基部はくさび形、葉柄は長さ2～3 cm。5～7月散房状花序の白い花を密につける。核果は径1～1.5 cm、秋に黄熟する。

【分布】国内では本州（千葉県以西）、四国、九州、沖縄。国外では中国中南部（台湾を含む）に分布。県内では志摩市浜島町の海岸沿い斜面に自然分布する。後に津市西部で1個体を確認したが、植栽個体と思われる。

【現況・減少要因】志摩市の生育地ではかつては13個体生育していたが、新しい道路の敷設に伴って数個体が移植され、原生地には6個体のみ残る。移植先は海浜公園とトンネル脇の植込みの2か所である。

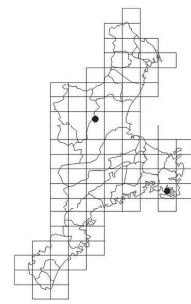
【保護対策】もとの生育地での保護が必要である。

【特記事項】庭園などで植栽されているマルバチシャノキの葉は広楕円形から円形であるのに対し、浜島産の個体は長楕円形の葉をつける。また、葉裏や花被の毛の状態も前者とは異なる。

【文献】6, 22.

(中馬千鶴)

(写真：志摩市，2017年，池田博撮影)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

—

マメダオシ

被子植物 ヒルガオ科

Cuscuta australis R.Br.



【選定理由】既知の生育地点数は3。非常に稀な植物である。比較的新しい記録として、1981年に熊野市山崎沼で採集された標本（K. Seto 28047 OSA所蔵）と1988年に河芸町で採集された標本（三重総合博所蔵）がある。また、津市江戸橋で1959年に採集された古い標本がある（三重総合博所蔵）。

【種概要】よく似たアメリカネナシカズラとは、萼先端が鈍頭～円頭であること、花冠内面の羽毛状鱗片が非常に小さいこと、果実時に花冠裂片が反曲せずにはぼ直立すること、萼筒が果実を緩く取り囲むこと、蒴果がより大形で上下に偏球形であること等の点で区別できる。河川や沼などの水湿地に生育する。

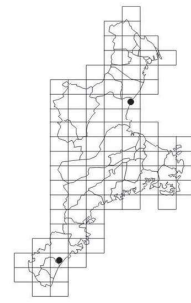
【分布】国内では、北海道から九州。国外では、朝鮮半島、中国、インドシナ、マレーシア、オーストラリアに分布する。

【現況・減少要因】現況は不明であり、絶滅の可能性もある。

【文献】150, 151.

(藤井伸二)

(写真：熊野市，1959年，小出哲夫採集，三重県総合博物館所蔵)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

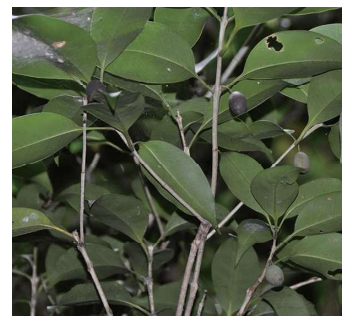
環境省 2020

CR

ナタオレノキ (シマモクセイ)

被子植物 モクセイ科

Osmanthus insularis Koidz. var. *insularis*



【選定理由】既知の生育地点数は1であり、個体数は少ない。

【種概要】高さ15 mに達する常緑の高木。葉は狭長楕円形から卵状長楕円形、やや薄い革質で、長さ7～11 cm、幅2～4 cm、先は長く鋭尖する。花期は10月、葉腋に束生する。花冠は白色で径5～6 mm。

【分布】国内では本州（福井県以西）、八丈島、四国、九州、小笠原、沖縄。国外では台湾、朝鮮半島に分布。県内では紀北町大島からの記録がある。

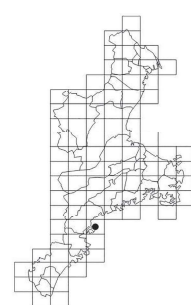
【現況・減少要因】2004年の台風による被害で島内の樹木の一部に枯損がみられるが、本種については発見当時と比べ、変化はない。2023年現在、高さ1.1 mでの直径が63 cm、樹高15 mほどに達する個体も認められ、林床には稚樹も数個体であるが散見される。

【保護対策】大島は国の天然記念物に指定されている。

【特記事項】本種は1982年瀬戸剛氏により発見されている。

(山本和彦)

(写真：紀北町，2011年)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

—

シシンラン

被子植物 イワタバコ科

Lysionotus pauciflorus Maxim.

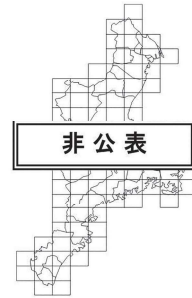
- 哺乳類
- 鳥類
- 爬虫類
- 両生類
- 汽水・淡水魚類
- 昆虫類
- クモ類
- 貝類
- 甲殻類
- その他動物
- 維管束植物
- 蕨類
- 藻類
- キノコ

- EX
- EW
- CR
- EN
- VU
- NT
- DD

【選定理由】 既知の生育地点数は1。
 【種概要】 スギ、カシなどの混生林の中の常緑広葉樹に着生する小低木。茎は細長く樹幹に着生する。葉は対生、又は輪生し、厚い革質で、花は7～8月に上部の葉の腋に1花をつける。
 【分布】 国内では本州（伊豆半島以西）四国、九州、沖縄。県内では紀州地域に分布。
 【現況・減少要因】 県内では紀州地域に1か所。着生しているカシが倒され乱獲されたことにより個体数が激減した。その後、近隣の樹に着生していたわずかな個体も乱獲された。
 【保護対策】 着生樹付近に近寄らず、本種の自生についても口外しないほうがよい。

(花尻 薫・土永知子)

(写真：熊野市，2019年，池田博撮影)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

VU

イワギリソウ

被子植物 イワタバコ科

Opithandra primuloides (Miq.) B. L. Burt

【選定理由】 近年、台高山脈において個体数はわずかであるが生育が確認されたことにより、カテゴリーを前回のEXからCRに変更する。
 【種概要】 多年草。全体にやわらかい白色の長毛が密生する。葉は根生で、長柄があり、卵形、卵円形、卵状楕円形、やや肉が厚い。葉腋から長さ10～20 cmの花茎をだし、先端に散状に10花内外をつける。花冠は漏斗状で長さ約2 cm、先は5裂、淡紫色、濃色の線条がある。果実は広線形で紡鐘形の多数の種子を持つ。花期は5～6月。
 【分布】 日本固有種。国内では本州（近畿以西）、四国、九州の暖温帯。県内では名張市赤目町、松阪市飯高町、台高山脈に分布するが現在は台高山脈のみである。
 【現況・減少要因】 深山の岸壁や樹上に着生することから、それらの生育環境が変化したことや、開花時は人目につき、園芸採取の対象となったことなどから激減したと考えられる。
 【特記事項】 本種の県内での生育記録は1949年以降である。和名のイワギリソウは岩桐草に由来し、白い軟毛を密生する葉の形がキリの葉を想わせ、岩上に生えることから名づけられた。
 【文献】 57, 69, 139。

(葛山博次)

(写真：松阪市，2018年，廣達也撮影)



三重県 2025

CR

三重県 2015

EX

環境省 2020

VU

ハマジンチョウ

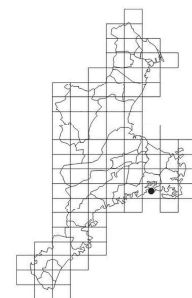
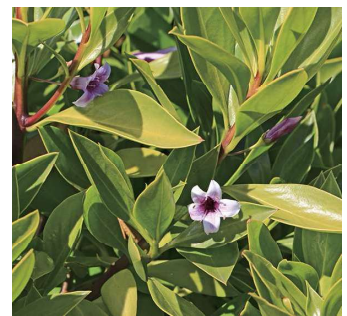
被子植物 ゴマノハグサ科

Myoporum bontoides (Siebold et Zucc.) A.Gray

【選定理由】 既知の生育地点数は3。本州では唯一の生育地である。
 【種概要】 河口や入り江などの海岸に生育する高さ2 mほどの常緑低木。全体無毛、葉はやや肉質、葉身は長楕円形で長さ5～10 cm、幅2～3.5 cm。花期は1～5月、葉腋に白から淡紅色花を束生する。
 【分布】 国内では本州（三重県）、九州（五島列島、天草、鹿児島西南部）、沖縄、国外では台湾、中国大陸中南部に分布。県内では南伊勢町の獅子島とその周辺に生育。
 【現況・減少要因】 獅子島では過去に工事の影響により衰退したが、現在は健全に生育している。獅子島以外の本土に生育する個体は、この衰退した際に種の保存と観察のために、地元住民によって挿し木で増殖されたとされている。
 【保護対策】 生育状況を見守ることとして、特に人為行為はほしないことである。
 【特記事項】 獅子島に生育している本種を植栽とする説もある。獅子島の樹叢は県の天然記念物に指定されている。
 【文献】 168。

(岡 与一・半田俊彦)

(写真：南伊勢町，2016年，池田博撮影)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

VU

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ビロードムラサキ

被子植物 シソ科

Callicarpa kochiana Makino

【選定理由】既知の生育地点数は5以下で、各生育地の個体数は20未満である。

【種概要】高さ3mほどになる落葉低木。若枝や葉柄、葉の裏面には羽状の長軟毛が密生している。花は7～8月、淡紫色で多数密につく。果実は球形、径約2mm、萼に包まれ熟すと白くなる。

【分布】国内では本州（紀伊半島）、四国、九州。国外では台湾、中国、インドシナに分布。県内では尾鷲市および紀北町での記録がある。当地域が分布の北限。

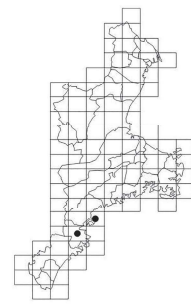
【現況・減少要因】尾鷲市、紀北町で確認されているが、現在確実な自生地は、尾鷲市では須賀利町高宮神社および九鬼町、紀北町では島勝神社および三浦の海岸部である。ニホンジカの食害により個体数は激減している。

【保護対策】島勝神社は県の天然記念物、高宮神社は市の天然記念物に指定されており、開発による絶滅の危険性はない。しかしニホンジカの食圧が非常に高く、防護柵により個体がかろうじて維持されている現状である。

【特記事項】本種は川口三好次氏により1930年に、島勝神社で発見されている。

【文献】57。

(山本和彦)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

VU

シモバシラ

被子植物 シソ科

Collinsonia japonica (Miq.) Harley

【選定理由】既知の生育地は、いなべ市で、2007年に記録されたが、それ以降、確認されていない。

【種概要】山地の木陰に生える多年草。茎は4角で、高さ40～70cm。葉は長さ8～20cm、巾3～5.5cm、両端がとがって、短い葉柄があり、表面の脈上に細かい毛がある。花は9～10月に開き、白色で、雄しべは花外に突きでて下側の2個が長い。分果は1個のみが熟し、球形で1.5～2mm、表面は滑らかで褐色、網目模様がある。

【分布】国内では本州（関東以西）から九州の山地に分布する。県内ではいなべ市に生育したが、個体は極めて少なく、その後は確認されていない。標本記録のみである。

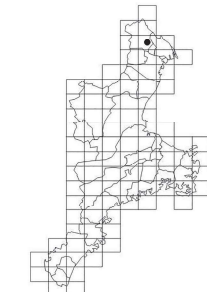
【現況・減少要因】立地の植生状況が人為的に改変されたことが減少を招いたのではないかと考えられる。

【保護対策】本種は山地の木陰に生える多年草であることから、そうした生育環境を整えることによって再生を待ちたい。

【特記事項】冬枯れの茎に氷の結晶ができることから名付けられた。

【文献】163。

(葛山博次)



三重県 2025

CR

三重県 2015

—

環境省 2020

—

ヤマジソ

被子植物 シソ科

Mosla japonica (Benth. ex Oliv.) Maxim. var. *japonica*

【選定理由】既知の生育地点数が5以下であるが、現存は1か所。現生育地への開発圧が強い。

【種概要】日当たりのよい丘陵や裸地に生える一年草。茎は四角形で白い短毛がある。葉は卵形から狭卵形で3～10mmの葉柄があり、鋭頭、低い鋸歯がある。花期は9～10月。

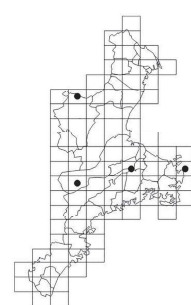
【分布】朝鮮半島南部。国内では北海道から九州。県内では伊賀市、松阪市、度会町、鳥羽市で生育の記録がある。

【現況・減少要因】現在は、鳥羽市の離島に細々と生育しているのが確認できるだけである。ここでも開発や土石採取のため生育地が狭められている。

【保護対策】生育地は草木が小さくしか育たない独特の植物相を示す蛇紋岩地帯である。この貴重さを関係者は認識して、土石採取を終わらせる決断をする必要がある。

(山路武夫)

(写真：鳥羽市，2017年，池田博撮影)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

NT

ナツノタムラソウ

被子植物 シソ科

Salvia lutescens (Koidz.) Koidz. var. *intermedia* (Makino) Murata

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物

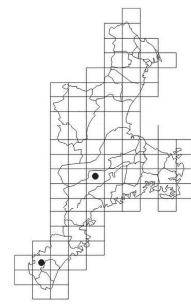
維管束植物
苔苔類
藻類
キノコ

EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

【選定理由】既知の生育地点数は2で、個体数は少ない。
 【種概要】茎の高さ25~50 cmになる多年草。葉は1~2回羽状でやや薄く、葉柄の基部には通常開出毛がある。花は6~8月に開き、濃紫色、唇形で長さ1 cm内外。雄蕊は2本、長く、花の外にまっすぐに突き出る。
 【分布】本州（神奈川県、東海地方、近畿地方）に分布。県内では大台町および熊野市からの記録がある。
 【現況・減少要因】県内では大台町および熊野市の溪流沿いで確認されているが、いずれも個体数は少ない。
 【保護対策】洪水により、生育地周辺の環境条件が激変しているため、今後個体が維持していけるかどうか注意する必要がある。また、河川の護岸工事や治山工事により消滅することのないような配慮が必要とされる。

(山本和彦)

(写真：大台町，2004年，高松隆吉撮影)



三重県 2025
CR
三重県 2015
CR
環境省 2020
—

イタカムシトリスミレ

被子植物 タヌキモ科

Pinguicula vulgaris L. var. *floribunda* S.Watanabe et A.Takeda

【選定理由】既知の生育地点数は3，生育する個体数も多くはない。ムシトリスミレ属植物の一変種として知られている唯一の地域個体群。
 【種概要】本種は北半球産のムシトリスミレ属植物の中で最も大きく、ロゼット葉の枚数は6~16枚。葉の長さ6.5~8.6 cm，幅2.3~3.3 cm，6月頃5~9個の花をつける。花柄の長さ8~12 cm。固有種。
 【分布】松阪市に分布。
 【現況・減少要因】我が国で唯一の自生地。生育地は垂直に近い岩壁であるため、節理に着生している株は、しばしば自然落下する。また、希少植物として観賞用の採取圧が高い。
 【保護対策】三重県指定天然記念物、三重県指定希少野生動植物種などとして保護されている。盗採を防止するため、県や市によるパトロールが実施されている。
 【特記事項】ムシトリスミレ(*Pinguicula vulgaris* L. var. *macroceras* (Pall. ex Link) Herder)は、四国、中部地方以北、北半球の寒地に広く分布する。三重県指定希少野生動植物種。

【文献】119.

(武田明正・市川正人)

(写真：松阪市，2012年，池田博撮影)



三重県 2025
CR
三重県 2015
CR
環境省 2020
—

非公表

フサタヌキモ

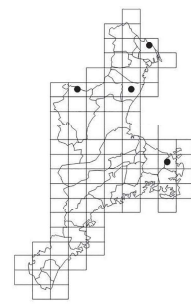
被子植物 タヌキモ科

Utricularia dimorphantha Makino

【選定理由】既知の生育地点数は5以下。個体数は少ない。一時期県内では絶滅と考えられた。
 【種概要】池沼や溜池・水路などに生育する浮遊性食虫植物である。茎は30~80 cmでややまばらに分枝する。葉は長さ2~6 cm，多数の細裂片に別れ、柔らかく、房状になる。捕虫囊はわずかししか着かない。花期は閉鎖花を含め7~9月，花は黄色で水上に伸びた高さ10 cm前後の花茎に3~5個つく。固有種。
 【分布】本州。県内では桑名市、鈴鹿市、伊賀市、伊勢市で記録されている。そのほとんどの生育地で現在は見当たらない。
 【現況・減少要因】伊勢市の標本記録(2004年)が最も新しく、現存すると思われる。水質汚濁や池沼の改修・埋立、マニアによる採取などで絶滅に瀕している。
 【保護対策】生育地の水質を含めた保全を要する。生育が絶えた地の埋土種子による再現が期待される。

(加田勝敏・市川正人)

(写真：伊勢市，2004年，中優採集，三重県総合博物館所蔵)



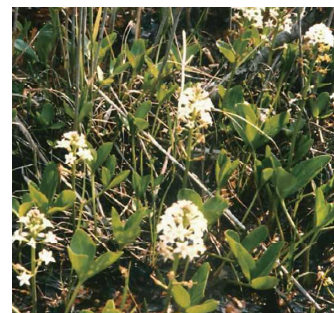
三重県 2025
CR
三重県 2015
CR
環境省 2020
EN

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ミツガシワ

被子植物 ミツガシワ科

Menyanthes trifoliata L.



【選定理由】既知の生育地点数は1。生育する個体数も50個体以下と多くはない。

【種概要】水辺や沼沢地に生える多年草で太い地下茎をもつ。根出葉には長い柄があり、その先に卵状楕円形の3小葉をつける。4～8月頃、高さ30～40cmの花茎の先に総状花序をつける。花冠は白色。

【分布】国内では北海道、本州、九州に分布。普通は高地の湿原、沼沢地に生えるが、暖帯の低地にも氷期からの残存植物として隔離分布する。国外では樺太、千島ほか北半球の温帯から寒帯に広く分布。県内では伊賀市に分布。

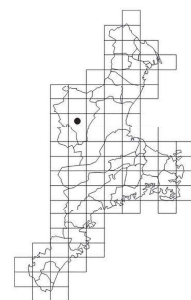
【現況・減少要因】丘陵地の溜池奥に形成された浅い沼沢地にスゲ類などに交じって生える。植生遷移の進行に伴う被圧と、土地開発による沼沢地の乾燥化によって減少する恐れがある。

【保護対策】共存し競合する他種の抜き取りなど、被圧要因の軽減と生育地の水湿状態の維持が必要。

【特記事項】伊賀市指定天然記念物。

(武田明正)

(写真：伊賀市，1997年，市川正人撮影)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

—

ヒメシロアサザ

被子植物 ミツガシワ科

Nymphoides coreana (H.Lév.) H.Hara



【選定理由】既知の生育地点数は2であったが、そのうち1つは水質の悪化によりここ20年ほど確認されていない。

【種概要】湖沼、溜池、水田などに生える浮葉植物。茎は細長く、葉は卵心形から円心形、径2～6cm。花期は7～9月。花は白色、径8mmほどで、花弁の縁は有毛。

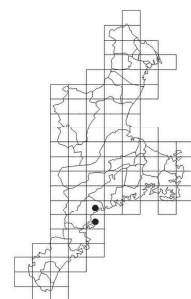
【分布】国内では本州、四国、九州、沖縄。国外では朝鮮半島、中国に分布。県内では紀北町と尾鷲市の2か所からの記録がある。

【現況・減少要因】紀北町、尾鷲市とも海に面した海跡湖に生育している。両生育地とも、池にカワウが住みつき、その影響により池の水質が富栄養化している。またニホンジカによる食害も激しく、本種の存続が危機的な状況である。

【保護対策】カワウによる池の富栄養化とニホンジカの食害を防ぐ必要がある。

(山本和彦)

(写真：尾鷲市，2022年)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

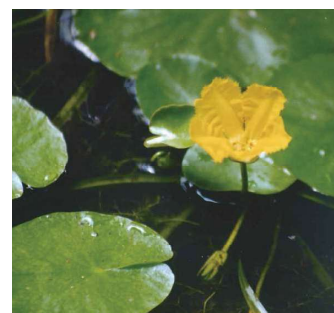
環境省 2020

VU

アサザ

被子植物 ミツガシワ科

Nymphoides peltata (S.G.Gmel.) Kuntze



【選定理由】既知の生育地点数が5以下であり、現存する1か所の生育地でも個体数が激減している。

【種概要】池沼に生育する多年生の水草。水底の泥の中を這っている地下茎から伸びた茎の先に葉がつく。葉は径6～12cm、ほぼ円形で浅く波形の鋸歯がある。花は黄色で径3cm、水面上に咲く、花期は6～8月。

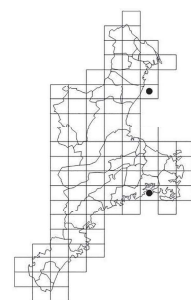
【分布】ユーラシア大陸。国内では本州から九州。県内では四日市市、南伊勢町で記録がある。

【現況・減少要因】南伊勢町の生育地は湧水のある水路や沼地で、以前はかなりの数の個体が生育していたが、最近ほとんどみられなくなった。工事による環境変化で、外来種のコカナダモが急増したためではないかと思われる。

【保護対策】水路の底の土(泥)上げ作業が毎年行われているが、泥といっしょにアサザも上げてしまわないように注意する必要がある。

(山路武夫)

(写真：南伊勢町，2002年，山路武夫撮影)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

NT

チョウジギク

Arnica mallotopus Makino

被子植物 キク科

【選定理由】既知の生育地点数は5以下。現存の生育地個体数は50未満である。極端な減少が認められる。

【種概要】深山の多湿な斜面や溪側に生育する多年草。茎は高さ20~85 cmに達し、8~10月頃、すべて筒状花の黄色の頭花を横向きにつける。固有種。

【分布】本州、四国に分布。県内では菰野町、鈴鹿市、亀山市で記録がある。

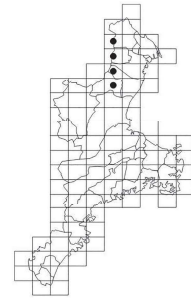
【現況・減少要因】現在、1地点の生育が確認されているだけである。土木工事（堰堤設置）等で絶滅してしまった生育地もあり、砂防工事計画に際しては綿密な環境影響評価を要する。

【保護対策】堰堤設置計画の際には生育地域住民への理解と協力を求める。

【文献】34。

(加田勝敏・市川正人)

(写真：長野県，2014年，池田博撮影)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

ヒメシオン

Aster fastigiatus Fisch.

被子植物 キク科

【選定理由】既知の生育地点数は5以下。現在確認できるのは1か所で生育個体数は100未満である。

【種概要】湿った草原や川岸などに生える多年草。草丈30~100 cm，上部には細毛が密生する。葉は長さ5~12 cm，幅4~15 mmでやや厚い羊紙質である。8~10月頃，径8 mm内外の白色頭花を散房状に着ける。総苞には密に細毛がある。

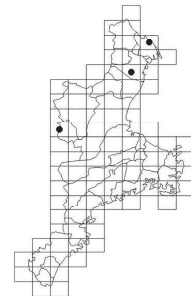
【分布】本州・四国・九州。県内では桑名市，四日市市，名張市に記録がある。国外では朝鮮・中国・ダブリア。

【現況・減少要因】現存の生育地は桑名市の1ヶ所である。堤防補強工事など草原環境の変化で激減したと考えられる。

【保護対策】個体の保護を含め，生育地環境の保全と維持・管理が必要である。

(加田勝敏・市川正人)

(写真：桑名市，2014年，市川正人撮影)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

—

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

コバナガンクビソウ (バンジンガンクビソウ)

Carpesium faberi C. Winkl.

被子植物 キク科

【選定理由】既知の生育地点数は1。個体数は極めて少ない。周辺山地に新産地が期待される。

【種概要】山地の林下や林縁に生える高さ50~70 cmの多年草。茎は直立し，軟毛があって，上部でよく分枝する。下部の葉には翼のない長柄があり，柄を含めて長さ10~14 cm，幅2.5~4.5 cmで卵状長楕円形，先は鋭く尖り，基部は楔形である。頭花は枝の先に着き，基部には頭花より長い苞葉がある。花冠は濁った黄色で8~10月に咲く。国外では台湾・中国。

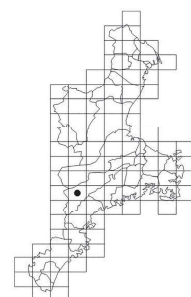
【分布】本州（愛知県以西）・九州に分布。県内では松阪市で記録されている。

【現況・減少要因】松阪市の1か所の山地で生育している。シカ食害や植生遷移が減少要因。

【保護対策】シカの個体数管理や防護柵の設置，および植生遷移を止め，生育環境を維持することである。

(市川正人)

(写真：松阪市，2006年，山路武夫撮影)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

VU

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

イナバアザミ

Cirsium magofukai Kitam.

被子植物 キク科

【選定理由】既知の生育地点数は5以下であり、各生育地とも個体数は激減している。

【種概要】高さ1～2m、花期はアザミ属のなかでは遅く10～11月である。おもな特徴は花を包む総苞片は巾が広く（下方の巾3.5～4mm）、伸長、反曲し、帯紫色で、縁辺に小刺針がある。根葉は花期には枯死する。

【分布】日本固有種。本州（中部から近畿）の暖温帯。県内での生育地は鈴鹿山脈北部（いなべ市）に分布する。

【現況・減少要因】生育地は溪谷沿いであり、土砂や土石の大量流出により埋没したり流失したりする不安定な状態におかれている。その影響は2000年以降きわめて大きく、絶滅の危機に瀕している。

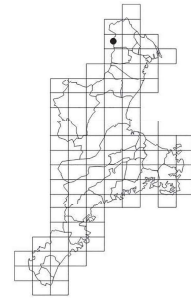
【保護対策】土砂や石灰岩の採掘など的人為圧を軽減し、生育する溪谷への土石の流出を防ぐなど環境保全に努めることが急務である。

【特記事項】1933年、孫福正により治田山（現いなべ市北勢町）で発見、記載された。

【文献】34, 49, 51, 72, 83, 111, 126.

（葛山博次）

（写真：いなべ市，2000年，市川正人撮影）



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

VU

フジバカマ

Eupatorium japonicum Thunb.

被子植物 キク科

【選定理由】既知の生育地点数は1。個体数が非常に少ない。

【種概要】河岸の草原などにまれに生え、また栽培される多年草。葉は対生し、下方のものはふつう深く3裂する。奈良時代に伝来し、それが帰化したという説もある。秋の七草の1つで、乾燥させるとクマリンのよい香りを出す。

【分布】国内では本州（関東以西）、四国、九州。

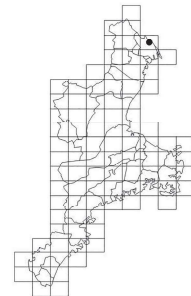
【現況・減少要因】河川改修や採取により絶滅の可能性がある。現状不明で確認できない。

【保護対策】生育が確認されれば、柵などで囲う保護対策が必要である。

【特記事項】栽培されたものが移出している場合もあるので注意を要する。

（山脇和也）

（写真：愛知県，2015年，市川正人撮影）



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

NT

ミズギク

Inula ciliaris (Miq.) Maxim. var. *ciliaris*

被子植物 キク科

【選定理由】既知の生育地点数は5以下。そのうち現存が期待できるのは3か所である。

【種概要】丘陵地や山地の湿地に生える高さ20～50cmの多年草。6～10月に茎の上部に黄色の花を咲かせる。

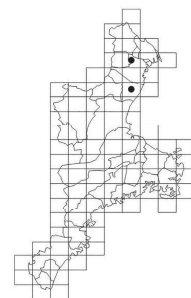
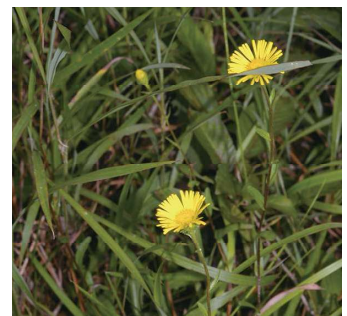
【分布】国内では本州（東北地方）から九州（宮崎県）。県内では北勢・中勢地域の湿地で記録がある。

【現況・減少要因】北勢地域の丘陵地の湿地に生育していたが、圃場整備事業や溜池の改修、大規模な住宅団地や工場建設などにより生育地の一部は消失した。現在、生育地が残されているのは菰野町1、鈴鹿市2か所である。

【保護対策】生育の確認をし、生育地の湿地を含む周辺一帯の保護が必要である。湿地の富栄養化や高茎の湿性植物の侵入など遷移の進行を防ぐことも必要である。

（桐生定巳）

（写真：菰野町，2012年，市川正人撮影）



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

—

アキノハハコグサ

被子植物 キク科

Pseudognaphalium hypoleucum (DC.) Hilliard et B.L.Burtt

【選定理由】既知の生育地点数は10以下であるが、現存が確認されているのは1か所である。

【種概要】山地のやや乾いた日当たりの良い場所に生育する1年生草本。通常林道脇の崖状地に生育している。茎は上部で分かれ、高さ30~60 cm、白い綿毛がある。花期は9~11月、頭花は茎の先端に房状に密集してつき、黄色。

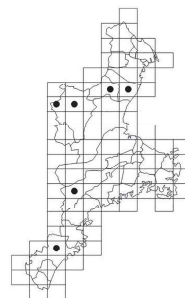
【分布】国内では本州、四国、九州、国外では朝鮮半島。県内では亀山市、鈴鹿市、伊賀市、大台町、熊野市に分布。

【現況・減少要因】個体数が少なく、道路の改修や拡幅により絶滅の危険性がある。

【保護対策】林道の拡幅に際しては、圧力にならないよう特に注意が必要である。

(花尻 薫)

(写真：名張市，1927年，黒川喬雄採集，三重県立上野高等学校所蔵)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

EN

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蕨類

藻類

キノコ

ホクチアザミ

被子植物 キク科

Saussurea gracilis Maxim.

【選定理由】既知の生育地は、いなべ市で、2001年に記録されたが、それ以降、確認されていない。

【種概要】日当たりの良い乾燥草原に生える多年草。茎は細く、高さ10~30 cm、葉は長三角形で、長さ6~10 cm、下面には綿毛があつて白っぽい。総苞は長さ13~15 mm、巾8~14 mm、多少くも毛あつて通常紫色を帯びる。花期は8~10月頃。

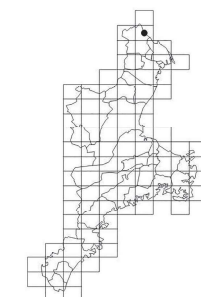
【分布】国内では本州（愛知県以西）、四国、九州の温帯。国外では朝鮮半島。県内ではいなべ市での標本記録（2001.9.21）がある。

【現況・減少要因】いなべ市の生育地は改変されて消失。再生の際には生育環境への配慮をする必要がある。

【保護対策】本種の生育地は日当たりの良い山野のやや乾燥地であることから、そうした環境を人的にほどこす必要がある。

【文献】163.

(葛山博次)



三重県 2025

CR

三重県 2015

—

環境省 2020

—

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ニッコウヒョウタンボク

被子植物 スイカズラ科

Lonicera mochidzukiana Makino var. *mochidzukiana*

【選定理由】生育地点数は1。2020年に1個体の生育が確認された。

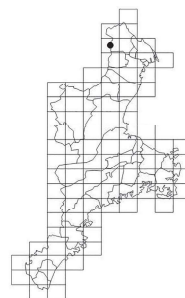
【種概要】山地に生える高さ1~2 mの落葉低木。葉は長さ3~10 cm、幅2~6 cmの卵形~卵状披針形。葉腋から出る5~20 mmの花柄の先に2個の白色花を着ける。花期は5~6月。7~8月に熟す液果は7 mm内外の球形である。固有種。

【分布】本州（関東から近畿北部）。県内ではいなべ市。

【現況・減少要因】生育場所からはシカ食害や遷移は懸念されないが、岩崖崩壊を憂慮する。

(市川正人)

(写真：いなべ市，2020年，坪井諒介撮影)



三重県 2025

CR

三重県 2015

—

環境省 2020

—

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蕨苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

カノコソウ

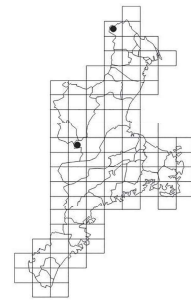
被子植物 スイカズラ科

Valeriana fauriei Briq.

【選定理由】既知の生育地点数は2であるが、各地点とも個体数は少ない。
 【種概要】多年草。走出枝はなく、根茎でふえる。高さ40~80 cm。節に長白毛がある。葉は羽状に全裂する、葉の鋸歯は尖る。花は淡紅色で、径3 mm、長さ6 mm、おしべは上に突き出す、密な集散花序を作る。花期は5~7月。
 【分布】日本全土、国外では朝鮮半島、中国、サハリンの冷温帯。県内ではいなべ市藤原岳、伊賀市、津市美杉町で記録されている。
 【現況・減少要因】生育環境は山地の草地であり、植生の遷移やニホンジカの被食圧の進行により減少したのではないかと考えられる。また、セイヨウカノコソウの代用品として、精神安定剤、血圧降下剤として根茎を利用したことから、採取圧があったことも考えられる。
 【保護対策】生育地の植生管理とニホンジカ対策が必要である。また、現況の確認とともに、採取圧からの保護も大切である。
 【特記事項】伊賀市産標本は三重県立博物館、及び三重県立上野高校に収蔵。
 【文献】69, 163.

(葛山博次)

(写真：津市，2020年，山本和彦撮影)



三重県 2025
CR
三重県 2015
CR
環境省 2020
—

マツムシソウ

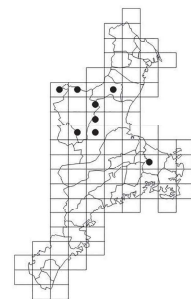
被子植物 スイカズラ科

Scabiosa japonica Miq. var. *japonica*

【選定理由】既知の生育地点数は8であるが、現在生育が確認できる地点は少ない。各生育地の個体数は50未満である。採取圧も開発圧もある。
 【種概要】山地の草原に生育する2年草。茎は高さ60~90 cmに達し、8~10月頃枝先に径4 cm前後の頭花を着けるが、三重県のは花がやや小さい。葉は対生、有毛、下部から中部の葉は複羽状に分裂する。
 【分布】北海道から九州の主として温帯域。県内ではいなべ市・亀山市・伊賀市・津市・名張市・伊勢市で記録がある。日本固有種。
 【現況・減少要因】山地・丘陵地の草原の減少により生育適地がほとんどなくなり、残っている場所ではニホンジカによる食害が著しい。
 【保護対策】草刈りや火入れによって草地の維持・管理を行っていく必要がある。
 【特記事項】三重県産のものはミカワマツムシソウ(var. *breviligura*)とする人もいるが、変異は連続的である(白鳥ほか2017)。
 【文献】34, 57, 117, 173.

(加田勝敏・芹沢俊介)

(写真：津市，2012年，市川正人撮影)



三重県 2025
CR
三重県 2015
CR
環境省 2020
—

フジワラサイコ

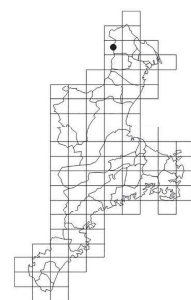
被子植物 セリ科

Bupleurum quadriradiatum Kitag.

【選定理由】三重県の固有種。既知の生育地点数は1。開花個体数は10未満である。
 【種概要】石灰岩地の疎林内に生育する多年生草本。見かけはホタルサイコに似ているが、地下に細い匍匐枝を出し、地上部は全体に繊細で、葉も著しく細く、広いものでも幅1.5 cm程度、基部はほとんど茎を抱かない。花期はホタルサイコよりずっと早く7月である。
 【分布】三重県いなべ市の藤原岳に固有の植物である。
 【現況・減少要因】狭い範囲に7~8の小群落があるに過ぎない。各小群落は大きくても30 cm四方ほどで、ニホンジカの食害により衰退している。将来的には石灰岩採掘により失われる恐れもある。
 【保護対策】食害防護柵が効果的だが、それを設置すると山草業者、マニア等による盗掘が危惧される。
 【特記事項】三重県指定希少野生動植物種。1964年に記載されて以来ほとんど無視されてきた種である。当初「ヤセホタルサイコ」とよばれたが、ハクサンサイコに近縁であるため和名を変更した。基準標本は首都大学東京牧野標本館、最近の標本は愛知みどりの会に収蔵。
 【文献】33.

(芹沢俊介)

(写真：いなべ市，2012年，市川正人撮影)

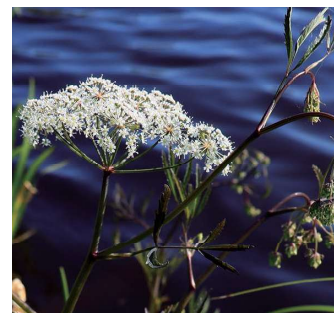


三重県 2025
CR
三重県 2015
CR
環境省 2020
—

ドクゼリ

Cicuta virosa L.

被子植物 セリ科



【選定理由】既知の生育地点数は5以下で、各地点50未満の個体数しかなく、生育地間の交流がない。

【種概要】湿原に生育する多年草。6～7月頃、高さ1m前後の茎頂に白色の傘状花を多数つける。

【分布】ユーラシア。国内では北海道から九州。県内では桑名市、伊賀市、志摩市で記録がある。

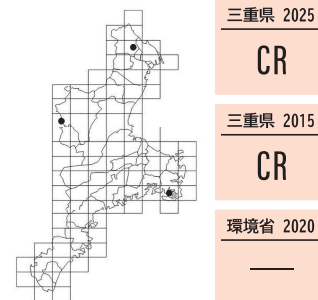
【現況・減少要因】現存する生育地は2地点で、湿地は埋立てによる工場用地、住宅用地等に改変される可能性が著しく高いため、いつ消滅するか分からない状況にある。

【保護対策】現存する自生地については市の関係者に周知徹底して、保護に努める必要がある。

【文献】34.

(加田勝敏)

(写真：志摩市，2024年，半田俊彦撮影)



セリモドキ

Dystaenia ibukiensis (Y.Yabe) Kitag.

被子植物 セリ科



【選定理由】既知の生育地点は1か所である。個体数は少ない。

【種概要】茎は直立し、上部は枝をわけ、節に白毛が出る。葉は2～3回羽状にわかれ、小葉は不規則に裂刻し、縁と裏面脈状に短毛が出る。大散形花序の柄は数本の条と毛状の細突起がありほぼ同長。小総苞片は線形で有毛。7～9月に開花。

【分布】本州（滋賀県以北の主として日本海側）に分布する日本固有種。県内ではいなべ市の鈴鹿山系北部の石灰岩地域で2013年に生育が確認された。

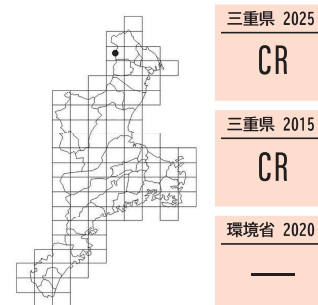
【現況・減少要因】たいへん狭い面積の岩の隙間に十数株生育しているのみで、山の崩壊による環境の変化や土建業者による採石が進んでいるので、消滅の危険がある。

【保護対策】土建業者による採石を抑止すること。近くにCR、ENに該当する植物も多いので食害や踏みつけなどを防ぐための防護柵を設ける必要がある。

【特記事項】シコクフクジュソウをはじめ、その他の絶滅危惧I類の種が11種以上生育している県内でも狭い特異な場所なので、特別保護区にするか、天然記念物に一部地域を指定すべきである。

(山脇和也)

(写真：滋賀県，1966年，田中年秋採集，三重県総合博物館所蔵)



フキヤミツバ

Sanicula tuberculata Maxim.

被子植物 セリ科



【選定理由】既知の生育地点数は2であり、個体数は250未満である。

【種概要】高さ8～20cmになる多年生草本。葉は根生、長柄あり葉身は3小葉に分岐、各小葉はさらに2～3裂。5月茎の先端に散形花序をつける。小さな緑色の花を開く、中央の1～4個が雌花、まわりは雄花。果実はコブ状突起を密生し、先端は刺毛となる。

【分布】国内では本州（中部以西）、四国、九州、国外では朝鮮半島。暖温帯から冷温帯。県内では鈴鹿山脈の北部（いなべ市）に分布する。

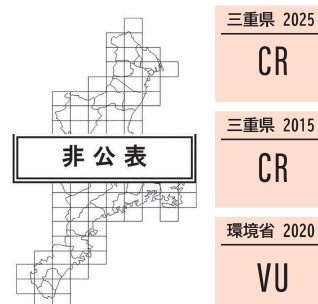
【現況・減少要因】登山者の増加により踏みつけや採取による人為圧を強く受けて減少している。さらに生育地の上層木の繁茂により光量が不足し衰退している。

【保護対策】生育地の一部は登山道となっており、早急に迂回路を作る必要がある。また、生育地の上層木の定期的な間伐や枝打ちを行うことも大切である。分布情報の公表にあたっては慎重な配慮が必要である。

【文献】97.

(葛山博次)

(写真：いなべ市，2018年，市川正人撮影)



哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
苔苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

イチイ

裸子植物 イチイ科

Taxus cuspidata Siebold et Zucc.

【選定理由】既知の生育地点数は5以下。県内では高標高地に分布が限定され、個体数が少なく、野生植食動物の食害などにより存続が危ぶまれる。

【種概要】高木性の常緑針葉樹。樹高20 m、直径は90 cm程度。幹は典型的な梢殺（ウラゴケ）で、先細りが著しい。樹皮は赤褐色で薄く縦にさける。葉は柔らかく、線形で長さ1.2～2.0 cm。先は尖るが触っても痛くない。種子は卵状球形で下半分は多肉の仮種皮に包まれる。仮種皮は冬に紅色となる。

【分布】国内では北海道、本州、四国、九州の温帯から亜寒帯に分布。国外では樺太、千島、朝鮮半島、中国にも分布。県内では大台町の高標高地（西谷、大杉谷）、明神岳などで生育が確認されている。

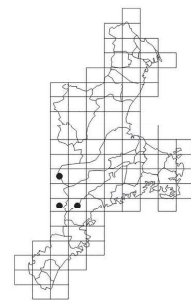
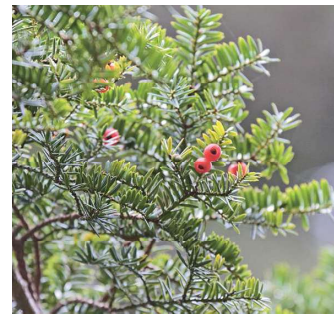
【現況・減少要因】生育地の天然林が林業開発等で、スギ、ヒノキ植林に転換され、また野生植食動物の食害で更新が妨げられている。

【保護対策】野生植食動物の食害等を防ぎ、現存する母樹、稚幼樹の保護が必要。

【文献】139.

(武田明正)

(写真：大台町，2023年，池田博撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

ヒメコウホネ

被子植物 スイレン科

Nuphar subintegerrima (Casp.) Makino

【選定理由】既知の生育地点数は5以下。生育地はため池、水路、湧水のある湿地等であるため、開発などにより消失する可能性が高い。

【種概要】浮葉と抽水葉は円心形、長さ5～15 cm、幅4～15 cm、基部は心形で葉端は重なり合う。花は黄色、径2.5～3.5 cm、花期は6～10月。かつてヒメコウホネとされていた種の中の東海型と西日本型が別種であることが示され、西日本型がサイコクヒメコウホネとして2015年に新種記載された。

【分布】国内では愛知県、岐阜県、三重県。県内では伊勢市、志摩市、南伊勢町で記録がある。サイコクヒメコウホネが県下で多く見られるのに対し、本種の生育地は限定されている。

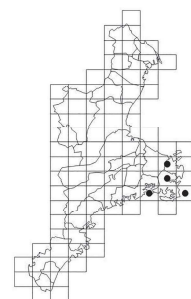
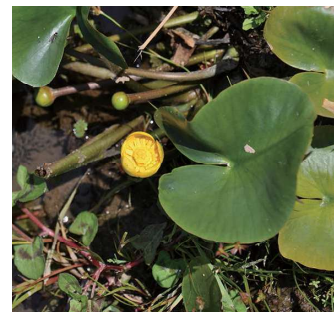
【現況・減少要因】水質汚濁や河川、池沼の開発が減少の主要因とされている。南伊勢町では、50 kw未満の小規模太陽電池発電設備建設が古い湿田に無秩序に設置され、生育地が失われている。一方、人手が入らなくなったことにより衰退現象を起こしている生育地もある。

【保護対策】生育地の保全とともに、隔年おきくらいに生育地を攪拌する管理も大切である。

【特記事項】志摩市の天然記念物に指定されていた生育地は近年消滅した。

(岡 与一・半田俊彦)

(写真：南伊勢町，2017年，山本和彦撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

VU

環境省 2020

VU

シデコブシ

被子植物 モクレン科

Magnolia stellata (Siebold. et Zucc.) Maxim.

【選定理由】既知の生育地点数は10以下であり、生育環境が限られている。

【種概要】落葉性の亜高木で、高さ3～8 (15) m。花は3月下旬～4月上旬、葉の展開前に咲く。花弁は12～18枚もあり、白色または淡紅色。

【分布】国内では三重、岐阜、愛知の3県にまたがる地域の固有種。県内では北勢地域に分布。丘陵地の侵食の及んでいない小谷の底部に生育する。

【現況・減少要因】いなべ市、菰野町、四日市市で計6か所の生育地が確認されている。宅地造成等による丘陵地の開発や園芸目的の採取が懸念される。コブシとの交雑も懸念される。

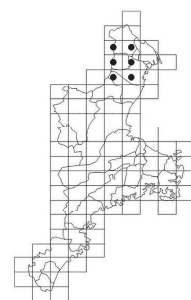
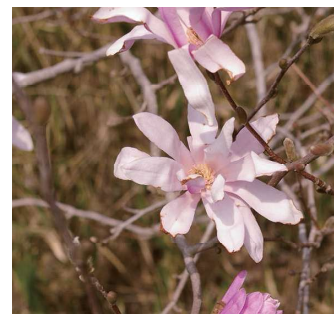
【保護対策】生育地は湧水に涵養された特異な立地であり、シデコブシのほか、シラタマホシクサ、ミカワバイケイソウ、ヘビノボラズなどの東海丘陵要素植物がみられる。この特異な立地全体の保全が必要である。

【特記事項】菰野町田光は国指定天然記念物、四日市市川島町は三重県指定天然記念物、四日市市桜町は市指定天然記念物にそれぞれ指定されている。三重県指定希少野生動物植物種。

【文献】20, 61, 82, 103, 123.

(後藤稔治・岡田峰尚)

(写真：菰野町，2013年，市川正人撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

NT

ヒロハテンナンショウ

被子植物 サトイモ科

Arisaema ovale Nakai var. *ovale*

【選定理由】既知の生育地点数は5以下。各生育地の個体数は50未満しかない。

【種概要】おもにブナ林の林下に生え、高さは15～55 cm。葉は1または2枚で、5～7枚の小葉をつける。花期は5～6月で、花序は花時に葉よりも下につく。仏炎苞は黄緑色から緑色で、隆起する白糸がある。

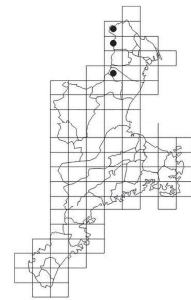
【分布】国内では北海道、本州（福井県以北の日本海側に多い）、九州北部。国外では樺太南部、朝鮮半島に分布。県内では北勢地域の鈴鹿山系中北部に分布する。

【現況・減少要因】御在所岳と藤原岳から鈴北岳にかけての落葉樹林下および草原に生育する。大きな環境変化がなければ個体数の増減はないと思われる。

【保護対策】国定公園内でも開発のおそれはあるが、今のところその予定は無い。将来開発されないよう手をうつべきである。

(山脇和也)

(写真：いなべ市，2019年，池田博撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物

ユキモチソウ

被子植物 サトイモ科

Arisaema sikokianum Franch. et Sav.

【選定理由】既知の生育地点数は5以下であり、採取圧力が強く、減少傾向にある。

【種概要】山地の林床に生育する多年草。葉は2枚で3～5の小葉にわかれる。花期は4～5月で、仏炎苞は紫褐色、花序軸先に白くて丸い付属体を持つ。

【分布】国内では本州（静岡県、三重県、奈良県）、四国。県内では伊賀市、津市、松阪市で記録がある。

【現況・減少要因】山地林下に生育しているが、園芸目的の採取によって減少している。

【保護対策】生育地での採取をなくすことが第一である。そのためには生育地の情報の公開を控えることも必要であろう。

(山路武夫)

(写真：飯高町，2014年，山本和彦撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

VU

維管束植物
苔苔類
藻類
キノコ

EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

トチカガミ

被子植物 トチカガミ科

Hydrocharis dubia (Bl.) Backer

【選定理由】既知の生育地点数は5以下と少ない。未知の生育地も多くはない。

【種概要】池や溝に生える多年草。長い水中茎は横に這い、節から根を出し群生する。葉は長柄をもち、葉身は円形、全縁で径4～7 cm、裏面の中央に気胞があり、水面に浮かぶ。花は8～10月、雄花と雌花がある。

【分布】国内では本州から沖縄。国外では東南アジア、オーストラリアに広く分布。県内では桑名市、伊賀市、紀北町からの記録がある。

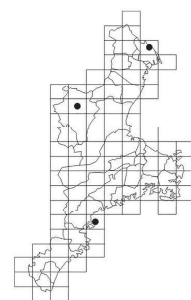
【現況・減少要因】伊賀市、紀北町の分布情報は、過去の標本記録や文献によるもので、最近の確認情報はない。池沼の開発により自生地が消失したことや除草剤の使用、水質の悪化等により減少あるいは消滅したと思われる。桑名市の生育地は2011年に新たに発見されたもので、農業用水路内に小群落が認められている。

【保護対策】本種の分布状況の把握には、県内の詳細な池沼の調査が必要である。本種の有無にかかわらず、水辺の動植物が将来にわたって存続していくためにも、現在残されている池沼や湿地をこれ以上減らさないようにすることが重要である。

【文献】57.

(山本和彦)

(写真：桑名市，2011年，市川正人撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

NT

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蕨類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

コウガイモ

被子植物 トチカガミ科

Vallisneria denseserrulata (Makino) Makino

【選定理由】北勢地域での文献記録があるが、評価できるほどの生育情報がなく2015RDBでは情報不足（DD）となっていた。近年になって、北勢地域の一点で自生地が確認され、個体数が多いことからENと評価された。

【種概要】淡水に生える多年生の沈水植物。葉は根生，線形で長さ10～60 cm，幅5～11 mm。葉縁の鋸歯は多種に比べて目立つ。葉腋部から走出枝を伸ばし，先端に越冬芽ができる。走出枝には多数の小さい突起がある。花期は8～10月。雌雄異株。

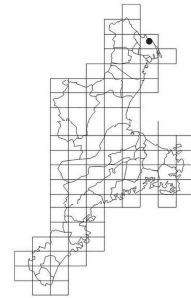
【分布】国内では本州～九州，国外では中国に分布する，県内では揖斐川の支流で確認されている。

【現況・減少要因】2014年に生育が確認されているが，現況は不明。

【保護対策】自生地の開発規制が重要。

【文献】171.

(山本和彦)



三重県 2025

EN

三重県 2015

DD

環境省 2020

—

サガミトリゲモ

被子植物 トチカガミ科

Najas chinensis N.Z.Wang

【選定理由】既知の生育地点数は5以下であり，各生育地点の生育個体数も少ない。

【種概要】溜池や水田などに生育する一年生の沈水植物。茎は多く分枝し，葉は線形で長さ1.5～3 cm，幅約0.5 mmでトリゲモ類では最も広く（別名：ヒロハトリゲモ），縁に細鋸歯がある。葉鞘の先端は切形または円形。花期は7～9月。長楕円形の種子表面には4～6角形の網目模様がある。固有種。

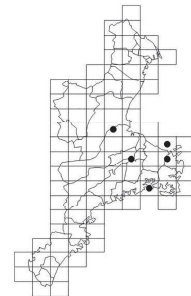
【分布】本州，四国，九州。県内では津市，多気町，伊勢市，鳥羽市，南伊勢町に記録がある。

【現況・減少要因】開発圧力やアメリカザリガニの食害が減少要因となる。

【保護対策】環境影響評価結果に配慮した開発計画をすること。ザリガニの駆除に取り組むことなどである。

(市川正人)

(写真：多気町，2001年，中優採集，三重県総合博物館所蔵)



三重県 2025

EN

三重県 2015

—

環境省 2020

VU

イトトリゲモ

被子植物 トチカガミ科

Najas gracillima (A.Braun ex Engelm.) Magnuss

【選定理由】既知の生育地点数は5以下である。

【種概要】貧栄養のため池，水田，小水路に生育する沈水性の一年草。葉はトリゲモの仲間では最も細い。花期は6～9月。果実は2個ずつ並んでつき，表面には縦に長い長方形の網目模様がある。

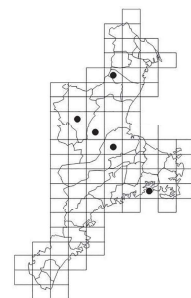
【分布】日本を含む東アジア。国内では北海道から九州までの全土。県内では鈴鹿市，津市，松阪市，南伊勢町，伊賀市に記録がある。

【現況・減少要因】伊賀市の記録は1951年の記録でありその後については不明。乾田化や埋め立てによる生育地の減少，水田の耕作放棄による荒廃，水田に使用されている除草剤の影響が減少の原因と考えられる。

【保護対策】水田で確認された場合には，必要以上の除草剤を使用しないよう啓発に努める必要がある。

(中 優・福田知子)

(写真：津市，2021年，池田博撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

NT

オオトリゲモ
Najas oguraensis Miki

被子植物 トチカガミ科

【選定理由】既知の生育地点数は10以下であり、生育地の改変などの人為圧力が極めて強く、減少するおそれがある。

【種概要】一年生の沈水植物。湖沼、溜池、まれに水路などに生育。茎は細く円柱形で、ほとんどすべての節で二叉状に分枝する。葉は基本的には対生であるが、分枝する節では3輪生。葉身は線形で長さは2~3cm。葉縁に多数の鋸歯がある。花期は6~8月。種子は長楕円形で長さ3~3.5mm、横に長い梯子状の網目模様がある。トリゲモとは雄花の葯室の数が4室であることで区別できる。

【分布】国外では中国に分布。国内では北海道を除く全国各地に分布し、県内では桑名市、松阪市、多気町、玉城町で記録がある。

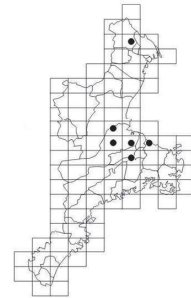
【現況・減少要因】県内では溜池での確認例が多い。桑名市は1998年に調整池という不安定な生育場所での確認であるので、消失している可能性もある。

【保護対策】生育地である溜池などで改修工事等を行う場合には、生育場所の干出を避け、改修後の個体群の存続を可能にする配慮が必要である。

【文献】96。

(中 優・福田知子)

(写真：多気町，2019年，池田博撮影)



三重県 2025	EN
三重県 2015	EN
環境省 2020	—

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
苔苔類
藻類
キノコ

シバナ
Triglochin asiatica (Kitag.) A. et D.Löve

被子植物 シバナ科

【選定理由】既知の生育地点数は5以下であり、各生育地の個体数は少ない。また、各生育地への開発圧が強い。

【種概要】河口や干潟の塩性湿地に生える多年草。長さ10~40cm。直立する長さ15~50cmの花茎を出し、5~10月に穂状花序に緑色の花を多数つける。

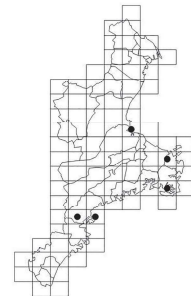
【分布】国内では北海道から九州、国外では北半球の温帯に広く分布する。県内では松阪市、伊勢市、志摩市、南伊勢町、紀北町で記録がある。

【現況・減少要因】海岸の護岸工事や干潟の埋め立て等の開発により、生育地が極度に減少した。

【保護対策】現在の生育地の環境保全が重要である。また、やむを得ず工事を実施する場合には、潮の干満によって海水が自由に出入りできる干潟と、それにつながる湿地の保全に配慮した工法を採用する必要がある。

(岡 与一・半田俊彦)

(写真：紀北町，2010年，山本和彦撮影)



三重県 2025	EN
三重県 2015	EN
環境省 2020	NT

EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

コバノヒルムシロ
Potamogeton cristatus Regel et Maack

被子植物 ヒルムシロ科

【選定理由】既知の生育地点数は1。現状のデータではCR相当だが、近似種ホソバミズヒキモとの混同により十分に認識されていない可能性が高いので、ランク評価を低くした。

【種概要】ホソバミズヒキモに酷似する小形のヒルムシロ属植物。線形の沈水葉と長楕円形浮葉の両方を持つ。ホソバミズヒキモとの区別は、果実の背陵にニワトリのとさか状の突起があることによる。

【分布】国内では北海道、本州、四国、九州。国内の分布は瀬戸内地方にやや偏在する傾向がある。国外ではロシア極東、中国、朝鮮半島、台湾。溜池にまれに生育する。

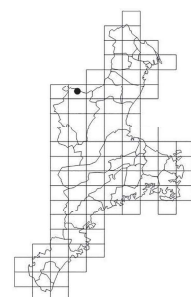
【現況・減少要因】近畿地方ではまれな浮葉植物。県内での確実な記録は1か所(伊賀市)のみ。溜池の埋め立てが減少要因になっている可能性があるが、県内での減少要因は不明。

【保護対策】生育地の開発(溜池の埋め立て)規制および水質の維持。また、今後の調査により県内における本種の正確な分布と生育実態の把握が必要。

【文献】86。

(藤井伸二)

(写真：伊賀市，1947年，百永章撮影，三重県総合博物館所蔵)



三重県 2025	EN
三重県 2015	EN
環境省 2020	VU

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蕨類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

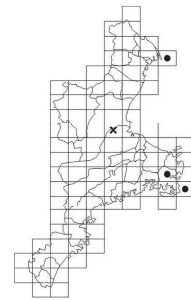
リュウノヒゲモ

被子植物 ヒルムシロ科

Potamogeton pectinatus L.

【選定理由】既知の生育地点数は5か所以下であり、減少するおそれがある。
 【種概要】群生する多年生の沈水植物。淡水または汽水域の湖沼、河川などに生育。水中茎は糸状で、上部でよく分枝し、草長は1mに達することもある。沈水葉は針状で長さは5~15 cm。花期は6~8月。夏頃より地下茎の先端に塊茎を形成する。この塊茎の有無あるいは本種の葉には鋸歯があることで、カワツルモ類とは区別できる。
 【分布】世界中に広く分布。国内では全国各地に分布し、県内では木曾岬町、松阪市、志摩市に分布。
 【現況・減少要因】松阪市では以前、内陸部にあるため池で確認されていたが、生育していた水草は全滅した。その原因は不明である。
 【保護対策】現存する生育地については、絶えず監視していく必要がある。
 【文献】96。

(中 優・福田知子)



三重県 2025
EN
三重県 2015
EN
環境省 2020
NT

キンコウカ

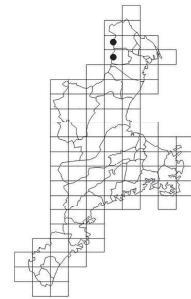
被子植物 キンコウカ科

Narthecium asiaticum Maxim.

【選定理由】既知の生育地点数は5以下であるが、個体数が少ないことが確認された。その結果、VU (2015) からENに変更された。
 【種概要】多年生草本。根茎は細く横に這っている。葉は2列に開いて根生し、剣のような線形、長さ10~20 cm。多数の葉脈が縦走するが主脈はなくて質は厚手である。7~8月、花茎を出し、高さは葉をこえて25~30 cmになる。頂に穂のような総状花序をつけ、鮮黄色の花を開く。花被片は6個、平開して星形、背側に緑色の脈がある。おしべ6個は花被片より短く、花糸には著しい白色の綿毛がある。
 【分布】日本固有種。国内では北海道、本州（北部・中部・近畿）。県内では鈴鹿山脈の北・中部（いなべ市、菰野町）に生育する。
 【現況・減少要因】本種は冷温帯の湿原または水湿地に生育する。そのため水環境の変化の影響を受けやすい。また採取圧は極めて強い。
 【保護対策】安定した水の確保、そのための水源地の保護および採取圧に対する強い規制が必要である。
 【文献】34, 81。

(葛山博次)

(写真：菰野町，2014年，池田博撮影)



三重県 2025
EN
三重県 2015
VU
環境省 2020
—

シロシャクジョウ

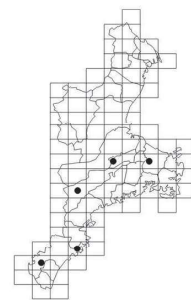
被子植物 ヒナノシャクジョウ科

Burmattia cryptopetala Makino

【選定理由】既知の生育地点数は10以下であり、生育地は改変されやすく、不安定である。
 【種概要】湿った樹林下に生える菌従属栄養多年草。高さ5~15 cm。根茎は狭細で地中に直下し、細いひげ根をだす。茎は1本で直立し、白色で細く、まばらに小さいリン片葉を互生する。花は8~10月、茎の先に1~数個つけ、白色で上部はわずかに黄味を帯び、長さ8~10 mm、短い柄があり3個の広い翼がある。外花被片は卵形、鋭頭、長さ1.5~2 mm、内花被片は発達しない。
 【分布】暖温帯、亜熱帯に生育する。国内では本州（近畿以西）、四国、九州、沖縄。県内では伊勢市、多気町、大台町、大紀町、紀北町、尾鷲市、熊野市などに分布する。
 【現況・減少要因】常緑広葉樹林内に生育するが、年数を経たスギ植林下にも生育。そうした立地は、森林の皆伐や土地の改変を受けやすく、絶滅したところもある。
 【保護対策】現存する地域の森林の皆伐や土地の開発を抑止し、森林の間伐、草刈などにより生育環境の維持に努める必要がある。
 【文献】54, 57。

(葛山博次)

(写真：大台町，2023年，井元俊介撮影)



三重県 2025
EN
三重県 2015
EN
環境省 2020
—

ホンゴウソウ
Sciaphila nana Blume

被子植物 ホンゴウソウ科

【選定理由】既知の生育地点数は15以下。各自生地の個体数は50未満しかない。

【種概要】暗い林下の落葉の間に生える多年生の菌従属栄養植物。地下に白色の根茎がある。茎の高さは3~13 cm, きわめて細い。葉は鱗片状で長さ約1.5 mm, 茎とともに紫褐色を呈す。7~10月に4~15個の花をつける。

【分布】国内では本州（関東以西）、四国、九州、沖縄に分布。県内では四日市市、松阪市、伊勢市、鳥羽市、度会町、多気町、大台町、南伊勢町、大紀町、紀北町、熊野市等からの記録がある。

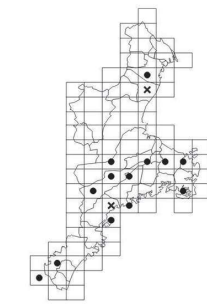
【現況・減少要因】四日市市楠町の自生地は、土地の改変により消失。伊勢市、多気町でも、最近の確認情報はない。2005年に大紀町で数株の個体が確認され、その後紀北町からも新産地が報告されている。度会町および紀北町の自生地は開発により消失。

【保護対策】生育地の森林環境を保全する必要がある。

【特記事項】四日市市楠町本郷は本種の基準標本産地で、1902年に発見されている。

(山本和彦)

(写真：大台町，2023年，井元俊介撮影)



三重県 2025	EN
三重県 2015	EN
環境省 2020	VU

- 哺乳類
- 鳥類
- 爬虫類
- 両生類
- 汽水・淡水魚類
- 昆虫類
- クモ類
- 貝類
- 甲殻類
- その他動物
- 維管束植物
- 蘚苔類
- 藻類
- キノコ

チャボシライトソウ
Chionographis koidzumiana Ohwi var. *koidzumiana*

被子植物 シュロソウ科

【選定理由】既知の生育地点数は10以下，採取圧がきわめて強い。

【種概要】多年草。地下茎は短い。葉は束生し，長さ2~8 cm。葉身は卵形から狭卵形，先端は鈍頭，辺縁の下部は細波状となり，基部は細まって柄状になる。花期は5月，白色または淡い緑色。

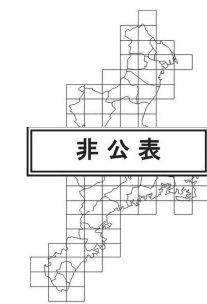
【分布】日本固有種。本州（紀伊半島，愛知県），四国，九州に分布。県内では伊勢市，大台町，紀北町，尾鷲市，熊野市で記録がある。

【現況・減少要因】園芸採取が減少の最大要因。

【保護対策】採取防止のため分布の公表は慎重な配慮が必要である。また，生育地はやや乾燥しているが，直射日光があたることにより枯れると思われるので，生育地周辺の伐採には配慮が必要である。

(花尻 薫)

(写真：大台町，2023年，山本和彦撮影)



三重県 2025	EN
三重県 2015	EN
環境省 2020	VU

- EX
- EW
- CR
- EN
- VU
- NT
- DD

マルバサンキライ
Smilax stans Maxim

被子植物 シオデ科

【選定理由】既知の生育地点数は1。個体数は250未満である。シカ食害圧力が強い。

【種概要】高さ40 cm前後の多年草。茎に棘はなく稜がある。葉は心形の卵形~卵円形で3~7 cm, 鋸歯は無い。巻きひげは無い。葉腋に2~5の散形花序を着け6月に咲く。シオデ類の仲間の中では両性花だけを持つタイプである。固有種。

【分布】本州（関東以西）。県内ではいなべ市の石灰岩地だけで記録されている。

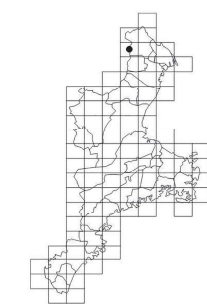
【現況・減少要因】シカ食害が激しく岩の間隙に残された個体だけが生育している。従って花を着けるまでには至らない。シカ食害や石灰岩採掘が減少要因である。

【保護対策】シカ個体数管理対策や進行中の石灰岩採掘を中止することである。

【特記事項】藤原岳は早春植物・石灰岩性植物の宝庫である。自然に負荷がかかる開発行為は後世のためにも慎むべきである。

(市川正人)

(写真：いなべ市，2015年)



三重県 2025	EN
三重県 2015	EN
環境省 2020	—

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蕨類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ヒロハノアマナ

被子植物 ユリ科

Amana erythronioides (Baker) D.Y.Tan et D.Y.Hong

【選定理由】既知の生育地点数は5以下。生育環境の悪化や園芸目的の採集のため個体数が減少している。

【種概要】明るい林内や日当たりのよい草地に生える多年草。葉の中央に白い線状の斑があり、花茎の上に3枚の苞をつける。花期は3~4月。

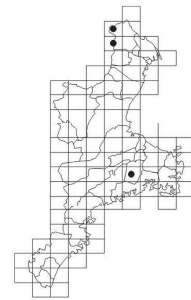
【分布】国内では東北地方（福島県）から九州（熊本県）にかけて分布。県内ではいなべ市の藤原岳一帯に生育するが、度会町でも生育が確認された。

【現況・減少要因】増加する登山者の踏みつけによる生育環境の悪化や園芸目的の採集、また、遷移による草地の減少などにより生育地は狭められている。

【保護対策】生育地も限られており、地元の理解と協力を得て、生育地周辺の環境も含めて保護することが望まれる。

(桐生定巳)

(写真：いなべ市，2015年，市川正人撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

VU

ミノコバイモ (コバイモ)

被子植物 ユリ科

Fritillaria japonica Miq

【選定理由】既知の生育地点数は5以下であるが個体数が多いことが確認され、カテゴリーを従前のCRからENに変更。

【種概要】アワコバイモに酷似するが、次の点で区別できる。花被片の先端が鋭形、葯の色が白色、染色体数2n=22。花期は3~4月。代表的な早春植物。

【分布】日本固有種。本州（三重、愛知、岐阜、滋賀、静岡、石川、福井、兵庫、岡山の各県）の冷温帯。県内においては鈴鹿山脈北部（いなべ市）、鈴鹿市に分布。

【現況・減少要因】生育地の環境変化、特にヒノキやシロダモなどの侵入とその繁茂に伴い大きく減少。また、近年の豪雨による土石流は生育地を破壊。さらに採取や踏みつけ等の人為圧を受けることが多く、個体数は大きく変動することが考えられる。

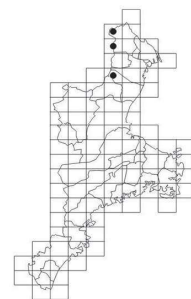
【保護対策】ヒノキ、シロダモの伐採により生育環境を再生し、同時に採取圧を排除する対策が必要である。また、分布情報の公表にあたっては慎重な配慮が必要である。

【特記事項】近似のアワコバイモは花被片の先が円形で、葯の色は紫色、染色体2n=22。四国に分布する。コシノコバイモは花被片のふちに突起があることでミノコバイモから区別される。

【文献】34, 101, 102.

(葛山博次)

(写真：いなべ市，2015年，市川正人撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

CR

環境省 2020

VU

ヤマユリ

被子植物 ユリ科

Lilium auratum Lindl.var.*auratum*

【選定理由】既知の生育地点数は5以下であり、植栽している地域はあるが、野生のものは少なくなっている。

【種概要】山の草地に生育する多年草。夏に大きな花を咲かせ芳香がある。花は白色に赤褐色の斑点と黄色の線が入る。

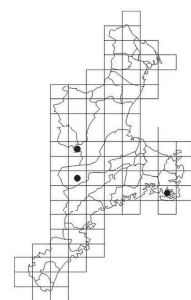
【分布】日本固有種で本州（東北地方から近畿地方で北陸にはない）。県内では津市、松阪市、志摩市で記録がある。

【現況・減少要因】中勢の山間地の里山には野生と思われるものがわずかに生育している。里山へのかかわりが薄れ、山の草地は荒れ、サルやニホンジカの食害もあって、人の助けを受けてわずかに残っている状況である。

【保護対策】地域のシンボルとして育てられているところがあるが、新しい場所に球根を植えて育てることは野生植物の保護にはあたらない。生育地の草刈りをするなどして野生個体群を守っていくことが大切である。

(山路武夫)

(写真：松阪市，2013年，池田博撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

ホソバナアマナ

被子植物 ユリ科

Lloydia triflora (Ledeb.) Baker

【選定理由】既知の生育地点数は5以下。各生育地の個体数は50未満しかなく、採取圧がある。

【種概要】山地の草原に生える多年草。鱗茎からはふつう1葉と1本の茎が立ち、葉の幅は1.5～3 mm、茎の途中に小さな1葉がつき、径1～1.5 cmの白色の花を1～5個つける。花期は5～6月。

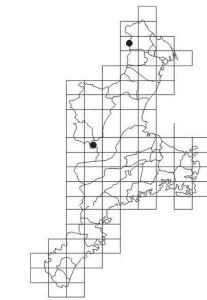
【分布】国外では朝鮮半島、中国、千島、樺太、カムチャツカなどに分布。県内ではいなべ市、津市に記録がある。

【現況・減少要因】いなべ市藤原町と津市美杉町の石灰岩地帯で記録されている。個体数が少なくまた、採取される危険性がある。

【保護対策】国定公園内でも石灰採掘による開発のおそれがあり、開発、採取防止策が必要である。

(山脇和也)

(写真：いなべ市，2014年，池田博撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

苔苔類

藻類

キノコ

キイジョウロウホトトギス

被子植物 ユリ科

Tricyrtis macranthopsis Masam.

【選定理由】既知の生育地点数は5以下であり、採取圧が強い。

【種概要】岸壁に垂れ下がって生える。茎の長さ40～80 cm、分枝はしない。葉は茎の左右に2列に並び、基部が深く茎を抱くのが特徴である。花期は9～10月で、上部の葉腋から1花を出し、斜め下向きに咲き黄色。

【分布】国内では紀伊半島南部（和歌山県、奈良県、三重県）。県内では紀州地域に分布。

【現況・減少要因】園芸採取が最も大きな圧力であり、道路工事や自然災害による崖の崩落も減少の一因となっている。

【保護対策】里山や道路端の生育地ではほとんど見かけなくなった。奥山にある崖の生育地を保護するため、生育地の公表を避けることが重要である。

(花尻 薫)

(写真：紀宝町，2013年，山本和彦撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

VU

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ヒナラン

被子植物 ラン科

Amitostigma gracile (Blume) Schltr.

【選定理由】既知の生育地点数は5以下。各自生地の個体数はおよそ50未満しかなく、採取圧も強い。

【種概要】湿った岩上に生える多年草。地下に紡錘状に肥厚した根があり、春に地表近くに1個の葉を展開し、花茎を伸ばす。花は6～7月、淡紫色の小花が10～15個、一方に偏ってつく。

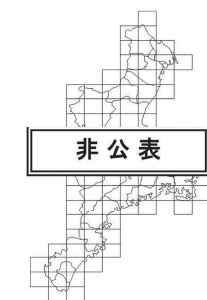
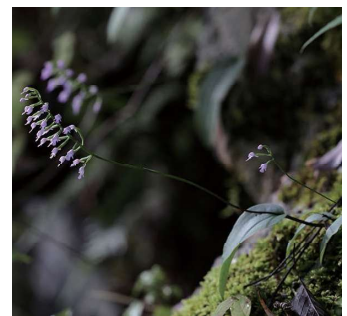
【分布】国内では本州（関東地方以西）、四国、九州。国外では朝鮮半島、中国に分布。県内では北勢、伊賀、中勢、南勢地域からの分布情報がある。

【現況・減少要因】県内の分布情報は過去の標本からのものもあり、現在、生育が確認されているのは伊賀市と中勢、南勢地域のみである。各生育地とも個体数はわずかであり、危機的な状況である。園芸目的による採取が減少の主因。

【保護対策】マニアによる乱獲を避けるためにも生育地の公表を避けることが必要。また今後生育地周辺の不注意な開発行為により絶滅することのないよう十分な配慮が必要。

(山本和彦)

(写真：大台町，2024年，三谷有幸撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

EN

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蕨類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

イワチドリ

被子植物 ラン科

Amitostigma keiskei (Maxim. ex Franch. et Sav.) Schltr.

【選定理由】既知の生育地点数は5以下。各自生地の個体数は50未満しかなく、採取圧も極めて強い。

【種概要】溪流の岸壁に生育する多年草。地下に紡錘状に肥厚した根があり、春に地表近くに1個の葉を展開し、花茎を伸ばす。花は4～5月。

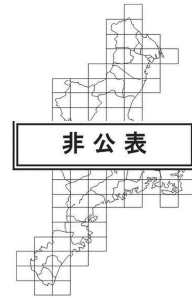
【分布】本州（中部地方・近畿地方）、四国、伊豆諸島に分布。県内では南勢、紀州などからの標本記録がある。

【現況・減少要因】1970年代前半頃までは、紀州の溪流沿いの岸壁に大きな群生がみられ、花の時期には岸辺を彩っていた。その後、園芸目的の乱獲により、個体数は激減し、尾鷲市では絶滅した。現在は他の地域でもわずかに残るのみで危機的な状況である。

【保護対策】県内ではわずかな個体数しか残っていない。これらがマニアに乱獲されないよう、生育地の情報は公表しないことが大切。また、今後河川工事により絶滅することのないよう十分な配慮が必要である。

(山本和彦)

(写真：大台町，2019年，川竹守撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

EN

ユウシュンラン

被子植物 ラン科

Cephalanthera erecta (Thunb.) Blume var. *subaphylla* (Miyabe et Kudô) Ohwi

【選定理由】標本記録による既知の生育地点数は10以下。個体数は各地点、10未満。

【種概要】ギンランに類似するが、ギンランより小さく、高さ10 cm以下。葉がほとんどなく、花も1～3個と少ない。花期は5月。

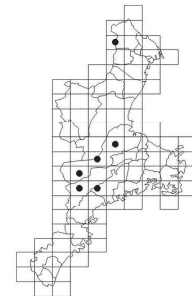
【分布】北海道、本州、四国、九州に分布する。県内ではいなべ市、松阪市、大台町、大紀町から記録されている。

【現況・減少要因】林縁や林道脇に生育。林道に近い道路の拡幅工事や森林伐採等で消失する恐れがある。

【保護対策】森林伐採、道路拡幅工事等の際には生育地とその周辺の環境を保全するような対策を講じる必要がある。小さな個体なので、花の時期でないと確認が難しいこともあり、これまで見過ごされてきた産地もいくつかあると思われる。今後、新産地情報を収集することも必要である。

(山本和彦)

(写真：大台町，2024年，井元俊介撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

VU

マヤラン

被子植物 ラン科

Cymbidium macrorhizon Lindl.

【選定理由】既知の生育地点数は5以下。各生育地の個体数は50未満である。

【種概要】山地林内に生育する無葉の菌従属栄養多年草。7～8月頃、高さ15～20 cmの花茎上に2～5個の紅紫色を帯びた花をつける。固有種。

【分布】本州（関東地方以西）、四国、九州。県内ではいなべ市、伊賀市、南伊勢町に記録がある。

【現況・減少要因】伊賀市で1950年代に記録されている。いなべ市では2か所で現存する。

【保護対策】生育地の保全を要する。

(加田勝敏・市川正人)

(写真：いなべ市，2021年，池田博撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

VU

ナギラン

被子植物 ラン科

Cymbidium nagifolium Masam.

【選定理由】既知の生育地点数は10以下であり、個体数も少ない。また採取圧も極めて強く、減少傾向にある。

【種概要】常緑広葉樹林の林床に生える常緑のラン。偽球茎は連球状に並び、先端に1～3個の葉をつける。葉の長さは柄を含めて20～30 cm、幅2～3 cm。花は6～7月に咲き、全体白色で、わずかに淡紫色を帯びる。

【分布】国内では本州（関東地方以西）、四国、九州、沖縄、国外では台湾、タイ、ミャンマー、マレーシア、ヒマラヤに分布。県内では南勢および紀州地域での記録がある。

【現況・減少要因】比較的良好とまとまった常緑広葉樹林内に散見されるが、1地点で数株ほどと個体数は極めて少ない。減少要因は伐採や園芸目的の採取。

【保護対策】生育地周辺の森林伐採は控える、生育地の公表は避ける等の手だてが必要。

(山本和彦)

(写真：御浜町，2021年，三谷有幸撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

VU

イチヨウラン

被子植物 ラン科

Dactylostalix ringens Rchb.f.

【選定理由】既知の生育地点数は5以下で、各生育地の個体数はおよそ50未満しかない。

【種概要】深山にみられる多年草。地下茎は短く這う。葉は1個、卵形から広卵形、長さ3～6 cm、幅3～4 cm。花は5～7月、花茎の先に1個つき高さ10～20 cm。萼片および側花弁は淡緑色で、紫色の斑点がある。

【分布】国外では南千島、国内では北海道、本州、四国、九州の温帯上部に分布。県内では中勢、南勢の深山に生育する。

【現況・減少要因】両生育地は標本による過去の記録であるが、その後確認されているのは南勢のものだけである。中勢については、最近の確認情報はない。県内における個体数は極めて少ないものと思われる。園芸目的の採取が減少要因となっている。

【保護対策】マニアによる採取が致命的。保護に関しては、生育地の公表は避ける、パトロールを強化する等の手だてが必要である。

(山本和彦)

(写真：大台町，2017年，川端徳夫撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

カシノキラン

被子植物 ラン科

Gastrochilus japonicus (Makino) Schltr.

【選定理由】既知の生育地点数は5である。今後の精査により、若干の新生育地は発見される可能性がある。

【種概要】常緑広葉樹林内の樹幹に着生する。茎は短く先端は斜上し、長さ14 cm。葉は革質で5～15枚。花期は7～8月、淡黄色で平開する。花序に4～10花つける。

【分布】国内では本州（千葉県以西）、四国、九州。県内では南勢地域、紀州地域に分布。

【現況・減少要因】園芸採取と、森林の常緑樹が暴風のために倒壊して減少している。

【保護対策】生育地の森林は巨木が多く、こずえに着生している個体は確認しにくい。生育地の神社林を天然記念物に指定して保護を図っているが、森林全域の保護が重要な課題である。

(花尻 薫・土永知子)

(写真：紀北町，2024年，川端徳夫撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

VU

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

苔苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

マツラン

被子植物 ラン科

Gastrochilus matsuran (Makino) Schltr.

【選定理由】既知の生育地点数は5以下。1960年以降新たな確認情報がなく、絶滅かと思われていたが、2024年に松阪市で新産地が発見された。今後他地域での再発見の可能性もある。

【種概要】常緑広葉樹林内の樹上に着生する常緑の多年草。茎は細く、長さ1～3 cm。葉は2列に互生し線状長楕円形、肉厚で多少湾曲し長さ7～20 mm、幅3～5 mm、紫色の斑点がある。花は5～6月、淡黄緑色で暗紫色の斑点がある。

【分布】岩手県以南の本州、四国、九州に分布する。県内では伊賀市、松阪市、大台町、尾鷲市、熊野市、御浜町から記録されている。

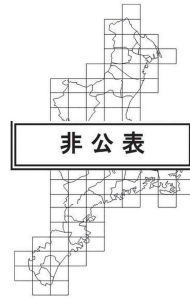
【現況・減少要因】2024年現在、開花個体数は7個体ほどであった。将来的には着生木が伐採されるおそれもある。

【保護対策】本種が着生できる森林を残しておくことが重要。山草業者、マニア等による盗掘が危惧されるため、生育地は非公表とする。

【文献】57, 90, 138, 139.

(山本和彦)

(写真：松阪市，2024年)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

VU

オキノヤガラ

被子植物 ラン科

Gastrodia elata Blume var. *elata*

【選定理由】既知の生育地点数は5以下であり、生育地での個体数は少ない。

【種概要】地生の多年草。菌従属栄養植物。山地の樹林下に生え、ナラタケと共生する。塊茎は楕円形で長さ10 cm前後、表面に多数の節がある。茎は高さ40～100 cm、帯黄褐色、膜質で長さ1～2 cmの鱗片葉をまばらにつける。6～7月、茎頂に集り、20～50花を密につける。外花被片は7～12 mmで黄褐色。合着して歪んだ壺形となり、内部に内花被2片と唇片がある。

【分布】国内では北海道から九州。国外では中国（本土、台湾）に分布。県内では北勢、伊賀、南勢、紀州地域に分布する。

【現況・減少要因】個体数、生育地ともに少ない。

【保護対策】生育地の森林を保全することが必要である。

(中馬千鶴・福田知子)

(写真：滋賀県，2022年，三谷有幸撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

シロテンマ

被子植物 ラン科

Gastrodia elata Blume var. *pallens* Kitag.

【選定理由】生育地点数は5以下であり、個体数は250未満である。

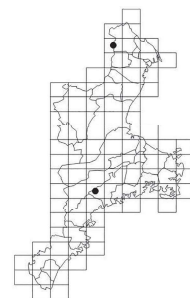
【種概要】山地の落葉樹林下に生える多年草。オキノヤガラとは変種関係の菌従属栄養植物である。茎は約20～40 cmであるが、高さ・太さは栄養状況で大きく変化する。葉は退化して鱗片状である。壺状白色の花を約10～20個着ける。花期は7月。固有種。

【分布】本州、四国、九州。県内ではいなべ市、大紀町。

【現況・減少要因】地上部については、菌従属栄養であるため、同一生育地点でも毎年見られるとは限らない。よって生育状況調査には注意を要する。

(市川正人)

(写真：大紀町，2023年，乙部宏撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

—

環境省 2020

CR

ハルザキヤツシロラン

被子植物 ラン科

Gastrodia nipponica (Honda) Tuyama

【選定理由】 既知の生育地点数は5以下であり、個体数も少ない。
 【種概要】 常緑樹林下に生える地生の多年草。菌従属栄養植物。塊茎は紡錘状で斜上し、長さ2~3cm、単細胞毛が表面を被う。茎は3~4cm、2~3個の鱗片がある。花はふつう5月に開き、1(~2)個、紫褐色を帯び、内外花被片は合着して筒状、先端部は3裂し、長さ約20mm、唇弁は4条の隆起したしわがあり、基部近くに各1個のこぶ状突起がある。花柄は花後急速に伸び、30cm以上にもなる。
 【分布】 国内では本州(三重県、和歌山県)、四国、九州、沖縄にまれ。国外ではジャワに分布、県内では大台町、紀宝町に分布する。
 【現況・減少要因】 生育地、個体数ともに非常に少ない。
 【保護対策】 生育地の森林を保全することが必要である。

(中馬千鶴・福田知子)

(写真: 大台町, 2023年, 山本和彦撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

VU

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蕨類

藻類

キノコ

ベニシュスラン

被子植物 ラン科

Goodyera biflora (Lindl.) Hook.f.

【選定理由】 既知の生育地点数は5以下であり、各生育地の個体数はおよそ50未満しかない。

【種概要】 やや湿った樹林下に生える多年草。葉は卵形で長さ2~4cm、白色の網目模様がある。花は8~9月、筒状で長さ2.5~3cm、赤味を帯びた淡褐色。花軸、子房、萼片等には長いちぢれ毛がある。

【分布】 国内では本州(関東地方、富山県以西)、四国、九州、国外では朝鮮半島に分布。県内では伊賀、南勢、紀州地域からの報告がある。

【現況・減少要因】 県内いずれの生育地も最近まで確認されていたが、ともに数個体しか生育していない。マニアによる採取が後を絶たず、これが減少要因の主因となっている。また生育地周辺の不注意な道路拡幅工事も減少の一因となっている。

【保護対策】 マニアによる採取を防ぐ方策は皆無に等しい。今のところ生育地の公表は避けることで対処するしかない。道路工事等の開発行為については、関係諸機関の横の連絡によって生育地を保全することが必要。

【文献】 5, 57, 139.

(山本和彦)

(写真: 大台町, 2022年, 井元俊介撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ツリシュスラン

被子植物 ラン科

Goodyera pendula Maxim.

【選定理由】 既知の生育地点数は5以下であり、個体数は50未満である。

【種概要】 深山林内の樹上および岩上に着生する。茎は下垂し、長さ10~20cm。7~9月、花序は基部が湾曲して立ち上がり、白色花を一方にかたよって多数つける。

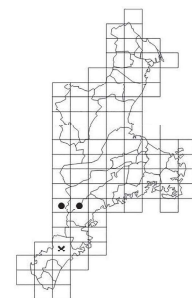
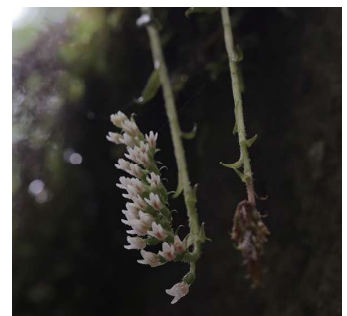
【分布】 国内では北海道から九州に分布。県内では大台町および熊野市の深山からの記録がある。

【現況・減少要因】 県内の記録はいずれも古いもので、近年の記録はない。しかし大台町には本種が着生できる森林がまだ温存されていることから、精査すれば自生が確認できるものと思われる。熊野市の自生地は森林伐採により消滅した。

【保護対策】 本種が自生する森林を広い範囲で保全する必要がある。

(山本和彦)

(写真: 和歌山県, 2021年, 三谷有幸撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蕨苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ハクウンラン

被子植物 ラン科

Kuhlhasseltia nakaiana (F.Maek.) Ormerod

【選定理由】 既知の生育地点数は5以下であり、環境変化により消滅した生育地もある。

【種概要】 茎は這い、その先は立ち上がる。立ち上がった高さは5~13 cmほどで、下部に数個の小さな葉をつける。花茎は直立し、7~8月に小型の白花を穂状に1~数個つける。唇弁の舷部の裂片は四角形。花茎、花とともに細かい軟毛が目立つ。

【分布】 国内では本州、九州。国外では朝鮮半島に分布。県内では南勢や紀州の数か所の山林内から記録されている。紀州ではヒノキ林下で、コケやコケシノブ類が生い茂る湿った岩上に見いだされる。

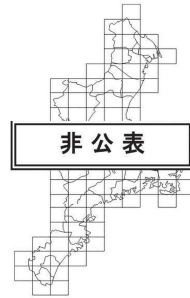
【現況・減少要因】 紀州の生育地では、森林伐採等による環境の激変により、消滅した所もみられる。

【保護対策】 生育地の大部分はヒノキ人工林の林床であるため、伐採による生育環境の悪化が懸念される。生育地周辺の森林を残すことが必要である。

【文献】 57, 139.

(山本和彦)

(写真：紀北町，2007年)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

ヤクシマヒメアリドオシラン

被子植物 ラン科

Kuhlhasseltia yakushimensis (Yamam.) Ormerod

【選定理由】 既知の生育地点数は5以下。個体数もそれほど多くはない。

【種概要】 おもに暖温帯の林下に生える多年草。茎は高さ4~10 cm、下部は地表近くを横にはう。葉は3~5個、広卵形、長さ7~15 mm、幅5~9 mm、鋭頭。花は6~8月、白色または淡紅色、1~4個を総状花序につける。唇弁は基部に袋状の距があり、爪部は細く全縁、舷部は三角形で先端は2深裂する。

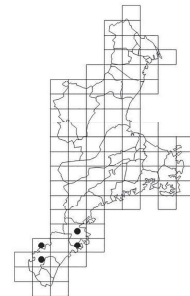
【分布】 国内では本州（中部地方、近畿地方）、四国、九州（甕島、大隅半島、屋久島）、沖縄、国外では台湾、中国、フィリピンに分布。県内では尾鷲市、熊野市からの記録がある。

【現況・減少要因】 尾鷲市では2018年、熊野市では2020年にいずれもヒノキ人工林内で発見されている。伐採や道路開設により個体数は減少している。

【保護対策】 伐採の際には皆伐は避け、自生地周辺の環境を保全することが望まれる。

(山本和彦)

(写真：尾鷲市，2020年，三谷有幸撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

—

環境省 2020

NT

ウスギムヨウラン

被子植物 ラン科

Lecanorchis kiusiana Tuyama

【選定理由】 既知の生育地点数は5以下であり、各生育地の個体数は50未満である。

【種概要】 常緑広葉樹林下に生える多年生の菌従属栄養植物。茎は高さ10~25 cm、淡青紫色であるが、乾くと黒色になる。5~6月、茎頂に数個の花をまばらにつける。花は淡黄色、長さ1.2~1.5 cmで半開する。唇弁中央部には、紫紅色の毛状突起が密生する。

【分布】 国内では本州（東海以西）、九州。県内では南勢および紀州地域に分布する。

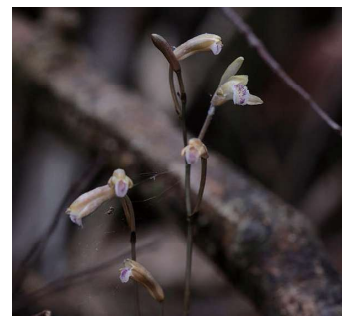
【現況・減少要因】 ムヨウラン類の特徴となる花期が短く、調査が不十分なため、詳細不明。今後さらに調査を要する。

【保護対策】 生育地の森林を保全することが必要である。

【文献】 7, 121.

(中馬千鶴・福田知子)

(写真：尾鷲市，2021年，三谷有幸撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

NT

アオフタバラン

被子植物 ラン科

Neottia makinoana (Ohwi) Szlach.

- 【選定理由】既知の生育地点数は3.
- 【種概要】山地樹林下に生える。茎は直立して10~20 cm。葉は茎の下方にあって開出し、三角状卵形で、長さ幅ともに1~3 cm。花は帯緑色で7~8月にまばらに5~20花をつける。
- 【分布】国内では本州から九州。県内では中勢、南勢地域で記録がある。
- 【現況・減少要因】亀山市、松阪市、大台町で確認されている。
- 【保護対策】県内における生育状況の把握など必要である。

(山脇和也)

(写真：松阪市，2016年，廣達也撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物

ジンバイソウ

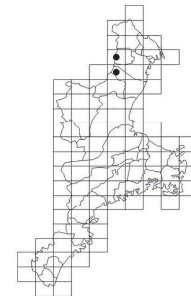
被子植物 ラン科

Platanthera florentii Franch. et Sav.

- 【選定理由】既知の生育地点数は5以下，個体数は250未満である。
- 【種概要】山地の半日陰に生える高さ30 cmほどの多年草。葉は光沢があり，長さ5~12 cm，幅3~6 cm，縁は波状に縮れる。葉柄のない2枚の葉を花茎の下の方に向かい合わせに着け，鱗片葉を数個着ける。前方に湾曲した15~20 mmの距を持つトンボ形の淡緑色の花を8~9月に咲かせる。固有種。
- 【分布】北海道，本州，四国，九州。県内では菰野町，伊賀市，津市，大台町の山地で記録がある。
- 【現況・減少要因】少なくとも菰野町の山地2か所で生育している。比較的安定した山地斜面に生育している。シカ食害と園芸採取が減少要因となる。
- 【保護対策】シカの個体数管理，および園芸採取を禁止する。

(市川正人)

(写真：菰野町，2013年)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

維管束植物
苔苔類
藻類
キノコ

EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ヤマサギソウ

被子植物 ラン科

Platanthera mandarinorum Rchb.f. subsp. *mandarinorum* var. *oreades* (Franch. et Sav.) Koidz.

- 【選定理由】既知の生育地点数は10以下で，個体数は少なく，生育地が不安定である。
- 【種概要】茎は紡錘状に肥厚した根からでて，やや稜があり，高さ20~40 cm。葉は互生，下部の1個が大きく，線状長楕円形，長さ5~11 cm，巾1~1.5 cm，基部はわずかに茎を抱く。リン片葉は2~5個，披針形。5~7月，黄緑色の小花を10個内外穂状につける。がく片は草質で中央は広卵形から卵形，側片は披針形，花弁の細い部分はやや厚くて短く乾くと少し黒褐色となる。
- 【分布】日本全土。国外では台湾，朝鮮半島，中国，サハリンなどの暖温帯から冷温帯に分布。県内では北勢，中勢，伊賀に分布する。
- 【現況・減少要因】生育地である低山地や丘陵地の草地が減少，採取圧等も働いて絶滅に近い。
- 【保護対策】生育地の改変，採取などの人為圧を抑止し，また，定期的な草刈により植生遷移の進行を停止することも必要である。
- 【特記事項】谷戸田周辺にある草地は絶滅危惧植物が多い。そうした地域は生産性，経済性に欠けるが自然科学的，文化的に重要であり，保全の必要がある。
- 【文献】34. 69.

(葛山博次)

(写真：伊賀市，1950年，百永章採集，三重県総合博物館所蔵)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ヤクシマアカシスラン

被子植物 ラン科

Rhomboda yakusimensis (Masam.) Ormerod

【選定理由】 既知の生育地点数は2。希少性、園芸用採取による個体数の減少。分布の限界にあたり植物地理学上重要である。

【種概要】 常緑樹林内に生える。地下茎は地表近くを這い、各節から紐状の根を出す。茎は直立し、花茎をあわせて10~25 cm。無毛で中央に3~5葉がある。葉は両面無毛。ピロード状で乾くと赤変する。

【分布】 台湾, ジャワ。国内では伊豆七島(三宅島, 神津島), 三重県, 和歌山県, 九州南部, 屋久島, 種子島, 琉球に分布する。県内では熊野市, 紀宝町に分布する。

【現況・減少要因】 神社社叢林などに僅かに生育するが、山草業者やマニア等による盗掘採取が減少の要因と考えられる。

【保護対策】 産地情報については十分配慮が必要であり、条例等による規制等、乱獲および盗掘防止対策の実務的な検討が図られることを望みたい。

【文献】 110, 125.

(大洞浩一・宮島美栄)

(写真: 紀宝町, 2021年, 池田博撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

VU

ショウキラン

被子植物 ラン科

Yoania japonica Maxim.

【選定理由】 既知の生育地点数は5以下で、生育地での個体数も少ない。

【種概要】 地上に生え葉緑素を持たない菌従属栄養植物。高さ10~30 cmの茎は白色で、淡い黄紅色を帯びる。多少肉質の花弁は淡い紅紫色で長い柄をもつ。毎年同じ場所で確認されるとは限らない。

【分布】 国内では北海道, 本州, 四国, 九州, 屋久島。県内では中勢地域で生育が確認されている。

【現況・減少要因】 既知の生育地が僅かで、同じ場所で確認されることも少ないので、現況や減少要因は判然としない。

【保護対策】 生育が確認された地点のみならず、発生が可能と考えられる類似の立地環境の保全に配慮する必要がある。

【文献】 138.

(武田明正・山本和彦)

(写真: 大台町, 2007年, 山本和彦撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

キンバイザサ

被子植物 キンバイザサ科

Curculigo orchioides Gaertn.

【選定理由】 既知の生育地点数は10以下。各生育地の個体数は少なく50未満である。

【種概要】 暖地の林内に生える多年草。根出葉は数個で、葉がササ類に似ていて、長さ10~30 cm, 幅1~2 cm, 縦じわがあり、両面に長い白色の毛がある。花被は黄色で下部は長い筒部になる。花の色が金色のウメを連想させる。5~8月, 花茎に1~3個の花をつける。

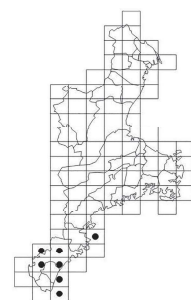
【分布】 国内では本州(紀伊半島, 中国地方)から沖縄。国外では中国(南部, 台湾), マレーシア, インド, オーストラリア。県内では紀州地域に分布。

【現況・減少要因】 最近では紀宝町や御浜町で確認されている。過去には熊野市でも記録がある。開発や採取による減少が危惧される。

【保護対策】 生育地を保護管理する必要がある。

(山脇和也)

(写真: 御浜町, 2024年, 山本和彦撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

コキンバイザサ

被子植物 キンバイザサ科

Hypoxis aurea Lour.

【選定理由】既知の生育地点数は5以下。個体数はたいへん少ないと思われる。

【種概要】暖地の山地や草原に生える多年草。根茎は塊状で径6~10 mmで短い茎に数個の葉が束生する。葉の幅は狭く、広いところでも2~4 mm。花も小さい。花期は5~8月。

【分布】国内では本州（宮城県以南）から沖縄。国外では中国（南部、台湾）、マレーシア、インドに分布。県内では松阪市と尾鷲市、紀宝町で記録されている。

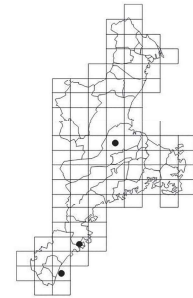
【現況・減少要因】尾鷲市での記録は古く、現存は確認できない。最近では、松阪市で記録されているのみである。地域の開発などで消滅の危険性がある。

【保護対策】生育地を保護管理する必要がある。

【特記事項】移入種が増加しているので注意を要する。

(山脇和也)

(写真：松阪市，2016年，池田博撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

ユウスゲ

被子植物 ワスレグサ科

Hemerocallis citrina Baroni var. *vespertina* (H.Hara) M.Hotta

【選定理由】既知の生育地点数は5以下であり、個体数も少ない。

【種概要】山地の草原や池の岸辺に生育する多年草。草丈は1 m近くになるが茎も葉もたいへん細い。7~9月にレモン色の花をつける。花は夕刻に開く。

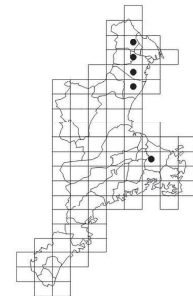
【分布】国内では本州、四国、九州。県内ではいなべ市、四日市市、鈴鹿市、伊勢市で記録がある。

【現況・減少要因】生育地は限られていて個体数も多くはない。開発や遷移の進行、水環境の変化などで減少している。

【保護対策】生育地の池改修などの際には配慮する必要がある。遷移の進行を止めるために、草刈りをする 것도大切である。

(山路武夫)

(写真：伊勢市，2008年，池田博撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

キイトラッキョウ

被子植物 ヒガンバナ科

Allium kiiense (Murata) Hir.Takah. et M.Hotta

【選定理由】既知の生育地点数は5以下。採取圧があり、生育環境は不安定である。

【種概要】山地の岩崖地や河岸の岩場に生育する。花はやや小型で、雄ずいが花被よりはるかに長い。基準変種のイトラッキョウは、花がやや大きく雄ずいがやや短い。花期は11月。

【分布】国内では本州（岐阜県、愛知県、和歌山県、三重県、山口県）、県内では熊野市、紀宝町に分布。

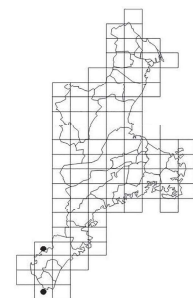
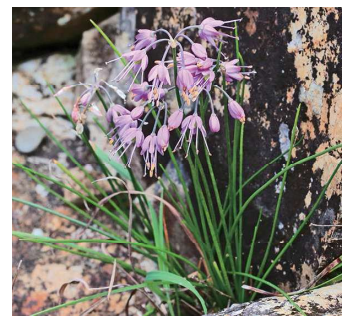
【現況・減少要因】園芸採取と、増水による河岸の荒廃、崖地の崩落が減少の要因となる。

【保護対策】園芸採取には規制が必要である。

【特記事項】松阪市飯高町および松阪市飯南町にも記録があるが、分類学的な検討が必要である。

(花尻 薫)

(写真：熊野市，2016年，池田博撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

VU

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

苔苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

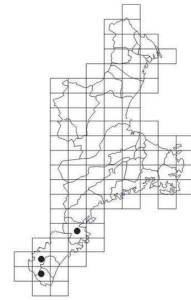
哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蕨類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

トサノギボウシ (ウナズキギボウシ) 被子植物 クサスギカズラ科
Hosta kikutii F.Maek. var. *tosana* (F.Maek.) F.Maek.

【選定理由】 既知の生育地点数は5以下で、個体数が少なく採取圧がある。
 【種概要】 夏緑の植物で根茎は太く短い。葉に少し光沢がある。葉身は多少黄味を帯びた卵形や楕円形などで、大きい。7月に葉の腋より長さ30 cmほどの花茎をだして、白い花を下向きに多くつける。株際で花茎が屈曲する。山中の谷間の岩上などに生える。
 【分布】 国内では紀伊半島南部（和歌山県、三重県）。県内では紀州地域（紀北町、熊野市、御浜町、紀宝町）に分布する。
 【現況・減少要因】 園芸採取と、林道などの敷設工事による環境悪化がおもな減少要因となっている。
 【保護対策】 道路工事にとまなう急崖地の掘削や、河畔の斜面の崩落などに留意しなければならない。



(花尻 薫・土永知子)
 (写真：紀北町，2012年，山本和彦撮影)



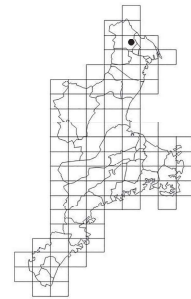
三重県 2025
EN
三重県 2015
EN
環境省 2020
—

オヒガンギボウシ 被子植物 クサスギカズラ科
Hosta longipes (Franch. et Sav.) Matsum. var. *aequinoctiantha* (Koidz. ex Araki) Kitam.

【選定理由】 既知の生育地点数は1であり、個体数は250未満である。採取圧は極めて強い。
 【種概要】 湿った岩場などに生育する高さ約30~40 cmの多年草。イワギボウシの変種であるが、苞の着く位置などオオバギボウシにも似る。イワギボウシの花は8~9月であるが、少しずれ、遅れて咲くこと、イワギボウシの苞が花期に枯れるに対し、オヒガンギボウシは花期が終わっても枯れずに残ることなどで見分けがつく。固有種。
 【分布】 本州（中部・近畿・中国）。県内では桑名市。
 【現況・減少要因】 現在のところ個体数に変化はないが、園芸目的の採取圧が極めて強い。
 【保護対策】 盗掘の防止を含む生育地の保全を要する。



(市川正人)
 (写真：桑名市，2015年)



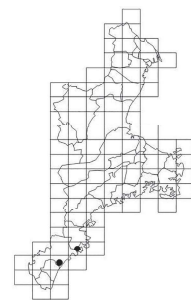
三重県 2025
EN
三重県 2015
—
環境省 2020
—

ノシラン 被子植物 クサスギカズラ科
Ophiopogon jaburan (Siebold) Lodd.

【選定理由】 既知の生育地点数は5以下であり、採取や生育環境の悪化により減少している。
 【種概要】 海岸に近い林縁に自生する。常緑の半地中植物。地下茎は太く横走り、多少扁平。葉はそう生し、線形でやや厚く、表面に光沢がある。裏面はやや白緑色。花期は7~9月。花茎は長さ20~50 cmで少し斜めにたれさがり、花は白で淡い紫色を帯びる。
 【分布】 国内では本州（兵庫県、大阪府、和歌山県、三重県）、四国、九州、沖縄。県内では紀州地域（尾鷲市、熊野市）に分布。
 【現況・減少要因】 園芸採取、森林伐採による圧力が考えられる。神社や寺院の陰地に栽培されているのを見かけるが、個体数は少ない。
 【保護対策】 森林伐採による減少を防止することが重要。



(花尻 薫)
 (写真：尾鷲市，2021年，池田博撮影)



三重県 2025
EN
三重県 2015
EN
環境省 2020
—

ヤマトミクリ

Sparganium fallax Graebn.

被子植物 ガマ科

【選定理由】既知の生育地点数は5以下であり、確実な生育地は1地点のみである。

【種概要】湖沼、水路などに群生する多年草の抽水植物。草丈は50~120 cm。葉は幅が2 cm近くありやや広い。雌性頭花の柄は茎に合着するので、茎はジグザグに屈曲する。花期は6~9月、花序は分枝しない。

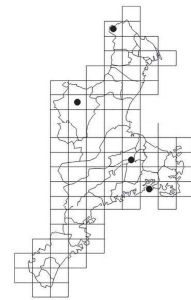
【分布】国外ではアジアの東部。国内では本州以西。県内ではいなべ市、伊賀市、度会町、南伊勢町で記録がある。

【現況・減少要因】現在、唯一生育の確認できる度会町では、水路に群生している。生育地のうち、水田間の水路では雑草として毎年除去されているが、絶えることなく毎年繁っている。

【保護対策】継続的な雑草除去により遷移や富栄養化の進行を抑制する。その際には地域の人に本種の保護の理解をうながすことが大切である。

(山路武夫)

(写真：度会町，2019年，池田博撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

NT

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

苔苔類

藻類

キノコ

ヒメミクリ

Sparganium subglobosum Morong

被子植物 ガマ科

【選定理由】既知の生育地点数は5以下であり、確実な生育地は1地点のみである。

【種概要】湖沼、湿原に生育する多年草。草丈は40~90 cm。茎も葉もほっそりとしている。花期は6~9月、花序は分枝することが多く、頭花に柄はない。

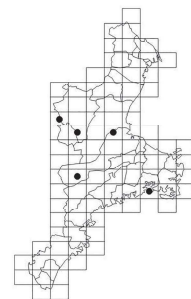
【分布】国外では東アジア、インド、オーストラリア、ニュージーランド。国内では北海道から九州。県内では伊賀市、名張市、津市、松阪市、南伊勢町で生育の記録がある。

【現況・減少要因】中勢地域の湿地性の草地では、雑草に混じって生育している。この草地もやがて遷移が進み、荒地になるものと思われる。

【保護対策】時々草刈りをして、遷移の進行を止めることが大切である。

(山路武夫)

(写真：南伊勢町，2016年，半田俊彦撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

VU

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

クオイヌノヒゲ

Eriocaulon atrum Nakai

被子植物 ホシクサ科

【選定理由】既知の生育地点数は5以下であり、減少傾向である。

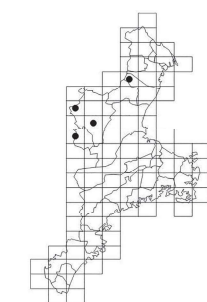
【種概要】山間の湿地に生える一年草。葉は高さ10 cm程度、花茎は多数出て4~5肋がある。頭花は7~9月に開く。半球形。花弁や総苞片は一部が黒味を帯びる。種子の表面に鉤状の毛がある。

【分布】北海道、本州、四国、九州と分布は広い。県内では、伊賀市と名張市に記録があり、鈴鹿市と伊賀市で現認されている。

【現況・減少要因】伊賀地方の湿地や池の上部で確認されたが、湿地周辺の開発や池の改修と日照り等の環境の変化により減少してきている。

【保護対策】湿地周辺の開発や溜池の改修は計画的に実施し、無理な工事は避ける。

(南 正祝)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

NT

- 哺乳類
- 鳥類
- 爬虫類
- 両生類
- 汽水・淡水魚類
- 昆虫類
- クモ類
- 貝類
- 甲殻類
- その他動物
- 維管束植物
- 蘚苔類
- 藻類
- キノコ
- EX
- EW
- CR
- EN
- VU
- NT
- DD

ヤマトホシクサ

被子植物 ホシクサ科

Eriocaulon japonicum Körn.

【選定理由】既知の生育地点数は5以下であり、各地点における個体数は少ない。新産地が期待される。

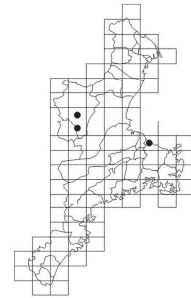
【種概要】葉は長さ6~12 cm、幅2~3 mm、鋭尖頭。花茎は高さ12~16 cmの1年草。頭花は幅5~6 mmの半球形で花床は無毛である。頭花には多数の花をつけ、総苞片は長さ4~5 mmの披針形で頭花よりわずかに長い。花苞は上部だけ黒褐色を帯び、萼および花弁は無毛である。種子は長さ約1 mmで無毛。ツクシクロイヌノヒゲやクロイヌノヒゲに似ている。固有種。

【分布】本州。県内では伊賀市、名張市、伊勢市で記録がある。

【現況・減少要因】各生育地の個体数が少ない上に水位に左右され、年毎に発生状況に変動がある。植生遷移や湖沼開発が減少要因となる。現在のところ生育環境は維持され、少ないながらも個体数に変化はない。

【保護対策】溜池の埋め立てや土手の改修など、湖沼開発からの保護、植生遷移抑制が必要である。

(市川正人)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

VU

シラタマホシクサ

被子植物 ホシクサ科

Eriocaulon nudicusp Maxim.

【選定理由】既知の生育地点数は5以下。圃場整備事業や溜池の改修などの影響で生育地が狭められ、個体数が激減している。

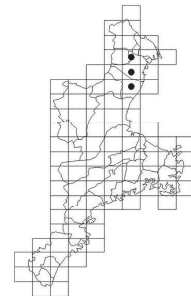
【種概要】丘陵地に点在する貧栄養の湿地で生育する一年草。8~9月頃に、高さ20~60 cmの茎の上部に白色の小さな花が球形に集ってつく。

【分布】国内では東海地方（静岡、愛知、岐阜、三重の各県）の水辺や湿地に生える。県内では、四日市市、菰野町、鈴鹿市の丘陵地の湧水が絶えない貧栄養の湿地に分布している。

【現況・減少要因】かつては、丘陵地のアカマツ林の発達する湿地や谷地田の周辺などに比較的多くみられた。しかし、大規模開発や圃場整備事業などで生育地の多くは消失した。わずかに残った湿地では、富栄養化による高茎の湿性植物の侵入がシラタマホシクサ群落の衰退を促進している。

【保護対策】東海地方を代表する貴重な植物である。開発による生育地の消失を防ぐとともに、湿地環境の維持が必要である。また、里山林の荒廃による湿地の遷移の進行を止める対策が急務である。

(桐生定巳)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

VU

イトテンツキ

被子植物 カヤツリグサ科

Bulbostylis densa (Wall.) Hand.-Mazz. var. *capitata* (Miq.) Ohwi

【選定理由】既知の生育地点数は1であり、個体数は1,000未満である。

【種概要】日当たりの良い草原に生え、高さ10~20 cmの叢生する1年草。稈は糸状、葉は根生状線形で基部の鞘は淡褐色である。苞葉は1~3。花序は長さ約4 mm、小穂が頭状に集まり5~10花、鱗片は1.5 mmの卵形で濃褐色、竜骨は緑色である。果実は三稜倒卵形、花柱は細く3柱頭がある。

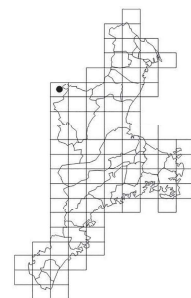
【分布】本州（東海以西）、四国、九州。県内では伊賀市で記録がある。国外では朝鮮半島南部、中国、台湾、インドシナ、インド。

【現況・減少要因】伊賀市の1か所で生育している。植生遷移や溜池改修工事が減少要因である。

【保護対策】定期的な草刈の実施と堤体改修工事の際には生育環境を考慮した播種・移植計画を実行することである。

【特記事項】全体はイトハナビテンツキに似るが、小穂は通常散形花序にはならず、ハタガヤのように頭状に集まる。ハタガヤとは鱗片の先が芒状にならず、反り返らないことで区別できる。

(市川正人)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

NT

オオナキリスゲ

Carex autumnalis Ohwi

被子植物 カヤツリグサ科

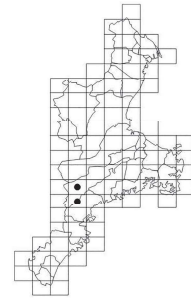
【選定理由】既知の生育地点数は5以下。生育地の個体数はおよそ50未満である。まれにしかみられない。

【種概要】山間部のやや湿った岩の混じった斜面などに生える。ナキリスゲに似ているが小穂は10個内外つき、頂小穂は雄性で線形、側小穂は雌性でまばらに花をつけ、その上部に短い雄性部がある。

【分布】国内では本州（近畿以西）、四国、県内では大台町での標本記録がある。伊賀地域でも情報はあがるが、未確認である。

【現況・減少要因】生育地は限られ、個体数が少なく、まれにしかみられない。急に開発がなされるようなところではないが、遷移などにより状況が変化しうる可能性がある。

【保護対策】林道工事や砂防ダムを作るときには生育地を避けるべきである。
(山脇和也)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

苔苔類

藻類

キノコ

ベンケイヤワラスゲ

Carex benkei Tak. Shimizu

被子植物 カヤツリグサ科

【選定理由】既知の生育地点数は10以下、その内3地点はニホンジカの食害により消失。個体数は少ない。

【種概要】湿った草地やため池等の岸辺に生育する多年草。有花茎は高さ20~70 cm。葉の長さは有花茎と同長かそれより長い。ヤワラスゲに似るが、果胞の口部が凹型で、芒を含む雌鱗片の長さが果胞より長い等の点で区別される。

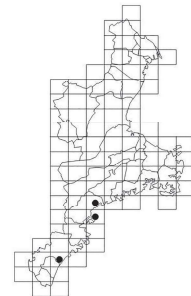
【分布】関東以西の本州、四国、九州に分布。三重県では紀北町および御浜町から標本記録がある。

【現況・減少要因】どの生育地も個体数は少なく、ニホンジカの食圧が高い。ニホンジカ食害により消失した3地点ではここ20年ほど生育を確認していない。現在自生が確認できる生育地も、個体数は減少している。

【保護対策】ニホンジカの食害を防ぐ対策が必要である。

【文献】112。

(山本和彦)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ビツチュウヒカゲスゲ

Carex bitchuensis T.Hosino et H.Ikeda

被子植物 カヤツリグサ科

【選定理由】既知の生育地点は5以下で、個体数は多くない。

【種概要】石灰岩地に生える多年草。やや大株となり、根茎は分枝しながら長く伸びやや斜上する。基部の鞘は暗褐色で、前年の葉身が残り、繊維状に細裂する。雄小穂は棍棒状、まばらに少数の果胞をつける。

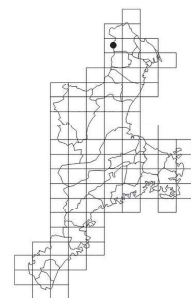
【分布】日本固有種。岡山県のみ分布であったが、県内の鈴鹿山系北部で2013年に生育が確認された。

【現況・減少要因】石灰岩地域の落葉樹林内の乾燥した岩地の一角を占めている。北斜面の採石による環境の変化や生育地の崩壊により、急激な減少や絶滅の危険性がある。

【保護対策】ニホンジカの防護柵を作る。採石を早急に中止させるか、採石場所の変更すべきである。シコクフクジュソウやフキヤミツバをはじめ、その他の絶滅危惧Ⅰ類の種が11種以上生育している県内でも狭い特異な場所なので、特別保護区にするか、天然記念物に一部地域を指定すべきである。

【文献】148。

(山脇和也)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蕨苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

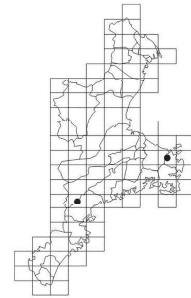
クロヒナスゲ

被子植物 カヤツリグサ科

Carex gifuensis Franch.

【選定理由】既知の生育地点数は5以下である。個体数は250未満である。
 【種概要】山地の草地や林下に生えるヒカゲスゲ類の多年草。叢生し短い地下茎を伸ばす。葉の幅は約2mm、鞘は赤色を帯び、網状繊維に分解する。稈は15~30cmで細い。花は4~6月につき、小穂は2~3個、稈の上部に集まる。頂小穂は雄性で褐色から褐紫色、側小穂は雌性で無柄である。鱗片は卵形で栗色~紫褐色で、縁は幅広く白い乾膜質である。果胞は鱗片より長く倒卵形で長さ4mm、淡緑色で毛がある。固有種。
 【分布】本州（栃木・岐阜・三重）。県内では伊勢市・大台町で記録されている。石灰岩地または蛇紋岩地の塩基性岩場を好む。
 【現況・減少要因】少なくとも伊勢市の蛇紋岩地1ヶ所で生育を確認している。採石による減少が懸念される。
 【保護対策】全国的に少なく、採石からの保護を必要とする。

(市川正人)



三重県 2025
EN
三重県 2015
EN
環境省 2020
—

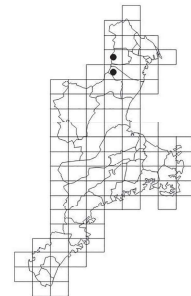
サヤマスゲ

被子植物 カヤツリグサ科

Carex hashimotoi Ohwi

【選定理由】既知の生育地点数5以下。花こう岩地帯の特定の場所に生育する。
 【種概要】アオスゲ類に見える。鮮緑色で、短く匍枝を出す。有花茎は高さ5~15cm。葉身は刺状で短い。下方の雌小穂は茎の基部につき、著しく長い柄がある。
 【分布】本州中部（長野県南部~滋賀県）にまれに自生する。四日市市、亀山市、菰野町の花こう岩地帯に生育する。
 【現況・減少要因】鈴鹿山系中部の花こう岩地帯、特に滋賀県境多く生育するが、一部は落葉樹林やササ枯れが起き消滅した所もある。登山道沿いは踏みつけや崩壊も起きている。
 【保護対策】国定公園内なので、環境は比較的安定している。登山道の整備の必要もあるが、整備の時に注意が必要である。

(山脇和也)



三重県 2025
EN
三重県 2015
—
環境省 2020
VU

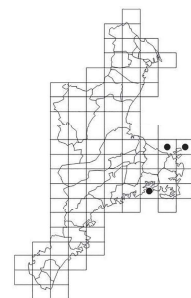
カタスゲ

被子植物 カヤツリグサ科

Carex macrandrolepis Lév.

【選定理由】既知の生育地点数は5以下であり、個体数は250未満である。
 【種概要】林縁の日当たりの良い比較的乾燥したところにみられるアオスゲ類の多年草。細長く地下茎を伸ばし、叢生はしない。稈の高さは葉の長さと同長、またはやや短い。基部の鞘は濃紫褐色で繊維状に分解する。葉の幅は約2mmである。4~5月に花をつけ、小穂は2~3個で頂小穂は雄性、側小穂は雌性である。果胞は少なく、まばらに毛があり、堅い。種子は三稜形、黒茶褐色、光沢がある。柱頭は3である。
 【分布】本州（伊豆大島・東海地方以西）、九州。県内では鳥羽市、南伊勢町、熊野市で記録がある。国外では朝鮮半島、台湾。
 【現況・減少要因】個体数は少ない。土地造成や植生遷移が問題となる。
 【保護対策】土地造成・植生遷移に注意を払う必要がある。

(市川正人)



三重県 2025
EN
三重県 2015
EN
環境省 2020
—

フサスゲ

被子植物 カヤツリグサ科

Carex metallica H.Lév.

【選定理由】既知の生育地点数は5以下。その内半数以上の生育地では、シカの食害により個体群が崩壊し、ここ数年、開花個体あるいは個体そのものが確認できていない自生地も出現している。

【種概要】大きな株をつくり、高さ30~60 cmになる多年草。葉は幅3~6 mm、小穂は5~10個、淡緑色で光沢がある。側小穂は雌性、まれに基部に雄花をつける。頂小穂は雄性または雌雄性。

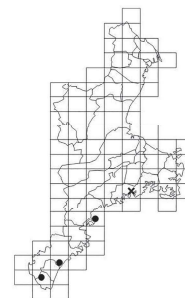
【分布】静岡県以西の本州、四国、九州、沖縄、国外では朝鮮半島、中国南部、台湾に分布。県内では南伊勢町、紀北町、御浜町、紀宝町などからの記録がある。

【現況・減少要因】海跡湖周辺や川岸、スギ人工林下に生育し、かつては海跡湖周辺には1,000個体を越える大群落が発達していた。近年ニホンジカの食害により激減、消滅した群落地も見られる。

【保護対策】ニホンジカの食害を防ぐ対策が必要である。

【文献】98.

(山本和彦)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

ミコシガヤ

被子植物 カヤツリグサ科

Carex neurocarpa Maxim.

【選定理由】既知の生育地点数は5以下で、各生育地の個体数は100未満である。生育する河川敷は堤防補強に伴う開発圧が強い。

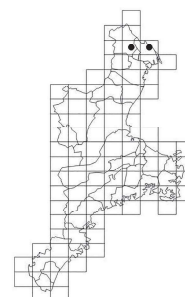
【種概要】やや湿った草地に生える多年草。稈は高さ30~60 cmで鈍い稜がある。小穂は多く密集して長さ3~6 cmの卵状円柱状の花序となる。花序の基部に数個の苞が着く。

【分布】本州（近畿以北）。県内では桑名市に記録がある。国外では中国、アムール。

【現況・減少要因】生育地の河川敷は遊園地や運動場などを目的に土地改変がされ易い。河川改修工事の影響もあり減少傾向にある。

【保護対策】河川敷や河川そのものについては、多くの市町で現況調査もなく改変されているようである。環境影響調査を実施し、希少種生育エリアの回避・低減を図る必要がある。

(加田勝敏・市川正人)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

ホザキマスカサ

被子植物 カヤツリグサ科

Carex planata Franch. et Sav. var. *angustealata* Akiyama

【選定理由】既知の生育地点数は2。個体数は少ない。河川開発等にもなる生育環境の改変による絶滅が危惧される。

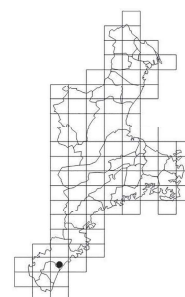
【種概要】河川敷や河岸に生える多年草。有花茎の高さ30~60 cm。小穂は球形から卵形、7~10個つき、無柄。タカネマスカサに似るが、小穂の数はタカネマスカサの3~6個に比べ多い。

【分布】本州（西日本）に分布。三重県内では熊野市、御浜町から記録されている。

【現況・減少要因】河畔林の林床に群落を形成している。自生地は増水時には冠水する立地にあり、いくつかの湿地性植物と混生している。河川改修等の工事が計画されており、本種を含めた河畔林の消失が懸念される。

【保護対策】生育地内には、他の絶滅危惧種もいくつか見られ、貴重な植物群落となっている。河川改修等に当たっては、当植物群落に影響を及ぼさないような対策が必要である。

(山本和彦)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

VU

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

藓苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蕨苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ジングウスゲ

被子植物 カヤツリグサ科

Carex sacrosancta Honda

【選定理由】既知の生育地点数は5以下で、各生育地の個体数は50未満である。

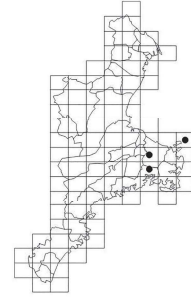
【種概要】スゲ類のナキリスゲの仲間で、茎の高さ20~40 cm、8~10月頃に開花結実し、まばらに果実をつける。果胞は長さ3.5~4 mm、先が急に細長い嘴となり、有毛である。

【分布】本州（伊豆半島・三宅島・愛知県以西）、四国、九州。県内では伊勢市、鳥羽市に記録がある。国外では台湾。

【現況・減少要因】現況は不明。土地造成など土地改変が考えられる。

【保護対策】県内では蛇紋岩地帯に生育する。生育地の土地改変の際には、事前調査を実施し、十分な配慮をする必要がある。

(加田勝敏・市川正人)



三重県 2025
EN
三重県 2015
EN
環境省 2020
NT

センダイスゲ

被子植物 カヤツリグサ科

Carex sendaica Franch.

【選定理由】既知の生育地点数は1のみ。CR相当だが、他地域での分布が認識されていない可能性が高いのでENとする。

【種概要】常緑の多年草。複数の小穂を総状につけ、小穂は有柄、側小穂は雄雌性、秋咲き、柱頭は二岐で瘦果はレンズ形。ナキリスゲに酷似するが、花序茎の高さ10~30 (40) cmと低いことと横走する地下茎が明瞭であることが特徴。

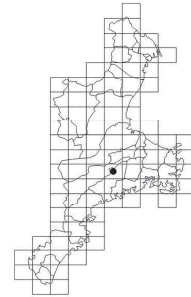
【分布】国内では本州から九州。県内での記録は、大紀町のみ。

【現況・減少要因】現況については不明であるが、今後の調査で県内の他地域からも発見される可能性が高い。

【保護対策】不明。

【特記事項】和歌山県では数か所の標本記録がある。

(藤井伸二)



三重県 2025
EN
三重県 2015
EN
環境省 2020
—

ヒメアオガヤツリ

被子植物 カヤツリグサ科

Cyperus extremiorientalis Ohwi

【選定理由】既知の生育地点数は5以下であり、個体数は250未満である。

【種概要】日当たりの良い溜池の砂地に叢生し、高さ4~20 cmで外側の稈は寝るか、または斜上する。葉は稈にほぼ同長、幅1~2 mm、基部の鞘は淡赤紫色。苞葉は長く3~6枚。花序は頭状で枝はない。小穂は3~5 mmの狭卵形、淡緑色の4~20花を2列に着ける。鱗片は長さ約2 mmの卵形。果実は約0.9 mmの長楕円形で横断面は半月形、柱頭は2。固有種。

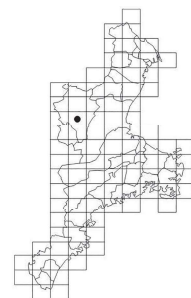
【分布】本州（関東以西）、四国、九州。県内では桑名市、伊賀市で記録がある。

【現況・減少要因】少なくとも伊賀市の溜池内周囲の1か所で生育しているが、生育時期に高水位の年には生育を見ない。湖沼開発が減少要因となる。

【保護対策】湖沼開発の際には、希少種生育維持に配慮した工法を取り入れる。

【特記事項】シロガヤツリに似ているが、果実の稜に翼が無いことが最大の区別点である。同定が難しいが、新産地が期待できる。

(市川正人)



三重県 2025
EN
三重県 2015
EN
環境省 2020
—

カガシラ

被子植物 カヤツリグサ科

Diplacrum caricinum R.Br.

【選定理由】既知の生育地点数は10以下。生育面積が狭いうえに個体数も少ない。また、湿地の開発により消滅の危険もある。

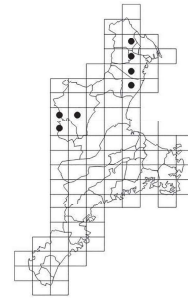
【種概要】湿地にややまれに生える1年生の草本。茎は高さ5~20 cm、やや多数の葉をつけ、まばらに基部から枝分かれする。花序は径2 mm以下の小形の頭花で、葉腋に着き、小穂はたいへん小さい。果実は7~10月に熟す。

【分布】国内では本州（千葉県以西）から沖縄、国外では台湾、インド、マレーシア、オーストラリア。県内では北勢、伊賀地域の湿地や溜池のほとりに生育する。

【現況・減少要因】鈴鹿市、名張市、伊賀市に数か所みられるが、いなべ市大安町の溜池は、半分埋め立てられたために激減した。溜池や湿地の開発や遷移による減少も大きい。

【保護対策】開発圧の抑止と湿地の管理が必要である。

(山脇和也)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

VU

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

苔苔類

藻類

キノコ

セイタカハリイ

被子植物 カヤツリグサ科

Eleocharis attenuata (Franch. et Sav.) Palla

【選定理由】既知の生育地点数は3。海跡湖の開発（埋め立て、養魚池化、釣り堀化、公園化など）による今後の減少が心配される。

【種概要】ハリイ（オオハリイを含む）に似るが、高さ30~60 cmになる。柱基の幅と長さが同じかまたは幅がより長いこと、刺針が柱基と同じ高さかまたはより短いことによってハリイと区別される。

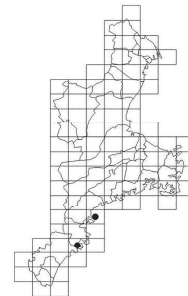
【分布】国内では本州から沖縄。国外では朝鮮半島、中国。県内では紀北町と尾鷲市、熊野市から記録がある。湿地に生育するが、沿海地の低湿地（とくに海跡湖）を好むようだ。

【現況・減少要因】近畿地方ではややまれな湿生植物。県内での既知生育地のうち、熊野市の生育地（1956年の標本記録）は絶滅した可能性が高い。低湿地の開発（埋め立てや客土による農地化や宅地化）が原因と類推される。

【保護対策】生育地の開発を避けることで、保護は達成可能。

【文献】27。

(藤井伸二)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

シログワイ

被子植物 カヤツリグサ科

Eleocharis dulcis (Burm.f.) Trin.ex Hensch.

【選定理由】既知の生育地点数は5以下であり、各地点の個体数は少ない。

【種概要】池や沼、水路などに生える多年草で、クログワイに似ているが、より大形で稈の長さは50~120 cm、太さは4~6 mmで、小穂の幅よりわずかに細く鮮緑色。下方の鞘は褐赤色。小穂は円柱形で長さ2~4 cm、鱗片の先は切形に近く広楕円形で緑白色である。柱頭は2個、花被片は6~8本である。花は7~10月につく。

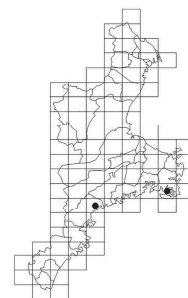
【分布】本州（三浦半島・紀伊半島）、九州。国外では台湾、中国南部、アフリカ、インド、マレーシア、オーストラリア、太平洋諸島。県内では志摩市、紀北町の海跡湖。

【現況・減少要因】生育地は少ないが今のところ健在である。埋め立て等の湖沼開発および植生遷移が減少要因となる。

【保護対策】開発圧力の回避、遷移に対しての保護管理が必要である。

【特記事項】別名はイヌクログワイ。帰化種との見解もある。

(市川正人)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

- 哺乳類
- 鳥類
- 爬虫類
- 両生類
- 汽水・淡水魚類
- 昆虫類
- クモ類
- 貝類
- 甲殻類
- その他動物
- 維管束植物
- 蘚苔類
- 藻類
- キノコ
- EX
- EW
- CR
- EN
- VU
- NT
- DD

マシカクイ

被子植物 カヤツリグサ科

Eleocharis tetraquetra Nees var. *tetraquetra*

【選定理由】既知の生育地点数は3。生育地の個体数は少なくないが、開発により激減する可能性がある。今後新たな生育地が発見される可能性もまだある。

【種概要】湿地に生え、シカクイより大きく高さ40~60 cm。茎にやや鋭い4稜がある。茎の基部は鱗片のある匍枝を出す。小穂はシカクイより大きい。6~9月に熟す。

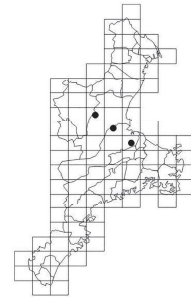
【分布】国内では本州（近畿、中国地方）から沖縄。国外では中国（本土、台湾）、インド、インドネシア、オーストラリアに分布。県内では中勢地域で津市や松阪市など3か所の生育が確認された。

【現況・減少要因】2003年に確認された津市一志町の溜池下の放棄水田の中に生育しており、そこにはゴマシオホシクサやタコノアシも生育している。2012年に新たに津市白山町で大群落が確認された。放棄水田の開発や、遷移の進行によりこれらの植物が消滅する危険性が大きい。

【保護対策】湿地などの生育地一帯が開発されたり、遷移が進まないよう保護しなければならない。

【特記事項】北勢地域でマシカクイの報告があるが、これはシカクイの誤同定である。

(山脇和也)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

サギスゲ

被子植物 カヤツリグサ科

Eriophorum gracile K.Koch

【選定理由】既知の生育地点数は5以下で、生育地は土地開発によって失われがちで、個体群が激減している。

【種概要】冷涼な湿地に生える多年草。根茎には長い匍枝がある。茎は高さ30~50 cmで株を作らない。小穂は数個。果実は6~7月頃に成熟するが、花被片が2 cmぐらいに伸び、白い綿毛のようにみえる。

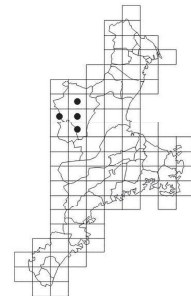
【分布】国内では北海道、本州（兵庫県以北）に分布。国外では樺太、千島ほか、北半球の寒冷な地域に分布。県内では伊賀市の丘陵地に点在する湿地で生育が確認されている。

【現況・減少要因】伊賀盆地周辺の丘陵地の湿地に僅かな個体群が現存するが、土地開発（陶土の採掘、産業廃棄物の埋立てほか）により、個体数が減少している。

【保護対策】土地開発に制限を加え、現存する個体群の保全に努める必要がある。

【特記事項】類似種のワタスゲ (*Eriophorum vaginatum* L.) は大きな株をつくり、小穂が1個で頂生することなどで、容易に区別できる。

(武田明正)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

コアゼテンツキ

被子植物 カヤツリグサ科

Fimbristylis aestivalis (Retz.) Vahl

【選定理由】既知の生育地点数は5以下。個体数は250未満である。

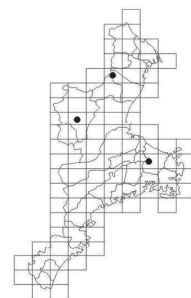
【種概要】高さ5~15 cmで斜開し、叢生する1年草。葉は短く、鞘は有毛。長さ2~4 cmの散形花序で、よく開き多くの枝を出す。花は8~10月、小穂は長さ4~7 mm、幅1~1.5 mmの披針形で数が多い。果実は長さ0.6~0.7 mmの倒卵形。アゼテンツキに比べて芒が短く、メアゼテンツキに比べて柱基に毛が無い。

【分布】本州。県内では鈴鹿市、伊賀市、玉城町で記録されている。国外では東アジア、マレーシア、オーストラリア。

【現況・減少要因】鈴鹿市の溜池では、ここ数年間生育が確認できない。原因は植生遷移の進行である。溜池内別所で休眠種子の発芽を期待したい。湖沼開発が減少要因となる。

【保護対策】植生遷移を止める必要がある。また、湖沼開発時には生育持続可能な施工方法を用いることである。

(市川正人)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

ナガボテンツキ

被子植物 カヤツリグサ科

Fimbristylis longispica Steud. var. *longispica*

【選定理由】既知の生育地点数は5以下であり、未知の生育地は現在知られている生育地に比べて多くはない。

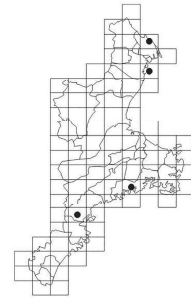
【種概要】海岸近くに生える多年草。茎は高さ40~60 cm。花は8~10月。小穂は長楕円状卵形、長さ6~15 mm。

【分布】国内では本州（中部以南の南岸、伊豆諸島）、四国、九州。国外では朝鮮半島南部、マリアナ諸島。県内では桑名市、四日市市、南伊勢町、紀北町などでの記録がある。

【現況・減少要因】四日市市では1906年の標本が存在するが、埋め立て等により消失。桑名市、南伊勢町、紀北町では、現在健在である。桑名市のものは河川敷に、南伊勢町、紀北町のものは小河川の河口域に生育しているが、いずれも個体数は多くなく、河川改修等の改変工事があれば、絶滅する危険性もある。

【保護対策】生育地およびその周辺については、河川改修等の人為による改変行為は避ける必要がある。

(山本和彦)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

トネテンツキ

被子植物 カヤツリグサ科

Fimbristylis stauntonii Debeaux et Franch. var. *tonensis* (Makino) Ohwi ex T.Koyama

【選定理由】既知の生育地点数は5以下。生育地の個体数は250未満である。湿地や池の埋め立てや開発圧が強い。

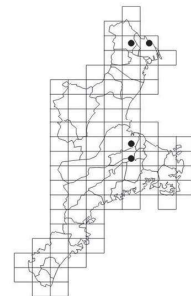
【種概要】高さ7~10 cmで溜池の縁に生える1年草。葉は線形で、幅2.5 mm位で茎より短い。花期は8~10月。小穂は単生し、熟時は褐色を帯びた橙色で、柱頭が伸びて毛に包まれたように見える。

【分布】国内では本州（関西以東）。県内では北勢、中勢地域に数か所みられる。溜池の湿地に生育する。

【現況・減少要因】桑名市、いなべ市、松阪市、明和町、多気町で確認されているが、現況不明。溜池や湿地の開発で減少する。

【保護対策】生育する溜池や湿地の開発を抑止するしか方法はない。

(山脇和也)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

VU

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ハタバカンガレイ

被子植物 カヤツリグサ科

Schoenoplectiella gemmifera (C.Sato, T.Maeda et Uchino) Hayas.

【選定理由】既知の生育地点数は3。このうち2か所の個体数は10未満であるが、1か所の個体数は50未満である。

【種概要】カンガレイ・ヒメカンガレイに類似するが、柱頭は2本（まれに3本）、線形葉を持ち、しばしば無性芽を生じる点で区別される（ただし、止水型では線形葉と無性芽は発達しない）。固有種。

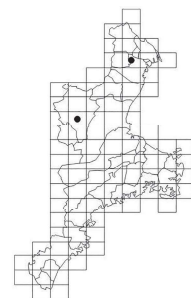
【分布】本州（関東以西の三重、京都、和歌山）、四国、九州。県内では菰野町、四日市市、伊賀市で記録がある。

【現況・減少要因】菰野町、四日市市の用水路に現存する。溜池・河川開発が脅威である。

【保護対策】開発規制等による水域環境の保全。

【文献】25, 32, 70, 109.

(市川正人)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

VU

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蕨苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

シズイ

被子植物 カヤツリグサ科

Schoenoplectus nipponicus (Makino) Soják

【選定理由】既知の生育地点数は5以下であり、未知の生育地はあまりないものと思われる。

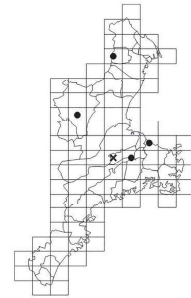
【種概要】湿地に生育するやわらかい多年草。根茎は細長く、茎は高さ40～60 cm、三稜形、下部に3～5個の葉を生ずる。葉身は緑色で三角形、幅2～3 mm。花は7～10月。花序は側生状で、5～8個の小穂をつける。

【分布】北海道、本州、四国、九州。国外では朝鮮半島南部、中国東北部、ロシア極東部に分布。県内では菰野町、伊賀市、多気町、明和町などで記録されている。

【現況・減少要因】ため池や湿地状になった放棄水田等に生育。多気町の生育地は小さな溜池や放棄水田であったが、埋め立てにより消滅した。

【保護対策】ため池の改修、放棄水田の埋め立て等により消滅する可能性があり、注意が必要。

(山本和彦)



三重県 2025
EN
三重県 2015
EN
環境省 2020
—

コウボウ

被子植物 イネ科

Anthoxanthum nitens (Weber) Y.Schouten et Veldkamp var. *sachalinense* (Printz) Yonek.

【選定理由】既知の生育地点数は5以下。個体数は少なく、最近では1地点しか確認されていない。

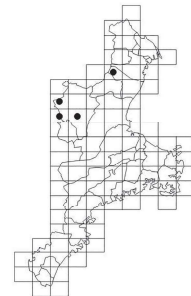
【種概要】日当たりのよい原野に生える多年草。茎は高さ20～50 cmで直立し、葉は茎の下部にある。5～8 cmほどの花序がつき、小穂は茶褐色をおびて光沢がある。花期は4～5月。乾燥するとクマリンの香りがする。

【分布】国内では北海道から九州。国外では東アジア、シベリアに分布。県内では北勢や伊賀地域で報告がある。

【現況・減少要因】最近、亀山市での記録しかない。現況は不明である。草原の開発などで減少する。

【保護対策】生育場所や個体数の調査を行い、それにより対策を講じるべきである。

(山脇和也)



三重県 2025
EN
三重県 2015
EN
環境省 2020
—

ミギワトダシバ

被子植物 イネ科

Arundinella riparia Honda

【選定理由】既知の生育地点数は10以下であり、各地点の個体数は250未満である。

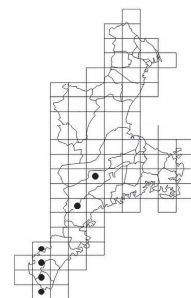
【種概要】河岸岩壁や岩上に生育する多年草。稈は高さ90 cmにもなる。トダシバに似ているが、花序以外は無毛で茎は4～6節からなり、節部でくの字状に折れ曲がること、小穂は長さ4～4.5 mmの2小花からなるが、護穎から小穂先端に抜け出す芒を持つことが特徴である。葉舌は見えにくいほど低い縁に多くの微毛を持つ。花は8～10月につく。固有種。

【分布】河岸に生え、本州（天竜川、宮川、熊野川）、四国（吉野川）で確認されている。県内では宮川、熊野川流域の大台町、熊野市、紀宝町で記録されている。

【現況・減少要因】ほぼ増減はない。洪水などの自然現象や河川開発・改修などが減少要因となる。

【保護対策】河川開発時には注意を払う必要がある。

(市川正人)



三重県 2025
EN
三重県 2015
EN
環境省 2020
VU

ヒゲノガリヤス

被子植物 イネ科

Calamagrostis longiseta Hack.

【選定理由】既知の生育地点数は1であり、個体数は250未満である。

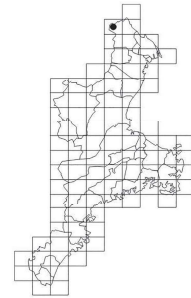
【種概要】山地の草原に叢生する多年草で稈の高さは40~80 cm、葉の多くは根生し、上方の2・3個は稈生する。葉身は長さ15~30 cm、幅2~4 mmで花を7~9月につける。円錐花序は長さ7~14 cm、直立、またはやや傾き、枝は半輪生状につく。小穂は長さ4~5 mmで黄緑色、ときに紫色を帯び、1小花からなる。護穎は包穎とほぼ同長で5脈があり、中央脈背面のやや上部から芒が出ること、他の4脈も伸び出て短芒になる特徴がある。固有種。

【分布】本州（中部地方以東に多く、近畿地方以西ではまれ）。県内ではいなべ市の山地部で記録されている。

【現況・減少要因】いなべ市藤原町の1か所に限られる。遷移による植生の変化が減少要因となる。

【保護対策】生育地の環境を現状のまま維持する必要がある。

(市川正人)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

藓苔類

藻類

キノコ

ヒナザサ

被子植物 イネ科

Coelachne japonica Hack.

【選定理由】既知の生育地点数は5以下である。個体数の多い生育地もあるが、溜池開発で減少する可能性が大きい。

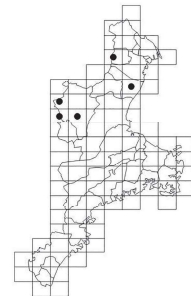
【種概要】湿地に生える高さ5~20 cmの1年草。長さの割に幅の広い葉をつけ、8~10月に少数の小穂からなる円錐花序をつける。

【分布】本州、四国、九州に分布する日本固有種。県内では菰野町で生育が確認されている。また伊賀市に多くの採集記録があるほか鈴鹿市にも古い記録がある。

【現況・減少要因】菰野町の2か所の溜池で生育している他は、伊賀市の湿地、池畔等から2000年前後に2か所の記録があるのみである。開発と植生遷移による生育環境の悪化、とくに水環境の変化による乾燥化が最大の要因と考えられる。

【保護対策】生育地の環境保全と開発による消滅を防ぐため、地域の周辺においても十分な配慮が必要である。

(加田勝敏・山本和彦)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

NT

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ヌマカゼクサ

被子植物 イネ科

Eragrostis aquatica Honda

【選定理由】既知の生育地点数は5、個体数は1,000未満である。溜池の開発などで減少する可能性がある。

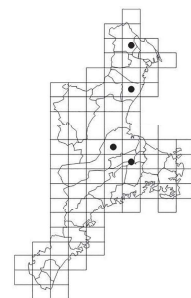
【種概要】本州西部の湿地に生える。イトスズメガヤに似る。高さは30~50 cm。小穂は帯灰汚紫色で側生するものには短い柄があり、枝に圧着する。花期は8~11月。

【分布】本州西部、県内ではいなべ市、鈴鹿市、松阪市、多気町で確認されている。

【現況・減少要因】生育地にはかなりの個体数があるが、湿地や溜池の改修などで減少する可能性がある。

【保護対策】生育地周辺には本種のほかレッドリストにあげられたカヤツリグサ科の植物も多くあり、これらの地域は厳重に保護されるべきである。

(山脇和也)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ヤマトボシガラ

被子植物 イネ科

Festuca japonica Makino

【選定理由】 既知の生育地点数は5以下。各生育地の個体数は少なく50未満と思われる。

【種概要】 山林中に生える。イブキトボシガラに似て、芒が無い。最下の小花は短くて長さ3~4mm。葯は短線形で、長さ約1.5mm。標本にすると小穂を閉じてしまう。

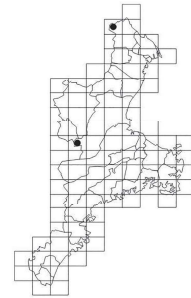
【分布】 国内では本州、四国。国外では朝鮮半島、台湾。県内では北勢、中勢地域で記録がある。

【現況・減少要因】 倶留尊山（津市）および鈴鹿山系（いなべ市）で記録がある。個体数が少ないようなので、環境の変化や遷移によって絶滅するかもしれない。

【保護対策】 森林の伐採には注意を払う必要がある。

【特記事項】 誤同定がないか、標本を再チェックする必要がある。

（山脇和也）



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

イブキトボシガラ

被子植物 イネ科

Festuca parvigluma Steud. var. *breviaristata* Ohwi

【選定理由】 既知の生育地点数は1。個体数は250未満で減少傾向が著しい。

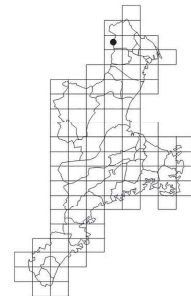
【種概要】 山地の林内や林縁に生える高さ50cm前後の多年草。葉身は長さ10~25cm、幅1.5~3mm、葉鞘とともに平滑で艶がある。葉舌は高さ0.2~1mmの切形。8~15cmの円錐花序で数本の枝が単生する。枝は長く上部に3~5花からなる長さ約8mmの小穂をつける。トボシガラに類似するが、芒が小突起状になる点で識別できる（トボシガラには6~9mmの芒がある）。固有種。

【分布】 本州、四国。県内ではいなべ市で記録されている。

【現況・減少要因】 減少傾向が強いが、ニシノホンモンジスゲの株と混生し、維持されている。シカ食害・植生遷移・石灰岩採掘などが減少要因である。

【保護対策】 シカの個体数管理と防護柵の設置、植生の人為的管理、石灰岩採掘計画を取り止めることなどの施策が必要である。

（市川正人）



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

VU

イワタケソウ

被子植物 イネ科

Hystrix japonica (Hack.) Ohwi

【選定理由】 既知の生育地点数は5以下であり、各地点の個体数は極少ない。

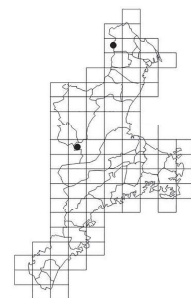
【種概要】 深山の林内に生え、アズマガヤやコウヤザサに似た多年草。ごく短い根茎を持ち、稈の高さは50~80cm。葉身は長さ7~20cm、幅0.8~1.5cm、基部でよじれて表裏面が逆転する。葉舌は高さ1mm以下で低い。花は6~8月。穂状花序は細く、先が傾き、無柄の小穂が各節に1個つく。小穂は1小花からなり、長さ約10mmで穎苞はないか、短い針状となる。護穎は長さ10mmで先は20mm内外の芒となる。稈や花軸は無毛である。固有種。

【分布】 本州（長野県、三重県、山口県）、四国、九州。県内ではいなべ市、津市で記録されている。

【現況・減少要因】 いなべ市北勢町に現存しているが個体数は少ない。急斜面に生えており、崩壊による減少が懸念される。

【保護対策】 生育地は深山であり、生育環境を維持することである。

（市川正人）



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

タイワンカモノハシ

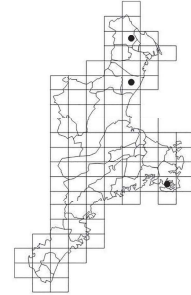
被子植物 イネ科

Ischaemum aristatum L. var. *aristatum*

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物

【選定理由】既知の生育地点数は5以下、総個体数は250未満。
 【種概要】湿地や海岸砂浜に生える高さ70 cmに達する多年草。稈は叢生し斜上、または直立する。節は無毛。葉は先が尖って細長く20 cm内外、幅1 cm弱で稈にまばらにつく。節は無毛。花序は2つの総が密着し1つに見える。小穂第1穎の翼はケカモノハシに似るが、幅が広く、第4穎の芒が目立つ。
 【分布】本州（紀伊半島以南）、四国、九州。県内ではいなべ市、鈴鹿市、志摩市、熊野市で記録されている。国外では台湾、中国。
 【現況・減少要因】少なくとも志摩市では現存している。植生遷移と湖沼開発が減少要因となる。
 【保護対策】生育環境の現状を維持し、湖沼開発を避ける。
 【特記事項】形態・生育環境ともにケカモノハシやカモノハシに類似する。ケカモノハシとは節に毛の無いこと、カモノハシとは第1穎の翼の幅が広く第4穎の芒が目立つことで識別できる。

(市川正人)



三重県 2025
EN
三重県 2015
EN
環境省 2020
—

カリヤス

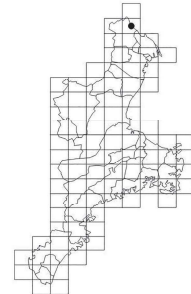
被子植物 イネ科

Miscanthus tinctorius (Steud.) Hack.

維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ

【選定理由】生育地点数は5以下、個体数は250未満である。
 【種概要】山地に生える高さ約90 cmの多年草。葉は稈上生で広線形、無毛である。鞘は節間より短く、普通あらい毛がある。総は斜上し約10~15 cm。小穂は5~6 mmで芒はない。固有種。
 【分布】本州（東北~近畿）。県内ではいなべ市、菰野町。
 【現況・減少要因】シカ食害や開発圧に注意を要する。
 【保護対策】防鹿柵の設置や個体数管理など、食害からの回避、および太陽光パネル設置などに伴う土地造成など、開発圧からの回避・軽減が必要である。

(市川正人)



三重県 2025
EN
三重県 2015
—
環境省 2020
—

ヒロハノハネガヤ

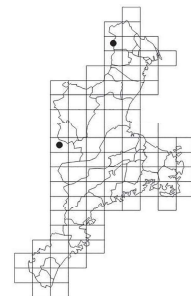
被子植物 イネ科

Stipa coreana Honda var. *japonica* (Hack.) Y.N.Lee

EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

【選定理由】既知の生育地点数は2。個体数は極めて少ない。
 【種概要】山地の草原や林内に生える多年草。稈の高さは1 mに達する。葉身は10~30 cm、幅7~15 mmで葉裏は灰色を帯び、微毛がある。葉鞘口部に軟毛があり、葉舌は1 mm以下。10~25 cmの直立する円錐花序で下部には枝を持ち、花軸に圧着する。小穂は長さ12~15の1小花で、護穎には2~3 cmの芒がある。固有種。
 【分布】北海道、本州、四国、九州。県内ではいなべ市、名張市で記録されている。
 【現況・減少要因】数年前に名張市で生育を確認しているが、直近の生育状況は不明である。植生遷移が減少要因。
 【保護対策】いなべ市の生育地域は石灰岩採掘予定鉱区内であり、採掘実施の際には移植などの保護対策が必要である。

(市川正人)



三重県 2025
EN
三重県 2015
EN
環境省 2020
—

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蕨類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ビロードキビ

被子植物 イネ科

Urochloa villosa (Lam.) T.Q.Nguyen

【選定理由】 既知の生育地点数は5以下。紀州地域の南部のごく一部に限られ、個体数もそれほど多くない。

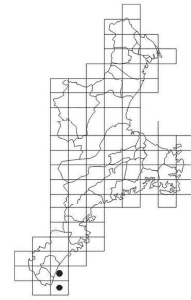
【種概要】 基部は分枝し、6~10個の斜開する枝をつける、高さ15~20cmの1年草で、全体に開出する軟毛がある。花期は8~10月。花序は長さ4~6cmで、小穂は総に圧着する。和名は全体に軟毛があるため。

【分布】 国内では本州（紀伊半島）、四国、九州、沖縄の海岸に生え、国外では中国（中南部、台湾）、インドネシア、インドに分布。県内では紀宝町のみで生育している。

【現況・減少要因】 紀宝町の山地の道路ぎわにあるので、道路の改修や開発に伴って減少したり、場合によっては消滅の恐れがある。

【保護対策】 生育地では道路の改修や開発は避けなければならない。

(山脇和也)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

EN

ヤマブキシソウ

被子植物 ケシ科

Hylomecon japonica (Thunb.) Prantl et Kündig

【選定理由】 既知の生育地点数は5以下。生育環境の悪化が著しい。

【種概要】 山地に生える多年草。高さは30~40cm。花は径3cm少々 of 黄色の4弁花で、その名のようにヤマブキを思わせ美しい。葉形の変化が多く、小葉の幅の狭いものをホソバヤマブキシソウ、深く羽状に裂け深い切れ込みのあるものをセリバヤマブキという。花期は4~6月頃。

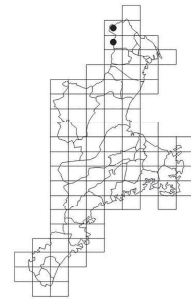
【分布】 国内では本州から四国、九州。国外では中国に分布。県内ではいなべ市に分布。

【現況・減少要因】 登山道の崩壊や山崩れが進行している。それに加え台風などによる周りの環境悪化の影響もあり、近年大幅な減少の傾向にある。

【保護対策】 登山道をきちんと整備し、登山者や撮影者が登山道から生育地に入れないようにすることが必要である。土砂崩れに対する対策も急務である。

(山脇和也)

(写真：いなべ市、2008年、池田博撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

シコクフクジュソウ

被子植物 キンポウゲ科

Adonis shikokuensis Nishikawa et Koji Ito

【選定理由】 既知の生育地点は5以下。個体数が激減している自生地も一部見受けられるが、新たな生育情報もあり、CRからENに変更となった。

【種概要】 一見するとエダウチフクジュソウに見えるが、果托と葉の下面が無毛である点が異なる。集合果は小さく球形で、そう果の毛は短い。葉の色は濃緑色。

【分布】 本州（近畿地方南部）、四国、九州。三重県ではいなべ市、鈴鹿市、伊賀市、大台町に生育。

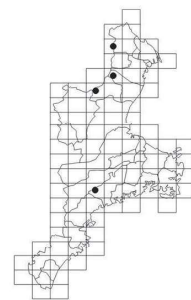
【現況・減少要因】 4か所とも個体数は多くなく、とくに鈴鹿山系と伊賀市は土建業者による採石や観賞用採取、撮影のための踏みつけなどにより個体数が激減し絶滅寸前になっている所がある。

【保護対策】 鈴鹿山系北部と伊賀市では採石を早急に中止させる。人や動物が入らないように防護柵を作る。

【特記事項】 鈴鹿山系北部では、ステゴビル、エゾスズラン、セリモドキ、フジワラサイコ、フキヤミツバ、オオキヌタソウ、ミノコバイモなど、絶滅危惧I類の種が11種以上生育している県内でも狭い特異な生育地があるので、特別保護区にするか、天然記念物に一部地域を指定すべきである。

(山脇和也)

(写真：大台町、2019年、川竹守撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

CR

環境省 2020

VU

ヒメイチゲ

被子植物 キンポウゲ科

Anemone debilis Fisch. ex Turcz.

【選定理由】既知の生育地点数は5以下であり、各地点の個体数は250未満である。

【種概要】亜高山帯の針葉樹林や高山帯のハイマツ林の林縁、ときには草原にもみられる多年草。地下茎は短い塊状である。根出葉には5~12 cmの柄があり、1回3出複葉、小葉は長さ1.5~3 cm、幅1~2 cmである。総苞葉は3個つき、それぞれ総状披針形から披針形の3小葉からなり、根出葉の形とは大きく異なる。

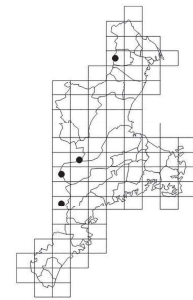
【分布】本州（近畿地方以北）、北海道に分布。県内では山地上部に限られ、明るい広葉樹林下の草原に生育している。菰野町、伊賀市、津市、松阪市、大台町で記録されている。国外では北東アジア。

【現況・減少要因】採取や造林の拡大が減少要因と考えられる。

【保護対策】造林地の拡大や園芸採取に注意を払う必要がある。

(市川正人)

(写真：菰野町、2013年、池田博撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蕨類

藻類

キノコ

キケンショウマ

被子植物 キンポウゲ科

Cimicifuga japonica (Thunb.) Spreng. var. *peltata* (Makino) H.Hara

【選定理由】既知の生育地点数は10以下。個体数は極めて少ない。シカの食害で減少している。前はオオバショウマを含めて評価しVUとしたが、キケンショウマを独立させENと評価した。

【種概要】山地の半日陰に生える多年草。太い根茎と長い根を持つ。茎は11 m以上に達し、上部は分枝して苞葉がある。根出葉は1回3出葉、小葉は大きく10~30 cm、5~9裂し、鋸歯がある。花は白色、8~9月にイヌショウマに似た小さな花を穂状花序につける。キケンショウマはオオバショウマに類似するが葉柄が楕状に着く点異なる。固有種。

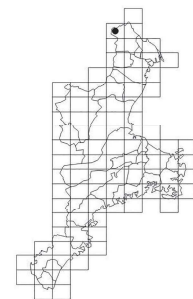
【分布】本州（東京都、滋賀、三重、岐阜、長野）。県内ではいなべ市、亀山市、伊勢市。

【現況・減少要因】少なくともいなべ市藤原町の山地に生育している。生育地ではキケンショウマとオオバショウマが混生する。豪雨による斜面崩壊やシカの食害が減少要因である。

【保護対策】シカの個体数管理と自然災害に対する適切な対策を要する。

(市川正人)

(写真：いなべ市、1950年、百永章採集、三重県総合博物館所蔵)



三重県 2025

EN

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

タカネハンショウヅル

被子植物 キンポウゲ科

Clematis lasianдра Maxim.

【選定理由】既知の生育地点数は5以下である。

【種概要】山間部の林縁などに生えるつる性低木。葉は長柄があり、2回3出複葉で小葉は卵形から卵状披針形、鋭尖頭、あらい鋸歯がある。9~10月頃、その年に伸びた枝の葉腋より集散状の花序を出す。花は下向きで鐘形、淡紅紫色。

【分布】国内では本州（近畿地方以西）から九州、国外では中国（本土、台湾）に分布。県内では名張市、津市、松阪市、大台町からの記録がある。

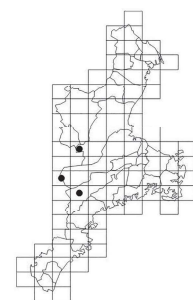
【現況・減少要因】いずれの生育地も最近まで分布情報があり、現在も健在と思われる。林縁に生えるものは、刈り払われたりすることもあると思われる。

【保護対策】遊歩道や登山道の整備等で刈り払うことのないよう注意が必要。

【特記事項】シロバナノタカネハンショウヅルも確認されている。

(山本和彦)

(写真：松阪市、2023年、池田博撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蕨苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

カザグルマ

被子植物 キンポウゲ科

Clematis patens C.Morren et Decne.

【選定理由】 既知の生育地点数は10以下であり、各生育地の個体数は50未満である。採取や開発による圧力が極めて強い。

【種概要】 林縁に生える落葉性のつる草。葉は羽状複葉、小葉は3～5枚、卵形で先はとがるが鋸葉はない。蔓の先端に1～3枚の葉をつけ1個の花を頂生する。花期は5～6月。花は径6～10 cm。萼片は6～8枚、白色から淡紫色。

【分布】 国内では本州、四国、九州北部。国外では朝鮮半島、中国（東北の南部）。県内ではいなべ市、菰野町、伊勢市、南伊勢町に分布する。

【現況・減少要因】 山地や丘陵の林縁に生育する。開発による生育地の破壊や盗掘などで減少している。

【保護対策】 分布する地域の開発を最小限にとどめる。また園芸採取を防ぐため、分布情報の公表は避ける。

【特記事項】 伊勢地方の蛇紋岩地帯に生育する個体は花が紫色になる。
(中馬千鶴・福田知子)

(写真：いなべ市，2020年，市川正人撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

NT

キイセンニンソウ

被子植物 キンポウゲ科

Clematis uncinata Champ. ex Benth. var. *ovatifolia* (T.Itô ex Maxim.) Ohwi ex Tamura

【選定理由】 既知の生育地点数は5以下であり、各地点の個体数は50未満である。

【種概要】 林道や里道沿いの常緑広葉樹。落葉広葉樹の陽光の場所に生育する蔓植物で、センニンソウに比べ小葉は厚く、卵形又は長だ円形である。花期は8～9月。

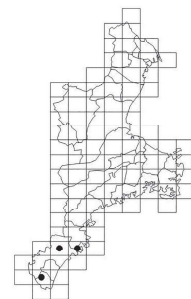
【分布】 国内では紀伊半島南部（和歌山県、三重県）。県内では紀州地域（熊野市、御浜町、紀宝町）に分布。

【現況・減少要因】 自生地は極めて限定されている。近年の林野の放置が原因で減少傾向にあり、危惧すべき環境におかれている。

【保護対策】 乱獲防止と、本種が生育する周辺の小低木を伐採する場合には、積極的に保護する必要がある。

(花尻 薫)

(写真：紀宝町，2010年，池田博撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

シロバナハンショウヅル

被子植物 キンポウゲ科

Clematis williamsii A.Gray

【選定理由】 既知生育地点数は1であり、数個体が確認されるだけである。新産地が期待される。

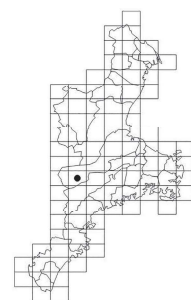
【種概要】 林縁や低木に巻きつく蔓性半低木。葉は1回3出複葉で小葉は長卵形から卵形、3中裂し小数の鋸歯があり、しばしば白斑がはいる。4～6月頃、本年枝葉腋に2～4 cmの花柄を伸ばし白い花をつける。花柄の中部より上に披針形の小苞をつける。花は下向きで広鐘形である。萼片は4個、長さ1.5～2 cmの広楕円形から卵形である。石灰岩地を好む傾向がある。固有種。

【分布】 本州（関東地方南部～近畿地方南部の太平洋側）、四国、九州。県内では松阪市で記録がある。

【現況・減少要因】 花をつけるまでに成長した個体は少ない。台高山地西側、奈良県側にはかなりの個体数を確認しているが、三重県側には少ない。林縁の土砂崩壊が減少要因となる。

【保護対策】 果実を着けるまでに成長した個体はとくに保護を必要とする。
(市川正人)

(写真：松阪市，2017年，池田博撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

コウヤシロカネソウ

被子植物 キンポウゲ科

Dichocarpum numajirianum (Makino) W.T.Wang et P.K.Hsiao

【選定理由】 既知の生育地点数は5以下であり、各生育地の個体数はおよそ50未満と少ない。

【種概要】 茎の高さ5~20 cmになる多年草。地下茎は短く、大きな鱗片に被われる。葉は3小葉からなり、側小葉は小さな葉に分裂する。花は4~6月、横向きに咲き、淡黄緑色から白色、径7~8 mm。

【分布】 国内では近畿地方南部、四国東部の暖帯上部から温帯下部に分布。県内では津市、大台町からの記録がある。

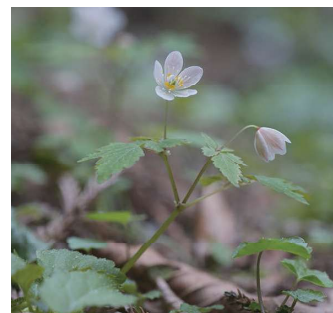
【現況・減少要因】 津市の標本記録は古く、近年のものはない。大台町では、2003年に溪流沿いの落葉広葉樹林内で約30個体確認されている。県内で同様な環境下を精査すれば、さらに新生育地が増える可能性がある。

【保護対策】 生育地周辺の森林環境の保全が必要である。奥山で発見されていることから、採取圧も高くないと思われるが、個体数が少ないため、乱獲による絶滅の可能性も考えられる。生育地の公表には十分な配慮が必要。

【文献】 65。

(山本和彦)

(写真：和歌山県，2021年，三谷有幸撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

EN

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

藓苔類

藻類

キノコ

セツブンソウ

被子植物 キンポウゲ科

Eranthis pinnatifida Maxim.

【選定理由】 既知の生育地点数は5以下、各地点の個体数は250未満。

【種概要】 多年草で茎は直立かややかたむいて伸び、高さ5~15 cm、長い柄の根出葉は5角状円形で3~5 cm。葉身は深く3全裂し、側裂片は更に2深裂して、各裂片は羽状に欠刻する。輪生する2枚の茎葉には柄がなく、細かく分かれる。3~4月、先端に白色で直径2 cmほどの花を開く。花弁は密弁となり、先は2裂して黄色、がく片は5枚あり、卵状、おしべ多数で葯は淡紫色。

【分布】 日本固有種。本州（関東および中部以西）の暖温帯から冷温帯。県内ではいなべ市、伊賀市に分布。

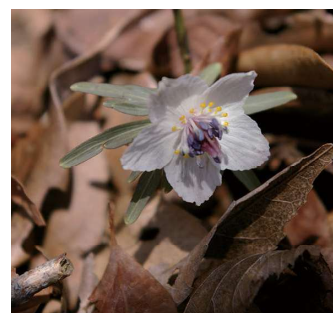
【現況・減少要因】 陽地で裸地に近いか草丈の低い、しかも疎生の落葉樹林内に生育するが、近年ヒノキ、スギや下草の繁茂により、光量不足から減少している。また、土石流災害により生育地が崩壊したり、採取圧を強く受けている。

【保護対策】 生育地の放置により、植生の遷移が進行することから、存続が困難な状況におかれていることが多い。従って、存続するには人為による生態学的管理が必要である。盗掘の防止のため分布情報の公表については十分な配慮が必要である。

【文献】 34, 45, 51, 69。

(葛山博次)

(写真：いなべ市，2015年，市川正人撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

NT

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ミスミソウ

被子植物 キンポウゲ科

Hepatica nobilis Schreb. var. *japonica* Nakai

【選定理由】 既知の生育地点数は5であるが、各生育地の個体数は250未満である。

【種概要】 落葉広葉樹林の林床に生え、細長く匍匐する多年草。根出葉は根茎の先に束生し、長い葉柄がある。葉身は三角形で、基部は心状、裂片は鋭頭。3~4月頃、高さ10~15 cmの花茎を出し、径1~1.5 cmの白い花を頂生する。花の下にある3枚は茎葉で萼ではない。萼片は花弁状で白色、6~10枚ある。花弁はない。

【分布】 国内では本州（中部地方以西）、九州北部。県内ではいなべ市、伊勢市、鳥羽市に分布する。

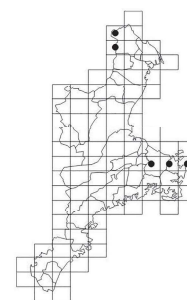
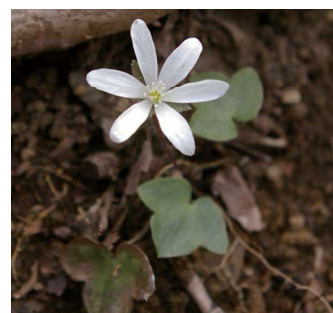
【現況・減少要因】 林縁に小群落を成しているが、遷移の進行により、減少傾向にある。伊勢地方ではイノシシの食害により激減した。

【保護対策】 造林地の適切な手入れを継続することが必要である。

【特記事項】 ミスミソウにはケスハマソウ、スハマソウも含む。

(中馬千鶴・福田知子)

(写真：いなべ市，2014年，市川正人撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

NT

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

トツカワハナネコノメ

被子植物 ユキノシタ科

Chrysosplenium album Maxim. var. *totsukawaense* J.Oda et Nagam.

【選定理由】既知の生育地点数は3。総個体数は250未満と見積もられる。水飛沫の影響を受ける過湿な沢沿いというやや特殊な生育環境であるため、生育基盤が脆弱である。

【種概要】山地の沢沿い、とくに水飛沫の影響を受けるような過湿な環境に生育する小形の多年草。シロバナネコノメソウに似るが、萼裂片が短く先端が鈍頭～円頭であることと花粉粒が黄白色であることで区別される（ハナネコノメの萼裂片は長く先端は凸～鋭頭、花粉粒は白色）。また、キイハナネコノメに酷似するが、雄蕊が萼片先端よりわずかに長いこと、花粉粒がより黄色を帯びることで区別される（キイハナネコノメでは雄蕊が萼片先端より短く、花粉粒は黄白色）。夏季の走出枝の葉は大形になる。

【分布】国内では、本州、四国に分布。県内では、尾鷲市、熊野市、紀宝町に生育。

【現況・減少要因】林道を横切る沢によく見られることから、林道の拡幅や沢の砂防工事が減少要因と考えられる。

【保護対策】林道の拡幅や沢の砂防工事に際して各段の配慮が必要。

【文献】170.

(藤井伸二)

ヤグルマソウ

被子植物 ユキノシタ科

Rodgersia podophylla A.Gray

【選定理由】既知の生育地点数は5以下であり、生育環境が限られている。

【種概要】落葉広葉樹林域の谷筋に生える多年草。葉は掌状複葉で下部のものは長い柄があって5小葉からなり、上部の1～2枚は小さく1～4小葉となる。花は6～7月。花茎は直立し、高さ1mに達する。萼は4～8裂して平開し、花柄と共に花時に白色となる。花弁はない。

【分布】国内では北海道西南部、本州、国外では朝鮮半島、中国（東北）に分布。県内ではいなべ市、松阪市、大台町からの記録がある。

【現況・減少要因】ニホンジカの嗜好植物であることから、個体数は減少していると思われる。現在確認できるのはニホンジカの届かない高い岩上などに生育している個体のみである。大台町の記録は1917年のもので現状は不明。

【保護対策】ニホンジカの食害を防ぐ対策が必要。

(山本和彦)

ナメラダイモンジソウ

被子植物 ユキノシタ科

Saxifraga fortunei Hook.f. var. *suwoensis* Nakai

【選定理由】既知の生育地点数は5以下。

【種概要】湿った岩上に生える多年草。葉は根生し、長さ3～20cmの葉柄があり、葉身は腎円形で長さ1.5～7cm、幅3～10cm、掌状に5～7中列する。花は9～10月。花弁は白色、上側の3個は小さく、下の2個は不同。

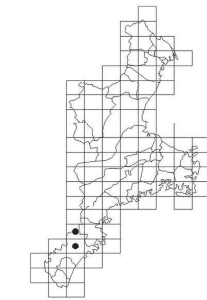
【分布】国内では本州（中地方以西）、九州に分布。県内では亀山市や大台町からの記録がある。

【現況・減少要因】県内では谷沿いや林道沿いの湿った岩上に生育している。多くの個体が群生しているところもあり、少数しか生育していないところもある。園芸目的で採取されている。林道工事や治山工事により自生地が破壊されることも懸念される。

【保護対策】マニアによる乱獲を防ぐため、生育地の情報は公表しないことが大切。また今後、林道の工事や治山工事により絶滅することのないよう十分な配慮が必要。

(山本和彦)

(写真：多気町、2015年、市川正人撮影)



三重県 2025

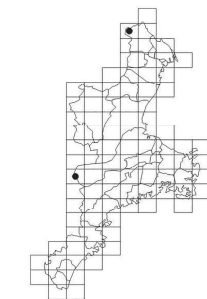
EN

三重県 2015

—

環境省 2020

—



三重県 2025

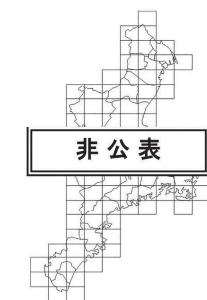
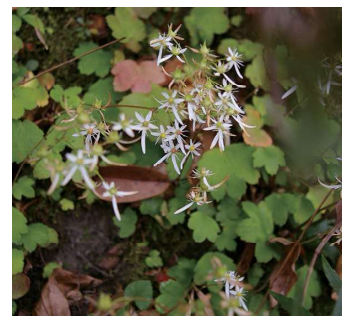
EN

三重県 2015

—

環境省 2020

—



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

非公表

クロクモソウ

被子植物 ユキノシタ科

Saxifraga fusca Maxim. subsp. *kikubuki* (Ohwi) Kitam.

【選定理由】既知の生育地点は5以下。1974年の文献情報しかなく、現在も生育するか不明であったが、2007年に生育が確認された。個体数は多くはないことからVUからENに変更。

【種概要】深山の溪流沿いの岩上に生える多年草。地下茎は短くはう。葉は2~15 cmの葉柄があり、腎円形で径2~8 cm、両面はほとんど無毛。花茎は高さ10~30 cm、7~8月に径5~8 mmの暗紫褐色の花をつける。

【分布】日本固有種。近畿地方以北の本州、四国、九州に分布。県内では松阪市から記録されている。

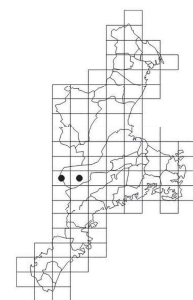
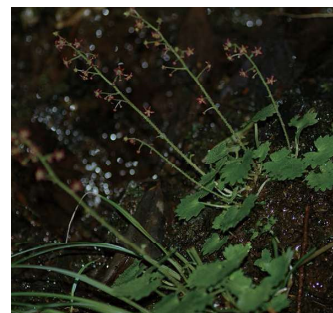
【現況・減少要因】溪流沿いの岩壁に生育するため、シカの食害からは免れているが、マニアによる盗採等の影響が懸念される。

【保護対策】森林伐採の規制。

【文献】48, 50.

(山本和彦)

(写真：松阪市，2007年)



三重県 2025

EN

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

苔苔類

藻類

キノコ

センダイソウ

被子植物 ユキノシタ科

Saxifraga sendaica Maxim.

【選定理由】既知の生育地点数は5以下。各自生地の個体数はおよそ250未満。

【種概要】谷沿いの湿った岩上に生える多年草。茎は直立して3~20 cm。葉は茎の上部につき柄があり、厚くて光沢がある。花期は9~10月。花卉は白色。

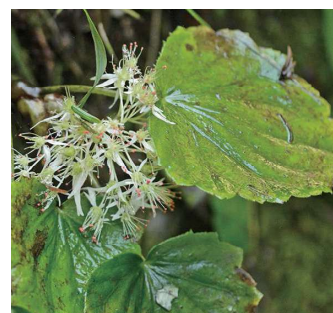
【分布】国内では紀伊半島、四国、九州に分布。県内では大台町や松阪市飯高町からの記録がある。

【現況・減少要因】松阪市飯高町と大台町のいくつかの渓谷の湿った岩上に生育している。松阪市飯高町の生育地の1つは、マニアによる採取のためか、減少している。他の生育地では、新たな林道開設や治山工事等で、生育地が破壊されることが懸念される。

【保護対策】マニアによる乱獲を防ぐため、生育地の情報は公表しないことが大切。また今後林道の工事や治山工事により絶滅することのないよう十分な配慮が必要。

(山本和彦)

(写真：松阪市，2009年，池田博撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

NT

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

アオバンケイ

被子植物 ベンケイソウ科

Hylotelephium viride (Makino) H. Ohba

【選定理由】既知の生育地点数は5以下であり、各地点の個体数は少ない。

【種概要】山地の岩上や樹上に生える根茎を持つ多年草で、高さ20~50 cmになる。葉は通常対生し、灰緑色まれに赤みを帯び、卵形で長さ3~6 cm、幅1.5~4 cm、縁は全縁、またはゆるい波状鋸歯がある。葉柄は1~2 cmが目立つ。9~10月頃に散房状球形の花序に長さ約4.5 mm、花卉5個の淡黄緑色の花をつける。

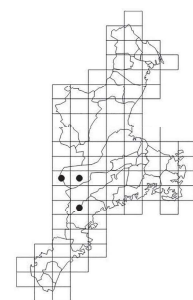
【分布】本州（中部地方以西）、四国、九州。県内では津市、松阪市、大台町の山地上部の樹上で記録されている。国外では朝鮮、中国、ロシア。

【現況・減少要因】生育場所が樹上であるため見つけにくい。他地域でも同環境下であれば生育の可能性はある。森林伐採や倒木が減少要因としてあげられる。

【保護対策】造林の拡大による広葉樹林伐採に注意を払いたい。

(市川正人)

(写真：大台町，2022年，山本和彦撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

マキエハギ

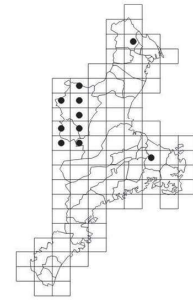
被子植物 マメ科

Lespedeza virgata (Thunb.) DC.

【選定理由】既知の生育地点数は10。生育地は不安定。
 【種概要】草本性の小低木、茎の高さ30~60 cm、分枝し、枝は細く、稜が走り角張っており、紫色を帯び多少毛がある。葉は互生し、有柄の三出複葉、小葉は短い柄を持ち、長楕円形、先端は円形で、頂部に1本の剛毛がある。基部は円形、裏面には短毛がある。初秋のころ、葉腋から細長い花序柄を出し、上部に少数の花をつける。花に開放花と閉鎖花がある。開放花は2個ならび、白色の蝶型花で、旗弁の基部付近には赤斑がある。ガクは基部の近くまで4裂する。豆果は楕円形で、上下両端とも尖り、熟しても割れず毛はないが網状脈がある。中に1個の種子を生じる。
 【分布】国内では本州（中南部）、四国、九州、沖縄。国外では台湾、中国、朝鮮半島の暖温帯。県内では桑名市、伊賀市、名張市、伊勢市などに分布。
 【現況・減少要因】丘陵地の林縁や路傍に生育することから土地の改変、道路改修などの人為圧により減少。園芸用花木として採取されることもある。
 【保護対策】生育地の土地改変を避けるとともに、植生遷移の進行を停止する人的管理により保全することが大切である。
 【文献】69.

(葛山博次)

(写真：伊賀市，1947年，百永章採集，三重県総合博物館所蔵)



三重県 2025	EN
三重県 2015	EN
環境省 2020	—

シマエンジュ

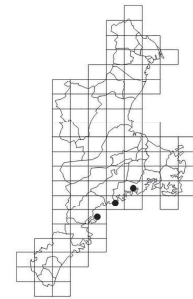
被子植物 マメ科

Maackia tashiroi (Yatabe) Makino

【選定理由】既知の生育地点数は4であり、各生育地の個体数は50未満。
 【種概要】高さ1~3 mの落葉低木。葉は15~20 cm、5~7対の側小葉がある。小葉は両面または裏面に伏した軟毛がある。花は淡黄色、7~8月に枝の先に複総状花序につく。莢果は長卵形から長楕円形、長さ2~4 cm。
 【分布】日本固有種。本州（三重県、和歌山県）、四国、九州、沖縄の海岸近くに分布。県内では南伊勢町の3地点および紀北町からの標本記録がある。
 【現況・減少要因】入り江の奥の海辺に生育することから土地の改変、道路改修などの人為圧により減少。園芸用花木として採取されることもある。
 【保護対策】本種だけでなく多くの海岸植物が、自生地を失わずに将来に渡って存続していけるような海岸部の環境保全対策が早急に必要とされる。
 【特記事項】本種は、和歌山県が北限とされていたが、2002年に南伊勢町で発見された。
 【文献】132, 181.

(山本和彦)

(写真：紀北町，2024年)



三重県 2025	EN
三重県 2015	EN
環境省 2020	—

カキノハグサ

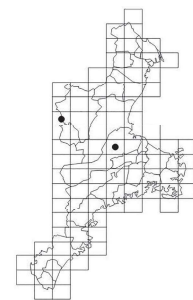
被子植物 ヒメハギ科

Polygala reinii Franch. et Sav.

【選定理由】既知の生育地点数が5以下であり、近年の生育情報が少ない。
 【種概要】山地のやや乾いた林下に生育する多年草。柿の葉に似た大きな葉をつけ、草丈は20~35 cmになる。5~6月に茎頂に黄橙色の大きな花を総状につける。
 【分布】国内では本州（中部地方西部、静岡県、近畿地方）。県内では伊賀市、松阪市で記録があり、津市にも生育情報がある。
 【現況・減少要因】松阪市の生育地では毎年花を咲かせているが、生育地域は狭く、個体数も少ない。生育地はハイキングコースの脇にあるため、花時に摘まれて減少する心配がある。
 【保護対策】生育地の環境保全のため、現在生育が確認されている地点では当分の間、樹木の伐採は行わない。

(山路武夫)

(写真：松阪市，2008年，池田博撮影)



三重県 2025	EN
三重県 2015	EN
環境省 2020	—

ヤマブキショウマ

被子植物 バラ科

Aruncus dioicus (Walter) Fernald var. *kamtschaticus* (Maxim.) H.Hara

【選定理由】既知の生育地点数は5以下であり、各地点の個体数は250未満である。

【種概要】山地に生える雌雄異株の多年草。根茎は太く、木化し、茎は30~80 cmで多少毛が生える。葉は大きく2回3出複葉である。小葉は長さ3~10 cm、幅1~6 cmの卵形で膜質、重鋸歯縁で鋭尖頭である。6~8月頃に複総状円錐花序をつくり、白色で小さい花をつける。萼は5裂、花弁は5個、雄花には約20個の雄しべがある。雌花には直立した3心皮がある。固有種。

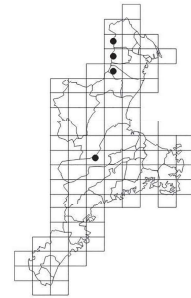
【分布】北海道から九州に分布。県内ではいなべ市、菰野町、四日市市、津市、伊賀市で記録されている。

【現況・減少要因】菰野町高所には比較的個体数が多く、生育は良好である。減少要因としては土砂崩壊および植生遷移があげられる。

【保護対策】生育環境の維持・保全が必要である。

(市川正人)

(写真：菰野町，2016年，池田博撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

シモツケソウ

被子植物 バラ科

Filipendula multijuga Maxim. var. *multijuga*

【選定理由】既知の生育地点数は5以下であり、各生育地とも個体数は減少している。

【種概要】多年草。根茎は太く、茎は直立し、高さ30~70 cmで無毛、4~5本の茎上葉を互生する。頂小葉は掌状に5~7中から深裂し、裂片は鋭尖頭でふちには鋸歯と欠刻がある。側小葉は大形と小形のものが交互に対生し、無柄で3~6対ある。托葉は披針状長楕円形。全株ほとんど無毛。花は7~8月、茎の先端に集散花序をつけ、淡紅色の花を密集して開く。直径4~5 mm、雄しべ多数で花弁より長い。

【分布】日本固有種。本州（関東以西）、四国、九州の冷温帯。県内では鈴鹿山脈の北・中部地域と台高山脈に分布する。

【現況・減少要因】薪炭材を伐採することがなくなり、生育地の樹木の生長とともに、光量、通風が制限されて貧弱である。採取圧も受けている。

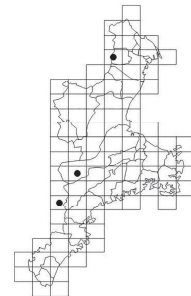
【保護対策】生育地の上層木の間伐、枝打ちなどにより生育環境を整える必要がある。また、採取を禁止する。

【特記事項】別名をクサシモツケともいう。

【文献】4, 51, 57, 69, 139。

(葛山博次)

(写真：菰野町，2014年，池田博撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

イワキンバイ

被子植物 バラ科

Potentilla ancistrifolia Bunge var. *dickinsii* (Franch. et Sav.) Koidz

【選定理由】既知の生育地点数は10以下であり、各地点の個体数は250未満である。

【種概要】山地の岩上に生える全体に伏毛のある多年草。根茎は太く、木化し分枝する。茎は細く10~30 cm、根出葉は長柄のある長さ1~4 cm、幅0.7~2.5 cmの3~5個の小葉からなる。やや革質で裏面は緑白色である。6~7月頃、黄色で径1 cmの数個~10数個の花をつける。瘦果は卵形で縮れた毛を持つ。固有種。

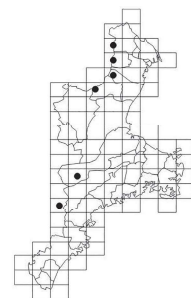
【分布】本州（北海道から九州）。県内ではいなべ市、菰野町、四日市市、鈴鹿市、亀山市、伊賀市、松阪市、大台町で記録されている。

【現況・減少要因】半乾燥の岩壁や岩棚に生育している。高所、花崗岩風化地など、厳しい環境に適應できる植物である。

【保護対策】生育環境の保全が必要である。

(市川正人)

(写真：菰野町，2012年)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

- 哺乳類
- 鳥類
- 爬虫類
- 両生類
- 汽水・淡水魚類
- 昆虫類
- クモ類
- 貝類
- 甲殻類
- その他動物
- 維管束植物
- 蕨苔類
- 藻類
- キノコ
- EX
- EW
- CR
- EN
- VU
- NT
- DD

ミヤマチヨジザクラ

被子植物 バラ科

Prunus apetala (Siebold et Zucc.) Franch. et Sav. subsp. *apetala*

【選定理由】 既知の生育地点は2か所である。今の所、総個体数は250未満である。

【種概要】 チョウジザクラ（狭義）に似ているが、葉に鋭い鋸歯があり、萼筒と葉柄の毛は密生せずまばらであり、花は小さい。萼筒の基部がわずかにふくれる。

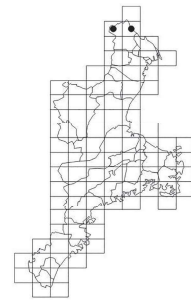
【分布】 本州中部地方(長野南部、岐阜飛騨、福井、富山県南部)に特産する日本固有種。県内では鈴鹿山系北部と養老山地に生育する。

【現況・減少要因】 1か所は安定した落葉樹林内であり、もう1か所は川沿いの林道近くにあり道路工事や河川の改修などで減少する可能性がある。

【保護対策】 道路工事や河川の改修の時、場所を把握しておき避けるか、残るような手立てを要する。

(山脇和也)

(写真：いなべ市、2022年、池田博撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

ミヤマザクラ

被子植物 バラ科

Prunus maximowiczii Rupr.

【選定理由】 既知の生育地点は2か所である。県内での個体数は少ない。

【種概要】 落葉高木で、高さ10 m、径40~60 cmになる。樹皮は紫褐色で、横に長い皮目が目立つ。1年枝には毛がやや密生する。花期は5~6月上旬。側枝に総状花序または散房状花序を出し4~10個の花をつける。

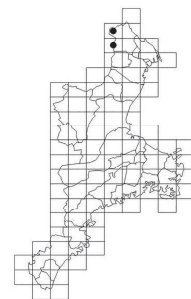
【分布】 北海道、本州、四国、九州の冷温帯から亜寒帯に自生する。国外では朝鮮、中国東北部、ウスリー、樺太に分布する。県内では鈴鹿山系北部の滋賀県との県境付近にわずかに生育する。滋賀県側にはもう少し多く生育する。

【現況・減少要因】 総個体数は県境に10個体前後である。台風で倒れたり、林床のニホンジカの食害による乾燥化などの遷移により減少する可能性がある。

【保護対策】 林床のニホンジカの食害を防止する。

(山脇和也)

(写真：いなべ市、2019年、池田博撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

マメナシ (イヌナシ)

被子植物 バラ科

Pyrus calleryana Decne.

【選定理由】 既知の生育地点数は10以下であり、各地点の個体数は50未満である。

【種概要】 高さ8~10 mの落葉性の小高木。よく分枝する。花期は4月、直径約2.5 cmの白色花。果実はほぼ球形で直径約1 cm、黄褐色で円形の小さい皮目が多数ある。

【分布】 国内では本州(三重、岐阜、愛知)。県内では桑名市、いなべ市、東員町、四日市市、松阪市、多気町、明和町、玉城町、伊勢市、鳥羽市に分布する。

【現況・減少要因】 里山や溜池周辺などの湧水のある場所に自生。人里に近いために耕地整理や開発により減少している。

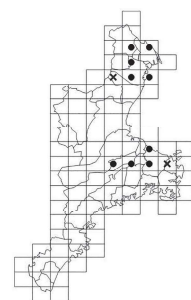
【保護対策】 生育地の樹木はほとんど国・市・町の天然記念物となっているが、生育地の植生遷移の進行を停止し、幼木の生育を促す下草刈りや共存する木々の伐採が必要である。実生の育成を促す環境づくりにつとめる。

【特記事項】 四日市市、桑名市の生育地は国指定天然記念物。東員町、松阪市、伊勢市、玉城町ではそれぞれ市町の天然記念物。三重県指定希少野生動物植物種。伊勢地方名をイヌナシという。

【文献】 4, 34, 43, 53, 60, 108, 127, 137.

(葛山博次)

(写真：桑名市、2012年、市川正人撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

EN

クロイチゴ

Rubus mesogaeus Focke var. *mesogaeus*

被子植物 バラ科

【選定理由】生育地点数は5以下で個体数も極めて少ない。

【種概要】山地に生える落葉低木である。茎や枝にはやや下向きの刺と白い軟毛があるが腺毛はない。葉は互生し奇数羽状複葉、頂小葉は大きく、側小葉は1(2)対、縁は欠刻状重鋸歯、裏には綿毛が密生し、エビガライチゴに似る。花期は6~7月、枝先の腋性花序に5~10個の淡紅色の花を着ける。

【分布】日本全土。県内ではいなべ市、大台町、紀北町。国外では中国、台湾、ヒマラヤ。

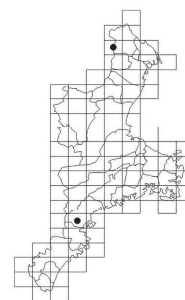
【現況・減少要因】現況不明である。シカの食害が大きい。

【保護対策】シカ食害防止対策を要する。

【特記事項】類似種のエビガライチゴとは個体全体に腺毛がないことで区別できる。新産地が期待される。

(市川正人)

(写真：奈良県，2024年，宮島美栄撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

—

環境省 2020

—

ハスノハイチゴ

Rubus peltatus Maxim.

被子植物 バラ科

【選定理由】既知の生息地点数は5以下であり、生息地が限られている。

【種概要】深山の林内にややまれに生える。落葉低木で、茎や枝は円く無毛で白粉をおび、鉤形の棘を疎生する。葉は楕状に柄につき、大型。托葉は大きく、葉柄に延着する。6月頃に白い花を枝端に1個つける。果実は円柱形で長さ4~9cmで白熟する。

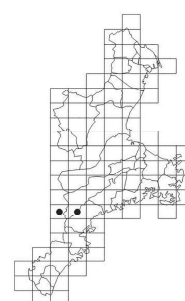
【分布】国内では本州(長野県西部、福井県以西)、四国、九州。国外では中国中部。県内では大台町大台ヶ原に分布。

【現況・減少要因】大台ヶ原山の樹林下に生えているが、台風などによる被害や、ニホンジカによる食害により、減少傾向にある。

【保護対策】ニホンジカの個体数を調節し、食べられないよう周囲の環境を保全する必要がある。

(山脇和也)

(写真：大台町，2006年，山本和彦撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

NT

サナギイチゴ

Rubus pungens Camb. var. *oldhamii* (Miq.) Maxim.

被子植物 バラ科

【選定理由】既知の生育地点は2か所である。

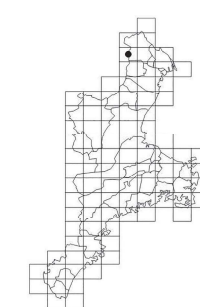
【種概要】落葉小低木。茎は細くて伸長し、先から根を下ろし、細い棘を散生し、葉は5~7小葉からなり薄い。托葉は糸状。花枝は短く、3~4個の葉と先に1~2個の花がつく。花は5~6月に咲く。果実は小型、紅熟し、花托に柄がなく、密に毛がある。小核果葉大きい。

【分布】ヒマラヤ、中国(西部・北部)。国内では、本州、四国、九州のブナ帯山地に生育しやや稀。県内では、鈴鹿山系北部の滋賀県との県境付近にわずかに生育する。滋賀県側にはもう少し多く生育する。

【現況・減少要因】いなべ市、菰野町、四日市市で計6か所の生育地が確認されている。総個体数は県境に10数個体でたいへん少ない。ニホンジカの食害により消滅する可能性がある。

【保護対策】保護柵などを作り、ニホンジカの食害を防止する。

(山脇和也)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

VU

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

苔苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蕨類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ドロシモツケ

被子植物 バラ科

Spiraea japonica L.f. var. *ripensis* Kitam.

【選定理由】 既知の生育地点数は5以下であり、各地点の個体数は50未満である。

【種概要】 川岸又は河川の中ほどにある岩の上に生育する小低木。母種のシモツケとの違いは、全長が30~50 cmと小低木で、全体が無毛（シモツケは全長が60~100 cm、茎に短毛と稜がある。）、本種には稜がない。以上の形質の違いから変種とされている。

【分布】 国内では紀伊半島南部（和歌山県、奈良県、三重県）。県内では紀州地域（熊野市、紀宝町）に分布。

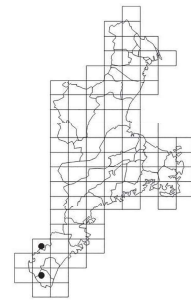
【現況・減少要因】 園芸採取および河川改修による岩盤の除去、破壊が減少の圧力となっている。

【保護対策】 河川改修の際の工法を考慮すること。園芸採取の防止。

【特記事項】 紀伊半島固有種。

（花尻 薫・土永知子）

（写真：熊野市，2017年，池田博撮影）



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

ハマナツメ

被子植物 クロウメモドキ科

Paliurus ramosissimus (Lour.) Poir.

【選定理由】 既知の生育地点数は10以下であり、生育地の存続基盤が脆弱である。

【種概要】 海岸近くに生える落葉低木。葉腋に托葉の変形した棘がある。根元から幹を斜めに20~40本伸ばす。花は小さく、7~8月に咲き、淡緑色で径約5 mm。果実は倒円錐形の核果で、径1~1.7 cm。

【分布】 国内では本州（東海、南畿、山陽地方）、四国、九州、沖縄。国外では済州島、台湾、中国大陸、インドシナに分布。北限に当たる静岡県の生育地は、埋め立てにより絶滅。県内では南伊勢町から紀宝町の海岸近くに稀産する。

【現況・減少要因】 大きな群落は、海跡湖周辺や河口部に発達している。群落地の中には開発計画もあり、存続が懸念される。また、近年ニホンジカの食害やカワウ生息に起因する水質悪化等により枯死木が増加し、1,100株以上生育していた大群落が4株にまで激減した自生地も出現している。

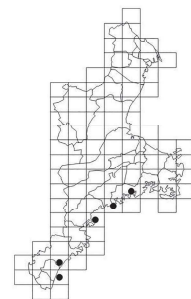
【保護対策】 県内のすべての自生地に対して、速やかに保護の網をかぶせる必要がある。

【特記事項】 三重県指定希少野生動物植物種

【文献】 98, 130, 131, 182.

（山本和彦）

（写真：紀北町，2013年）



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

VU

オヒョウ

被子植物 ニレ科

Ulmus laciniata (Trautv.) Mayr var. *laciniata*

【選定理由】 既知の生育地点数は10以下で、50未満の個体しか確認されていない。

【種概要】 山地に生える落葉高木。樹高25 m、直径1 mになる。葉は2列互生してざらつく。葉身は倒広卵形から長楕円形。上部は3~9裂するか、急鋭尖頭。側脈は10~17対。両面に短毛がある。

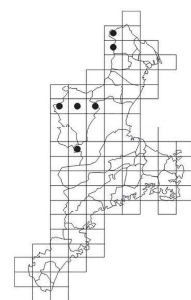
【分布】 国内では北海道、本州、四国、九州、国外では朝鮮半島、中国（東北部）、東シベリア、カムチャッカなどに分布。県内では、いなべ市（御池岳、藤原岳）、伊賀市、津市美杉町（大洞山）などに生育が知られている。

【現況・減少要因】 確認されている自生個体が少ない。林業開発（スギ、ヒノキ一斉林への転換）で個体数が減ったうえ、近年著しく増えたニホンジカ等の食害を受けている可能性が高い。石灰岩採掘による鉱区拡張の影響を憂慮する。

【保護対策】 林業開発、林道開設、治山工事の際には保全に配慮する必要がある。

（武田明正・市川正人）

（写真：いなべ市，2018年，池田博撮影）



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

アサダ

被子植物 カバノキ科

Ostrya japonica Sarg.

【選定理由】既知の生育地点数は5以下。未知の生育地は既知の生育地に比べ多くないと推測される。

【種概要】山地に生える落葉小高木。高さ10~15 m, 直径30 cm程度。樹皮は暗褐色で、薄片に割れ剥げる。葉は互生で狭卵形から広・長楕円形。葉身の長さ5~13 cm。鋭先端。重鋸歯縁で芒端。表面に白軟毛が密生。

【分布】国内では北海道(中南部), 本州, 四国, 九州(霧島山)。国外では朝鮮半島(済州島, 莞島), 中国(湖北, 四川省など), 県内ではいなべ市, 津市美杉町(三重大学演習林), 松阪市, 名張市ほかに分布。

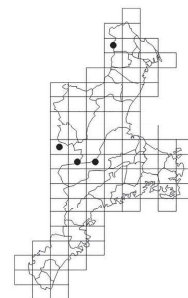
【現況・減少要因】本種が自生する里山林の多くは薪炭林として利用されてきた。これら薪炭林の多くがスギ, ヒノキの植林へ転換され個体数が減少した。

【保護対策】山地開発, 林道開設, 治山工事などの際には, 保全に配慮する必要がある。

【文献】138.

(武田明正・山本和彦)

(写真: 松阪市, 2016年, 山本和彦撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

ゴキヅル

被子植物 ウリ科

Actinostemma tenerum Griff.

【選定理由】既知の生育地点数は10以下であり, 各地点の個体数は50未満である。減少傾向にある。

【種概要】水辺に生える蔓性の1年草。葉は有柄で互生し, 3角状披針形で先は尖り, 長さ3~10 cm, ときに3~5浅・中裂する。巻きひげを持つ。雌雄同株であり, 雄花は総状, 雌花は雄花序の基部につく。花柄は糸状である。8~11月頃, 黄緑色で長さ5~6 mmの花冠・萼からなる花をつける。果実は卵形で, 下半分には突起がある。合器蔓の名のとおり, 果実が熟すと上下2分する。中には扁平な種子2個がある。

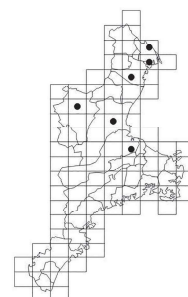
【分布】本州から九州。県内ではいなべ市, 桑名市, 菰野町, 四日市市, 伊賀市, 津市, 明和町, 伊勢市, 紀宝町で記録されている。国外では朝鮮, 中国, ベトナム。

【現況・減少要因】用水路整備, 農薬使用の影響で急激に個体数および分布域を減らしている植物である。

【保護対策】現在の生育環境を保全する必要がある。

(市川正人)

(写真: 四日市市, 2013年)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

シラヒゲソウ

被子植物 ニシキギ科

Parnassia foliosa Hook.f. et Thomson var. *foliosa*

【選定理由】既知の生育地点数は2であり, 各生育地の個体数はおよそ50未満しかない。

【種概要】山の陰湿地に生える多年草。根出葉は腎形から心円形, 径1.5~4 cmで, 2~13 cmの葉柄がある。花茎は4稜あり2~8枚の茎葉をつける。花は8~9月, 茎頂に1個つく。花弁は白色で縁は細裂する。

【分布】国内では本州, 四国, 九州に分布。県内では大台町からの記録がある。

【現況・減少要因】県内の生育地は, 深山の溪谷の岩上で, 今のところ, 大台町宮川でしか確認されていない。他地域でも, 同様な環境下であれば発見されるものと思われる。登山道沿いの生育地は, 山草愛好家により採取され, 個体数は減少している。

【保護対策】マニアによる採取を防ぐため, 生育地の公表は避ける必要がある。また今後計画される登山道整備にあたっては, 生育地を破壊しないような配慮が必要である。

(山本和彦)

(写真: 大台町, 2012年, 市川正人撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

- 哺乳類
- 鳥類
- 爬虫類
- 両生類
- 汽水・淡水魚類
- 昆虫類
- クモ類
- 貝類
- 甲殻類
- その他動物
- 維管束植物
- 蕨類
- 藻類
- キノコ
- EX
- EW
- CR
- EN
- VU
- NT
- DD

イワウメヅル

被子植物 ニシキギ科

Celastrus flagellaris Rupr.



【選定理由】既知の生育地点は1か所である。
 【種概要】雌雄異株。暖帯および温帯の山地の林内に生える落葉生の藤本。枝には円形ないし楕円形の葉柄痕が明瞭で、托葉は少なくとも1、2年枝には1対の棘となって宿存する。3年枝より古い枝では、ときには節から太く短い気根を出して木や石の上をはい上がる。葉は薄く、円形ないし長卵形、縁に芒状の細鋸歯がある。花期は5～6月。果実は球形で黄熟し、宿存する花柱をつける。

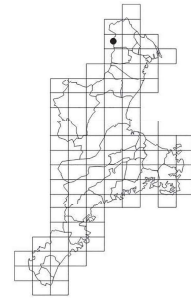
【分布】朝鮮、中国東北部、アムール。国内では、本州関東地方以西、四国、九州。県内では、鈴鹿山系北部の滋賀県境付近に生育する。個体数は少ない。

【現況・減少要因】藤原岳山頂付近に大きな個体が生育しているが、藤原鉱山の石灰採掘によりほとんど消滅する運命にある。北方稜線上にわずかに残るのみとなる。

【保護対策】鉱山開発の先送りか、中止させるのが最善であるが、不可能なら移植しかない。

(山脇和也)

(写真：いなべ市，2011年，市川正人撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

マルミノウルシ

被子植物 トウダイグサ科

Euphorbia ebracteolata Hayata



【選定理由】既知の生育地点数は5以下。各地点の生育個体数は250未満である。

【種概要】草丈40～50 cmに達する山地性の多年草。4～5月頃、杯状花をつける。ノウルシに比べ果実の表面に突起がなく平滑である。芽吹きから成長まで葉が赤味を帯びていることも特徴の一つである。

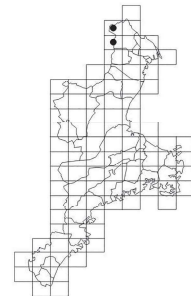
【分布】本州、北海道。県内ではいなべ市に記録がある。近畿地方における数少ない生育地であり、南限に近い。国外では朝鮮、中国。

【現況・減少要因】登山者の踏み付けによる土壌の硬化や園芸採取が最大の減少要因。

【保護対策】生育地の入山規制で踏み付けを防止する。また、国立・国定公園特別地域の指定植物等に指定し、採取を規制することも必要である。

(加田勝敏・市川正人)

(写真：いなべ市，2014年，池田博撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

NT

キヌヤナギ

被子植物 ヤナギ科

Salix kinuyanagi Kimura

【選定理由】既知の生育地点数は5以下。未知の生育地は既知の地点に比べて多くはないと考えられる。以前に比べて減少した。

【種概要】水辺など水湿地に生える落葉小高木。小枝には灰色の軟毛が密生。葉身は狭披針形で先端は鋭尖形。長さ10～20 cm、幅1～2 cm。葉の縁が裏に巻く。裏面は伏した白色直毛が密生して銀白色に見える。

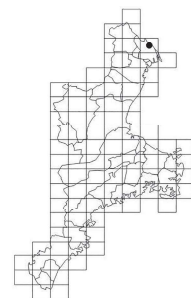
【分布】国内では本州（関東以西）、四国、九州。県内では桑名市、菰野町、伊賀市、熊野市などでの分布情報がある。

【現況・減少要因】生花、観賞用として植栽されることがあり、自生は多くないという。

【保護対策】河川改修、護岸工事などの際には保全への配慮が必要。栄養繁殖に頼る攪乱依存の生活特性を持つことから、条件を整えてやれば回復する可能性がある。

【特記事項】雄株だけが知られており、我国本来の自生種でなく、栽培品からの逸出との考えもあり、RDB掲載種として適当か、今後の研究の進展をまって再検討する必要がある。

(武田明正・藤井伸二)



三重県 2025

EN

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

アケボノスミレ

被子植物 スミレ科

Viola rossii Hemsl.

【選定理由】 既知の生育地点数は5以下。個体数は250未満。生育地はイノシシによる土壌攪乱が顕著である。

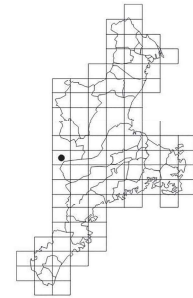
【種概要】 温帯山地性の多年草。花は淡紫色で、葉の展開に先立って3～5月に開く。花弁は15～20 mmでスミレ類では比較的大きく、側弁の毛は無いか僅かである。距は太くて短い。

【分布】 北海道（南部）、本州、四国、九州。県内では津市、松阪市、伊賀市で記録されている。国外では朝鮮、中国、千島。

【現況・減少要因】 少なくとも飯高町の山地に20株ほどが生育しているが、現地はイノシシによる土壌の掘り返しが激しく減少傾向にある。

【保護対策】 美しいスミレであり、防護柵の設置など保護管理が必要である。
(市川正人)

(写真：松阪市，2013年)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

苔苔類

藻類

キノコ

シコクスミレ

被子植物 スミレ科

Viola shikokiana Makino

【選定理由】 既知の生育地点数は5以下。個体数も多くない。

【種概要】 山地のブナ帯の林下にはえる。節のある地下茎が直立、それから細くて長い根茎を四方にのぼし、その先に新しい株をつけて増える。葉は1か所から1～3枚だす。花は4～5月ごろやや葉に先立って咲き、白色。

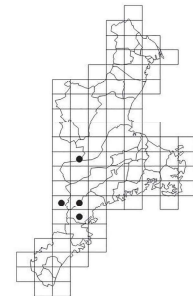
【分布】 国内では本州（関東西部から紀伊半島）、四国、九州。県内では大台町大台ヶ原や津市からの記録がある。

【現況・減少要因】 大台ヶ原や津市では、標高1,000～1,400 m付近のブナ林内に数か所確認されている。他所でも同様の環境下に見つかる可能性はあるが、県内のブナ林自体はそれほど多くない。

【保護対策】 ブナ林の保護。

(山脇和也)

(写真：大台町，2015年，市川正人撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

コフウロ

被子植物 フウロソウ科

Geranium tripartitum R.Knuth var. *tripartitum*

【選定理由】 既知の生育地点数は5以下であり、生育基盤が不安定である。

【種概要】 多年草で茎は20～80 cmとなり、よく分枝して基部は倒れて伏し、上部は葉柄と共に下向きの屈毛と圧毛がある。葉身は3深裂し、巾2～8 cm濃緑色で互生する。花は淡紅色から白色で、直径12～15 mm。花期は8～9月である。

【分布】 国内では本州、四国、九州の暖温帯から冷温帯。県内ではいなべ市（鈴鹿山脈北部）、菰野町（御在所岳）、亀山市安坂山町、津市美杉町、松阪市飯高町に分布する。

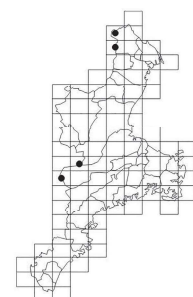
【現況・減少要因】 生育地の基盤（土壌や岩石）が土石流や豪雨などの影響を受けて崩落しやすく、また、植物体も脆弱で、そうした変化圧に耐えられず消失することがある。

【保護対策】 生育地の土石の崩落を防止する工事が必要である。また、生育地が上層木の繁茂により光量不足にならないよう間伐、枝打ちが必要である。

【文献】 34。

(葛山博次)

(写真：いなべ市，2013年，市川正人撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

イワアカバナ

被子植物 アカバナ科

Epilobium amurense Hausskn. subsp. *cephalostigma* (Hausskn.) C.J.Chen, Hoch et P.H.Raven

【選定理由】 既知の生育地点は5以下であり、個体数も少なく、生育環境が限られている

【種概要】 山間の溪流沿いに生える多年草。茎は高さ25~100 cm、上部で多く分枝し、全体に短い曲がった毛があり、節間に特に毛を密生する2本の稜線がある。葉は長楕円形、先は鋭形、裏面の脈上に毛がある。花は淡紅色または白色、7~9月に開き、花弁の長さ4.5~7 mm、柱頭は頭状。

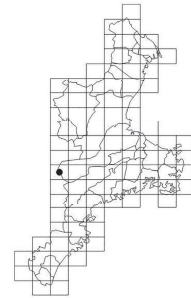
【分布】 国内では北海道~九州、国外では朝鮮半島、中国、ウスリー、サハリン、千島列島に分布。県内では松阪市からの記録がある。

【現況・減少要因】 松阪市では2007年の標本記録以降の状況は不明であるが、洪水等の大きな自然災害がなければ個体群は維持されているものと推測される。

【保護対策】 今後新たな産地が発見される可能性も高いことから、広い範囲に渡って森林環境を保全することが必要。

(山本和彦)

(写真：滋賀県，2014年，池田博撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

—

環境省 2020

—

メグスリノキ

被子植物 ムクロジ科

Acer nikoense Maxim.

【選定理由】 既知の生育地点数は5以下であり、各地点の個体数は少ない。

【種概要】 温帯山地の谷間や山腹に多くみられる落葉高木。樹皮は灰褐色で成木は縦裂する。若枝には灰白色の毛が密生する。葉は対生し、3出複葉である。葉柄は2~3 cmで開出毛が密生する。小葉は長さ5~12 cm、幅2~6 cmの楕円形で不規則な波状鋸歯を持つ。裏面脈状には灰褐色粗毛が目立つ。雌雄別株で、5月頃葉の展開と同時に散形状花序に淡黄色の花をつける。8~10月に直角~鈍角に開く翼果をつける。固有種。

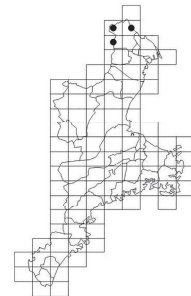
【分布】 本州（宮城・山形県以南）、四国、九州に分布。県内ではいなべ市、大台町で記録されている。

【現況・減少要因】 一時期薬用採取が問題視されたが、現在比較的安定している。

【保護対策】 カエデ属の中では3出複葉が目立ち、薬草として採取されやすいことに注意を要する。

(市川正人)

(写真：いなべ市，2019年，池田博撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

タチバナ

被子植物 ミカン科

Citrus tachibana (Makino) Tanaka

【選定理由】 既知の生育地点数は5以下であり、個体数はきわめて少ない。

【種概要】 樹高は2~6 mの常緑小高木。枝などに長さ0.5~1 cmの鋭い棘がある。葉は互生、葉柄に狭い翼がある。6月頃に枝の葉腋に白花をつける。小さな果実を実らせるが、酸味が強く生食には向かない。

【分布】 国内では本州（愛知県以西）、四国、九州（南大東島）の常緑樹林内に自生している。県内では鳥羽市、紀北町、尾鷲市、熊野市に生育する。

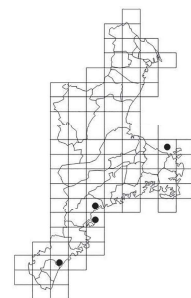
【現況・減少要因】 それぞれの生育地では1~2個体が確認されているに過ぎない。もともと個体数は多くないが、常緑広葉樹林の伐採や遷移進行により現在も減少傾向にある。

【保護対策】 生育地の保全、日照等の環境改善とともに、後継木の育成も必要である。また、栽培品種からの病虫害感染にも注意を払う必要がある。

【特記事項】 鳥羽市桃取町に生育する2個体および紀北町の生育地は県、尾鷲市と熊野市の生育地は市の天然記念物に指定されている。ヤマトタチバナ、ニッポンタチバナ等の名前で各地に植栽されている。

(岡 与一・半田俊彦)

(写真：紀北町，2017年，山本和彦撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

NT

ハマセンダン

被子植物 ミカン科

Tetradium glabrifolium (Champ. ex Benth.) T.G.Hartley var. *glaucum* (Miq.) T.Yamaz.

【選定理由】既知の生育地点数は5以下であり、各地点の個体数は50未満である。

【種概要】半落葉の高木で、胸高周囲が3mを越す巨木もある。熱帯地方では常緑であるが、本種の北限である県内では1月頃に落葉することが多い。

【分布】国内では本州（三重県以西）、四国、九州。県内では紀州地域（尾鷲市、熊野市、御浜町）に分布。

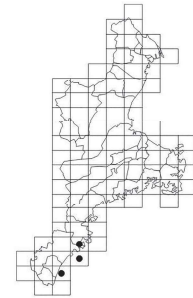
【現況・減少要因】道路工事による伐採、急崖地の崩落による倒木などが圧力となる。

【保護対策】道路工事の際には現場を事前調査することにより、伐採や自生地の切り崩しを防止する必要がある。

【特記事項】尾鷲市曾根町の飛鳥神社は本種の北限地。

(花尻 薫)

(写真：尾鷲市，2012年，山本和彦撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

藓苔類

藻類

キノコ

ミツバコンロンソウ

被子植物 アブラナ科

Cardamine anemonoides O.E.Schulz

【選定理由】既知の生育地点数は5以下であり、各地点の個体数は250未満である。

【種概要】山の木陰に生える10~20cmの茎が直立する多年草。下部の葉は退化して小さく、上部の葉は柄があって3出葉からなる。小葉は1~4cmで粗い重鋸歯があり、基部は楔形の卵状披針形である。4~5月頃、6~10mmの花弁を持つ花を短い総状花序に数個つける。果実は3~4.5cmで毛はない。固有種。

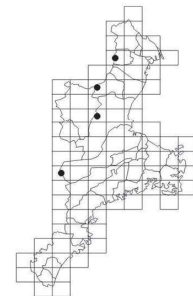
【分布】本州（関東地方以西）、四国、九州。県内では菰野町、亀山市、伊賀市、松阪市で記録されている。

【現況・減少要因】それぞれの生育地の個体数はそれほど多くはない。生育場所周辺の森林伐採、土地改変による環境の変化が減少要因となる。

【保護対策】生育地の環境維持に努める。

(市川正人)

(写真：菰野町，2014年，池田博撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

マルバタネツケバナ

被子植物 アブラナ科

Cardamine sp.

【選定理由】既知の生育地点数は1。個体数は比較的多いが、河川改修など河川開発圧力に強く影響される。

【種概要】河口付近水辺で潮の干満により水位変化の影響があるような河川敷に生育する高さ20~40cmの多年草。根元や上部で分枝するなど、形態はオオバタネツケバナをはじめタネツケバナ類と似ているが、葉身は楕円形、大きな波状鋸歯でほとんど切れ込まず、明らかな相違がみられる。4~5月頃に白い花を咲かせ、長い果実をつける。

【分布】本州（岐阜県、愛知県、三重県）。県内では桑名市で記録されている。

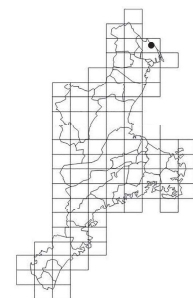
【現況・減少要因】桑名市多度町の数か所に生育している。揖斐川河川敷のヨシ原の縁やヤナギ林内にかなり広く観察できる。河川改修による影響が減少要因になる。

【保護対策】少なくとも堤内のヨシ原、ヤナギ林等の現状維持が必要である。

【特記事項】別名（仮称）：タドタネツケバナ。

(市川正人)

(写真：桑名市，2020年，山本和彦撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

コタネツケバナ (コカイタネツケバナ)

被子植物 アブラナ科

Cardamine kokaiensis Yahara, Soejima, Kudoh, Šlenker et Marhold

【選定理由】既知の生育地点数は1だが、個体数は1,000前後あるいはそれ以上。生育環境は潮汐の影響を受ける河川敷環境であり、河川整備による環境変化による減少の懸念がある。

【種概要】河川の氾濫原環境に生育する1年草(越年草)。増減水を頻繁に繰り返す環境を好む。帰化植物のミチタネツケバナに似るが、茎は基部からよく分枝してそれらの枝は放射状に横に広がること、花には開放花と閉鎖花の二型を有すること、長角果の柄が短いこと、種子に狭い翼が発達することなどで区別できる。

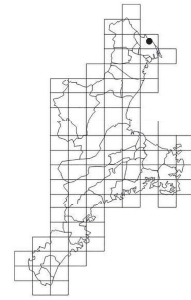
【分布】国内では、本州(茨城県、静岡県、三重県、京都府、大阪府、岡山県)の河川に分布。県内では、桑名市の揖斐川河川敷に生育する。

【現況・減少要因】生育地は河川整備によってヤナギ林が伐採されたが、光環境が改善して個体数は増加した。今後の遷移と河川開発による環境変化が脅威。

【保護対策】河川環境の保全。河川開発(河川敷にかかわる治水工事)にあたっては一定の配慮が必要。

(藤井伸二)

(写真: 桑名市, 2020年, 山本和彦撮影)



三重県 2025	EN
三重県 2015	—
環境省 2020	—

コイヌガラシ

被子植物 アブラナ科

Rorippa cantoniensis (Lour.) Ohwi

【選定理由】既知の生育地点数は1。個体数は極めて少ない。

【種概要】溜池の周囲など水湿地に生える高さ10~40cmの1年草。茎は多く分枝し、毛は無い。茎葉は小さく耳状に茎を抱き、長楕円形で羽状深裂し、長さ2~4cmで無毛。4~5月に葉腋に黄色の花を着ける。果実は約8mmの円柱形で、果柄は短い。

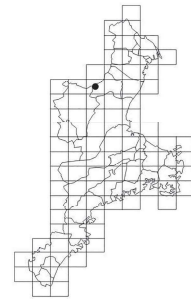
【分布】国内では本州(関東以西)、四国、九州。県内では伊賀市1ヶ所の溜池だけで記録されている。国外では東アジア。

【現況・減少要因】水位が高い年には生育確認ができない。湖沼開発もなく安定しているが、長期にわたる高水位の持続が憂慮される。水位を低下させ、溜池周囲の土壌露出を期待する。

【保護対策】現況を維持し、出来る限り湖沼開発を避け、改変時には保護のための工法を必要とする。

(市川正人)

(写真: 伊賀市, 2010年)



三重県 2025	EN
三重県 2015	EN
環境省 2020	NT

オオバヤドリギ

被子植物 オオバヤドリギ科

Taxillus yadoriki (Siebold ex Maxim.) Danser

【選定理由】既知の生育地点数は5以下、各地点の個体数は50未満である。

【種概要】常緑広葉樹、主としてカシ類、クスノキ科のタブ、ヤブニッケイ、シイなどに寄生するが、時にはその周辺の針葉樹にも寄生する。グミに似るが葉が大きい。晩秋に2~3個の柄のある花をつける。

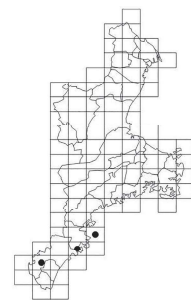
【分布】国内では本州(京都、奈良、和歌山、三重)に分布。県内では紀州地域(御浜町、尾鷲市)。

【現況・減少要因】紀州地域に2か所。おもに神社林の外帯の向陽の樹に寄生しているが、暴風や神社林の整備などにより宿主が倒木したり、伐採されたりすると個体数が激減するおそれがある。

【保護対策】神社林の保護や天然記念物指定などが必要である。

(花尻 薫・土永知子)

(写真: 尾鷲市, 2024年, 山本和彦撮影)



三重県 2025	EN
三重県 2015	EN
環境省 2020	—

コギシギシ

被子植物 タデ科

Rumex dentatus L. subsp. *klotzschianus* (Meisn.) Rech.f.

【選定理由】既知の生育地点数は1。推定個体数は250未満。農耕地や路傍などの攪乱環境に生育することから、生育基盤が脆弱と考えられる。

【種概要】畑地や路傍などに生育する越年草。アレチギシギシに似た外観を持つが、植物体はより小形で、側花序の分枝数がより少ないこと、輪生花がより密につくこと、果実の外萼片の歯牙がよく発達して萼片の幅よりも長い棘状となることで区別できる。同属のコガネギシギシ（外萼片の歯牙は針状）やカギミギシギシ（外萼片の歯牙先端は鉤状）との区別にも注意を払う必要がある。

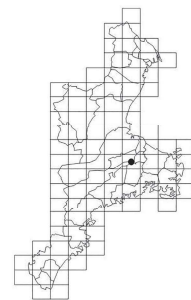
【分布】国内では、本州～九州、大東諸島（移入?）に分布。県内では、多気町の農地から記録されている。

【現況・減少要因】攪乱環境に依存するため、増減そのものが不明。

【保護対策】攪乱環境、とくに農耕地に依存する植物であるため、適切な保全策を示すことができない。

（写真：多気町，2018年，山本和彦撮影）

（藤井伸二）



三重県 2025

EN

三重県 2015

—

環境省 2020

VU

タチハコベ

被子植物 ナデシコ科

Moehringia trinervia (L.) Clairv.

【選定理由】既知の生育地点数は10以下で、各生育地の個体数は100未満である。

【種概要】高さ7～20 cmになる1年草または越年草。茎は下部から枝を分けて広がり、下向きの短毛を密生。葉は卵形鈍頭、先は鋭形、葉柄があり、両面に短毛がある。花期は3～8月。花卉は白色。

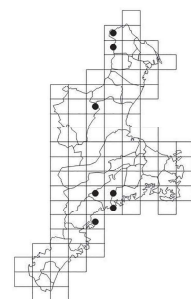
【分布】国内では北海道、本州、四国、九州。国外では北半球の温帯に分布。県内ではいなべ市藤原岳周辺、津市、南伊勢町、大紀町、紀北町、尾鷲市からの記録がある。

【現況・減少要因】県内では藤原岳の山地から海辺の低地まで幅広く分布が認められるが、生育地数や個体数は少ない。いずれの生育地も陽光が当たる草地あるいは樹林の林縁部である。遷移の進行で個体数が減少しつつあるところも見受けられるが、他は今のところ健在である。

【保護対策】山地では登山道周辺にみられることが多いので、整備に際しては注意が必要である。海辺では、埋め立て等による生育地の消失が危惧される。海辺の自然環境を保全することが必要である。

（写真：尾鷲市，2018年）

（山本和彦）



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

VU

ハマアカザ

被子植物 ヒユ科

Atriplex subcordata Kitag.

【選定理由】既知の生育地点数は10以下であり、個体数は少ない。

【種概要】河口の汽水域の砂地など海浜に生える一年生草本。茎は分枝し、高さ40～60 cm。葉は互生。開花期は8～10月。雌花は苞を有し、苞は結実期に長さ6～10 mmになる。

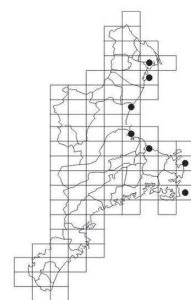
【分布】国内では北海道、本州。国外では樺太、千島列島。県内では桑名市、四日市市、鈴鹿市、松阪市、明和町、伊勢市、鳥羽市、志摩市で記録がある。

【現況・減少要因】埋め立て・護岸・堤防工事など、海浜は開発圧が高く、また河口付近は流入河川の水質変化の影響も受けやすいため、本種の生育可能な環境は非常に限定的になっている。

【保護対策】海浜や河口の砂地の環境を保全する必要がある。

（写真：桑名市，2012年，市川正人撮影）

（平山大輔）



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

苔苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蕨類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ハチジョウイノコヅチ

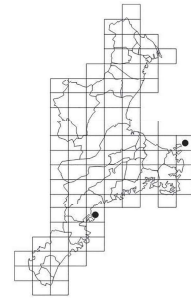
被子植物 ヒユ科

Achyranthes bidentata Blume var. *hachijoensis* (Honda) H.Hara

【選定理由】既知の生育地点数は2. 個体数は250以下である。
 【種概要】高さ1mに達するイノコヅチに似た多年草. 茎は直立, または斜上し, 葉は楕円形で長さ約15cm, 幅約8cm, 対生する. 表面は光沢のある深緑色でほぼ無毛である. 8~9月に茎の先端や葉腋に穂状花序を着ける. 付属体はイノコヅチ類ではやや大きい. 固有種.
 【分布】本州(南部), 四国, 九州. 県内では鳥羽市, 紀北町の島嶼に記録がある.
 【現況・減少要因】鳥羽市と紀北町の島嶼では現存している. 海岸開発が減少要因となる.
 【保護対策】開発に際しては移植, 播種などの対策が必要となる.

(市川正人)

(写真: 紀北町, 2010年, 山本和彦撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

イソホウキギ

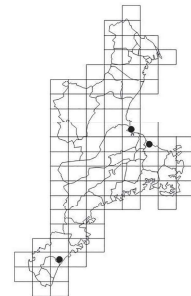
被子植物 ヒユ科

Bassia scoparia (L.) A.J.Scott var. *littorea* Makino

【選定理由】既知の生育地点数は5以下であり, 個体数は少ない。
 【種概要】塩性湿地に生える一年生草本. 高さ30~100cm. 茎は分枝が多い. やや厚みのある細い葉が互生する. 開花期は9~10月で, 1~3個の花が葉腋につく。
 【分布】国内では本州(東海地方以西), 四国, 九州に分布. 国外では朝鮮半島, 中国大陸東部に分布. 県内では津市, 松阪市, 伊勢市, 熊野市で分布の記録がある。
 【現況・減少要因】塩性湿地そのものが希少で, かつ消失の危機にある. それにともない本種も減少, 消失が懸念される。
 【保護対策】塩性湿地の保全により, 本種の保全も可能と思われる.

(平山大輔)

(写真: 松阪市, 2012年, 市川正人撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

クサレダマ

被子植物 サクラソウ科

Lysimachia vulgaris L. var. *davurica* (Ledeb.) R. Kunth

【選定理由】既知の生育地点数は5以下, 個体数は極めて少ない。
 【種概要】山中の湿地に生える多年草. 横にはう地下茎から直立する地下茎を出し, 高さ40~80cm, やや密に短い腺毛と軟毛が生える. 葉は2~4枚が輪生または対生し, 柄がなく, 披針形または狭長楕円形で長さ4~12cm, 巾1~4cm, 先は鋭く尖り裏面の葉肉内に黒色の腺点がある. 7~8月, 茎の上部に円錐花序をつけ, 多数の花を開く. 小花柄は長さ7~12mm, 線状の小さな苞がある. がく片は三角状卵形, 先は鋭く尖り, 縁に黒い線条がある. 花は黄色, 5裂し, 裂片は三角状卵形, 径12~15mm. 花糸は互いに合着, 短い筒をつくり, 花冠内面と共に淡黄色の突起状の毛が生える。
 【分布】日本全土, 東亜の温帯, 亜寒帯に広く分布. 県内では北勢, 伊賀, 南勢地域に分布。
 【現況・減少要因】生育立地は湿り気のある草地で, 環境変化圧, 特に植生遷移の進行による消失, 花期に採取圧を受け減少していることが考えられる。
 【保護対策】生育地の植生遷移を抑止する定期的な草刈り継続, また被覆する上層木の伐採, 枝打ちが必要. さらに採取を禁止する対策も講ずる。
 【文献】52, 76.

(葛山博次)

(写真: 長野県, 2013年, 池田博撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

クリンソウ

Primula japonica A. Gray

被子植物 サクラソウ科

【選定理由】既知の生育地点数は5以下であり、個体数は各地点250未満である。

【種概要】多年草。葉は大型で根ぎわに群生し、やわらかく無毛、裏面は腺状の細点が散らばる。葉身は倒卵状長楕円形で長さ15~40 cm、巾5~13 cm、先は丸く、基部は次第に狭まって柄状の散点が散らばる。ふつう赤みをおび、縁にはふぞろいに多数の低三角状の歯牙があり、表面にはしわが多い。5~7月、高さ40~80 cmの花茎をのぼし、2~5段に輪生して多数の花をつける。苞は線形、がくは狭い杯形で長さ6~8 mm、花冠は紅紫色で、径2~2.5 cm、蒴果は球状で径7 mmである。

【分布】日本固有種。北海道、本州、四国の冷温帯。県内では中勢と伊賀地域に分布する。

【現況・減少要因】近年の山野草ブームで採取が相次ぎ、激減している。また、生育地の森林の皆伐は生育環境の破壊につながり消失のおそれがある。

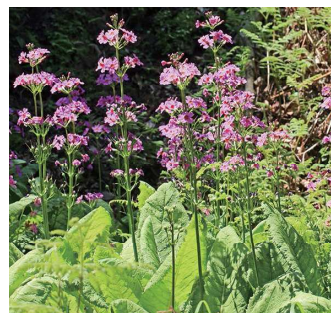
【保護対策】園芸目的の採取を禁止することが急務であり、分布情報の公表は控えるべきである。

【特記事項】和名は花が段になって輪生することから名づけられたといわれているが、9段には及ばない。

【文献】69, 76.

(葛山博次)

(写真：伊賀市，2016年，池田博撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

藓苔類

藻類

キノコ

ヒメイワカガミ

Schizocodon ilicifolius Maxim. var. *ilicifolius*

被子植物 イワウメ科

【選定理由】既知の生育地点数は5以下で、各地点の個体数は250未満である。

【種概要】山地の岩場に生育する常緑多年草。葉には2~5対の尖った鈍鋸歯があり、近縁のイワカガミより葉は小さく、鋸歯は少ない。花期は4~5月頃。白色~淡紅色の花を着ける。固有種。

【分布】本州（東北地方から近畿地方）。県内では大台町に記録がある。

【現況・減少要因】生育地に小群落を形成しているだけである。マニアによる採取圧が強い。

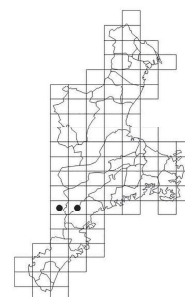
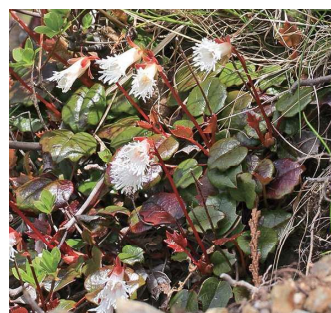
【保護対策】採取圧を回避するため、本種が生育する国立・国定公園内だけでも監視を強化する必要がある。

【特記事項】下位分類では当地域の生育種はナンカイヒメイワカガミ

(var. *nankaiensis*) とする見解もある。

(加田勝敏・市川正人)

(写真：奈良県，2016年，池田博撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

シマサルナシ

Actinidia rufa (Sieb. et Zucc.) Planch. ex Miq.

被子植物 マタタビ科

【選定理由】既知の生育地点数は5以下であり、各地点の個体数は50未満である。

【種概要】海沿いの強い陽光の場所に生育する落葉性のつる植物で、春から夏にかけて他の樹木に巻きついて急成長する。花期は6月頃で、梅に似た直径1~1.5 cmの白花をつける。果実は長さ3 cmほどの楕円形。果実は同じ属の栽培種キウイフルーツと同じで、完熟すると甘くなる。

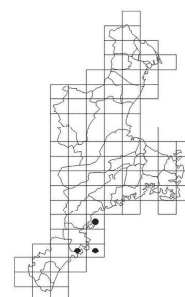
【分布】国内では本州（三重，和歌山，兵庫），四国，九州，沖縄。県内では紀州地域（紀北町，尾鷲市，熊野市）に分布。

【現況・減少要因】果実を採取する目的で個体を刈り採ったりすることが減少要因となる。

【保護対策】低木の照葉樹の樹冠上で繁茂している個体については保護することが必要である。

(花尻 薫)

(写真：熊野市，2014年，山本和彦撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蕨類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ヒロハドウダンツツジ

被子植物 ツツジ科

Enkianthus perulatus (Miq.) C.K.Schneid. f. *japonicus* (Hook.f.) Kitam.

【選定理由】既知の生育地点数は5以下で、未知の生育地はそれほど多くはないと推測される。

【種概要】高さ1~2mになる落葉低木。葉身は倒卵形で長さ2~3cm。幅1.5cm程度。4~5月、枝先に白色で壺型の花を1~5個下向きにつける。花柄の長さ1~2cm。

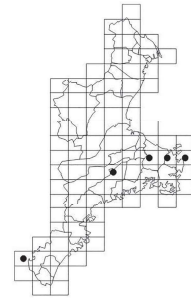
【分布】国内では本州（静岡県、愛知県、三重県、和歌山県）、四国（徳島県、高知県）、九州（鹿児島県）に分布。主に蛇紋岩地帯に生育するが他にもある。県内では鳥羽市の蛇紋岩地帯を中心とする南勢地域、および熊野市に分布。

【現況・減少要因】限られた地域に自生するが、観賞用に栽培もされている。自生地では、採石や土地開発により個体数の減少が危惧されている。

【特記事項】学名が栽培種ドウダンツツジ *Enkianthus perulatus* (Miq.) C.K.Schneid.に対して与えられたので、野生種はその品種として位置づけられている。

(武田明正・市川正人)

(写真：鳥羽市，1999年，山路武夫撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

アケボノツツジ

被子植物 ツツジ科

Rhododendron pentaphyllum Maxim. var. *shikokianum* T.Yamaz.

【選定理由】既知の生育地点数が5以下であり、情報が少ない。

【種概要】山地の岩場に生育する。葉は5個輪生。4~5月の葉の展開前に淡紅紫色の花を咲かせる。花冠は広いロード形で5裂する。花柄は無毛。

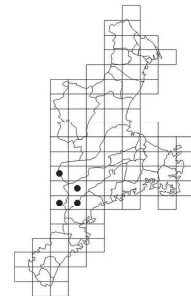
【分布】国内では本州（近畿地方以西）、四国、九州。県内では松阪市、大台町で生育の記録がある。本県が分布域の東限になると思われる。

【現況・減少要因】台高山地の中南部、1,000mを越える尾根筋に生育しており、確実な情報としては大台ヶ原一帯、池小屋山、千石山、笹ヶ峰である。生育地は人が簡単には近づけない山岳地帯のため、個体数やその増減については情報が少なく、把握しきれていない。今後も調査を続ける必要がある。

【保護対策】生育地は国立公園域、国定公園域に含まれる部分が多く、ある程度保護されている。心ない登山者による採取や、シカ等による食害が懸念される。

(山路武夫)

(写真：奈良県，2014年，山本和彦撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

ジングウツツジ

被子植物 ツツジ科

Rhododendron sanctum Nakai var. *sanctum*

【選定理由】既知の生育地点数は5以下であり、各生育地の個体数は100未満である。

【種概要】蛇紋岩地帯の疎林に生える高さ2~4mの落葉低木。表面には光沢があり、枝先に3枚輪生する。葉身は長さ4~6cm、幅3~5cmの卵円形からひし形。花は新葉が展開したのちに開花、1個の花芽から2~3個の花が開く。花芽は赤褐色の鱗片に被われ、鱗片の背面や縁には長毛が生える。花冠は紅紫色で上側内面に濃色の斑点があり、径3~4cm、5中裂する。雄しべは10本。

【分布】国内では本州（静岡県、愛知県、三重県）に分布。県内では伊勢市、鳥羽市に生育する。

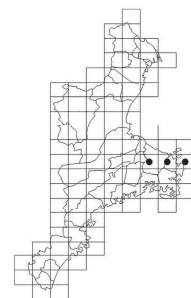
【現況・減少要因】人里に近い生育地では造成による減少が著しい。また花が大きく鑑賞価値があるので、園芸採取も深刻である。

【保護対策】生育環境の保全が必要である。

【特記事項】オンツツジが新葉の展開とともに開花、花芽の鱗片に腺点があるのに対し、本種は5~6月の新葉が展開した後から開花、花芽の鱗片には腺点がない。

(中馬千鶴)

(写真：伊勢市，2023年，山本和彦撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

VU

ウンゼンツツジ

被子植物 ツツジ科

Rhododendron serpyllifolium (A.Gray) Miq. var. *serpyllifolium*

【選定理由】 既知の生育地点数は5以下。紀伊半島南部の日当たりのよい林縁や岩場に生育する。また、採取圧が強い。

【種概要】 高さ1 m前後、細かに分枝して茂る半常緑低木。葉は長楕円形で小さく長さ1 cm以内。4～5月に枝先に径1.3～1.5 cmの淡紅紫色の花をつけ、たいへんきれいである。

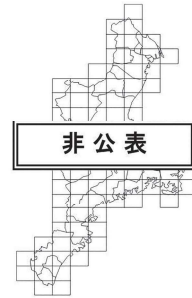
【分布】 国内では本州（伊豆半島、紀伊半島）、四国（南部）、九州（大隈半島）。県内では熊野市、御浜町、紀宝町に分布。

【現況・減少要因】 山林開発、林道開設、園芸・販売目的の採取圧などで減少の可能性がある。

【保護対策】 採取されないように法整備が必要である。

(山脇和也)

(写真：紀宝町，2019年，池田博撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

苔苔類

藻類

キノコ

チョウジコメツツジ

被子植物 ツツジ科

Rhododendron tschonoskii Maxim. var. *tetramerum* (Makino) Komatsu

【選定理由】 既知の生育地点数は3。鈴鹿山系のごく一部に限られる。

【種概要】 深山の岩場に生える。よく分枝して広がり、高さ1 mほどになる半落葉低木。夏葉は長楕円形で、長さ1 cm以内でウンゼンツツジに似る。6～7月ごろ、やや肉質で漏斗形の小さな白い花を咲かせる。固有種。

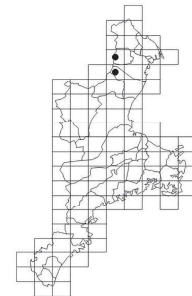
【分布】 本州（主に太平洋側）の深山の岩場。県内では菰野町、四日市市の鈴鹿山系。

【現況・減少要因】 台風や大雨などによる岩場の崩壊。採取による影響も考えられる。

【保護対策】 岩場の崩壊防止策や採取防止が必要。

(市川正人)

(写真：菰野町，2014年，池田博撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ヤマトグサ

被子植物 アカネ科

Theligonum japonicum Okubo et Makino

【選定理由】 既知の生育地点数は5以下であり、各生育地とも個体数は少ない。

【種概要】 高さ15 cmほどの多年草。地下茎は細く、短く、ひげ根を出す。茎は直立して先端に花が咲く。花が終わると下部の側枝が伸びて、地を這い、その先に新しい芽をつくる。葉は対生で葉柄があり、膜質の葉間托葉をそなえ、卵円形で全縁、微毛がある。花の下の苞は互生し、狭卵形で葉状の苞となる。4～5月ごろ淡緑色で風媒の単性花をつける。雄花は節ごとに1～2個つき苞と対生し、柄は殆どない。雌花は小さく柄はなく、下部は子房状となり、緑色で微毛があり、上部は側面にかたよって鐘状となり、花中から花柱がでて瘦果は宿存するがく筒に包まれる。花は葉腋につきえはない。

【分布】 日本固有種。本州（関東、東海道、近畿）、四国、九州の暖温帯に分布。県内ではいなべ市、伊賀市、大台町の限られた地域に分布する。

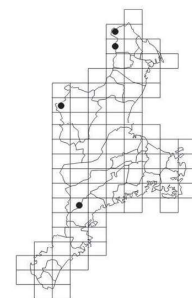
【現況・減少要因】 生育地の自然崩壊、植生の遷移、採取圧により減少している。

【保護対策】 生育地の環境変化圧の排除、採取圧、踏みつけの防止が必要である。分布情報の公表にあたっては慎重な配慮が必要である。

【文献】 3, 34, 51, 81, 139.

(葛山博次)

(写真：いなべ市，2016年，池田博撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蕨類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ナガバジュズネノキ

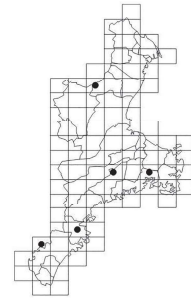
被子植物 アカネ科

Damnacanthus giganteus (Makino) Nakai

【選定理由】 既知の生育地点数は5以下であり、各生育地の個体数も少ない。
 【種概要】 照葉樹林に生える高さ0.5～2mの常緑低木。根の形状が数珠状となる。開花期は4～5月。多数の白色の花を下向きにつける。果実は直径3～5mm程度の球形、冬から翌早春にかけて赤く熟す。
 【分布】 国内では本州（東海地方以西）、四国、九州に分布。国外では中国大陸南部。県内では亀山市、伊勢市、大紀町、尾鷲市、熊野市で記録がある。
 【現況・減少要因】 照葉樹林の林床を生育地とするため、開発等による照葉樹林の消失にともない減少したと推測される。
 【保護対策】 照葉樹林の保全や照葉樹の残る社寺林等の保全が望まれる。

(写真：亀山市，2024年，池田博撮影)

(平山大輔)



三重県 2025	EN
三重県 2015	EN
環境省 2020	—

オオハシカグサ

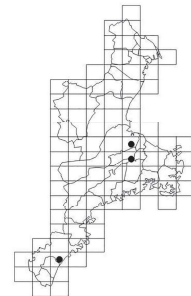
被子植物 アカネ科

Neanotis hirsuta (L.f.) W.H.Lewis var. *glabra* (Honda) H.Hara

【選定理由】 既知の生育地点数は3。生育個体数は250未満と推定された。
 【種概要】 林縁の半日陰のやや湿った環境に生育する一年草。茎はよく分枝して地面を這うように広がる。ハシカグサに酷似するが、全体にやや大形になることと萼筒が無毛であることによって区別される。
 【分布】 国内では、本州のおもに日本海側に分布。県内では、多気町、熊野市からの記録がある。
 【現況・減少要因】 不明。県下ではもともと少ない植物と考えられる。
 【保護対策】 生育環境の湿った林縁環境の保全。
 【文献】 178.

(写真：多気町，2013年，山本和彦撮影)

(藤井伸二)



三重県 2025	EN
三重県 2015	—
環境省 2020	—

ヒメナエ

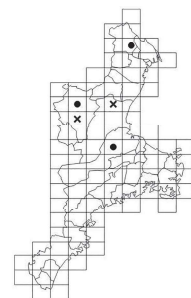
被子植物 マチン科

Mitrasacme indica Wight

【選定理由】 既知の生育地点数は10以下であり、各地点の個体数は250未満である。
 【種概要】 野原の湿地に生える小形の1年草。高さは5～15cmで茎は下部で分枝することが多く、無毛である。葉は披針形から線形で長さ3～8mm、幅1～2mm、基部がつながった対生する葉を数対つける。花は白色、4裂した径2.5mmで、8～10月頃に咲く。小花柄は長さ8～20mmで粒状突起を散生する。花柱が宿存した蒴果をつくる。
 【分布】 本州から九州。県内ではいなべ市、四日市市、鈴鹿市、伊賀市、津市、松阪市に記録されている。国外ではアジア東部から南部、豪州に分布。
 【現況・減少要因】 溜池内周辺部にみられる。溜池の堤体改修や理立てなど湖沼開発が減少要因となる。
 【保護対策】 溜池環境を現状維持する必要がある。影響を軽減するための溜池改修工法の工夫・土地造成のための理立てを極力回避するなどの対策を必要とする。

(写真：松阪市，2016年，池田博撮影)

(市川正人)



三重県 2025	EN
三重県 2015	EN
環境省 2020	VU

ケテイカカズラ

被子植物 キョウチクトウ科

Trachelospermum jasminoides (Lindl.) Lemaire var. *pubescens* Makino

【選定理由】 既知の生育地点数は1か所に限られ、個体数も50未満である。

【種概要】 常緑性藤本。花序や葉に毛が多い。葉は長楕円形～楕円形、長さ4～8 cm、幅2～5 cmである。花は径2～2.5 cmの白色で5～6月頃に開く。萼片は長さ5～6 mmで毛が散生する。花筒狭部は長さ3～4 mmで広部とほぼ同長である。袋果2つは長さ10～15 cmでほぼ直角につく傾向がある。テイカカズラに比べ、花の狭部と広部がほぼ同長であることが特徴である。

【分布】 本州（近畿地方以西）、四国、九州。県内では伊賀市で記録されている。国外では朝鮮、中国。

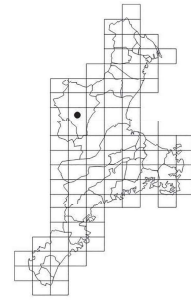
【現況・減少要因】 伊賀市の河岸1か所に限られており、河川改修による護岸工事などの影響を受ける。

【保護対策】 近辺の河川敷・土手にはレンブクソウやヤブサンザシも生育しており、河川開発には配慮が必要である。

【特記事項】 テイカカズラに似るが、葉面の毛の量や花筒の広部と狭部の長さの比から相違は明らかである。

(市川正人)

(写真：伊賀市，2023年，山本和彦撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

コイケマ

被子植物 キョウチクトウ科

Cynanchum wilfordii (Maxim.) Hemsl.

【選定理由】 既知の生育地点数は10以下。各地点の個体数は50未満である。開発圧が極めて強い。

【種概要】 林縁や疎林内に生育するつる性の多年草。葉は基部が心円形で、先は急に細くなって尖る。葉腋に葉柄より短い花柄を伸ばして、淡黄緑色の小さい花を多数つける。イケマに似るが、コイケマの生育環境は丘陵地林縁に多いこと、花冠裂片が斜上すること、副花冠裂片が低く付属体がないことなどが区別点である。

【分布】 本州（関東地方以西）から九州。県内ではいなべ市、桑名市、亀山市、津市、紀北町に記録がある。国外では朝鮮、中国。

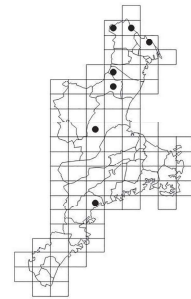
【現況・減少要因】 林縁や植生遷移の途上にあるやや不安定な環境に生育しているため消長が激しく、既知の生育地で再確認が出来ない場合が多い。開発による減少は顕著である。

【保護対策】 林縁など生育地の保全が必要である。

【文献】 34, 85.

(加田勝敏・市川正人)

(写真：津市，2021年，市川正人撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

フナバラソウ

被子植物 キョウチクトウ科

Vincetoxicum atratum (Bunge) C.Morren et Decne.

【選定理由】 既知の生育地点数は10程度だが、現存が確認されたのは3ヶ所に過ぎない。急速に消滅しつつあると推測される。

【種概要】 高さ40～80 cmの多年草。全草に密な白軟毛を持つ。葉は楕円形から卵円形、やや大型で長さ6～14 cm。濃紫色の花は6月に咲き、径は大きく12～14 mm。小花柄は短く5～10 mm、萼とともに密毛を有する。

【分布】 北海道から九州。国外では朝鮮半島、中国。県内での分布は広く、桑名市、伊賀市、松阪市、伊勢市、御浜町からの記録がある。安定した里草地や茅草地にまれに生育する。

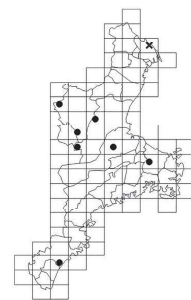
【現況・減少要因】 現在確認できるのは桑名市、松阪市、御浜町の3地点であるが、松阪市と御浜町の集団は移植による域外保全が図られている。開発による草地環境の減少および草地管理の放棄に伴う環境悪化が減少要因と推測される。

【保護対策】 自生地の開発規制だけでなく、草刈りや火入れによる草地環境の維持努力を継続することが重要。

【特記事項】 急速に生育地が消滅しつつある現状を深刻に受け止める必要がある。三重県立上野高校、京都大学総合博物館、三重県総合博物館に保管されている古い時代の標本は貴重。

(藤井伸二)

(写真：津市，2011年，市川正人撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

VU

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

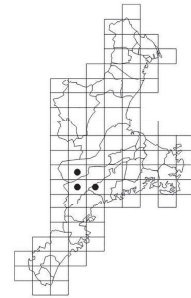
哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蕨類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

サワリソウ

被子植物 ムラサキ科

Ancistrocarya japonica Maxim.

【選定理由】 既知の生育地点数は5以下であり、個体数は250未満である。
 【種概要】 山地の木陰に生える多年草。茎は高さ50~80 cmで直立し、2又に分枝し、上向きの短い圧毛がある。葉は茎の中部に多く、長楕円形、洋紙質で長さ10~20 cm、幅3~7 cm、3~5対の側脈があり全縁である。上面に細突起、下面に圧毛がみられる。筒状鐘形、青紫色の花が5~6月頃につく。分果は1、2個成熟し、長さ約10 mmの狭卵形で、先は細長く鉤状に曲がる。固有種。
 【分布】 本州（関東地方以西）・四国・九州の太平洋側の温帯域に分布。県内では松阪市・大紀町・大台町に記録されている。
 【現況・減少要因】 比較的安定した環境下に生育しているが、シカ食害はなく、森林伐採が減少要因になる。
 【保護対策】 生育環境を現状のまま維持する必要がある。
 【特記事項】 大台町ではシロバナサワリソウも生育する。



三重県 2025
EN
三重県 2015
EN
環境省 2020
—

(写真：大台町，2022年，池田博撮影)

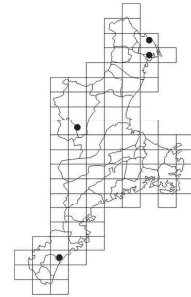
(市川正人)

オオアブノメ

被子植物 オオバコ科

Gratiola japonica Miq.

【選定理由】 既知の生育地点数は10以下であり、各地点の個体数は50未満である。
 【種概要】 湿地に生える1年草。茎は高さ10~20 cm、直立し肉質で柔らかい。葉は対生し、披針状長楕円形で柄はない。全縁で長さ1~3 cm、幅2.5~7 mmである。5~6月葉腋に白色筒形、4~5 mmの1花をつける。花冠の多くは開かず閉鎖花である。蒴果は球形で3~4 mmである。
 【分布】 本州（宮城県以南）、九州。県内では桑名市、四日市市、名張市、明和町、鳥羽市、熊野市、御浜町の湿地や水田の畦沿いに生える。国外では朝鮮、中国、ウズベク。
 【現況・減少要因】 消長が激しく安定していない。ミズアオイと同様、水田の表層土の攪乱による埋土種子の発芽がみられる程度である。圃場整備事業や農薬散布が減少要因である。
 【保護対策】 氾濫原を復元し、農薬散布を止めることで回復可能である。ビオトープなどの設置も有効である。



三重県 2025
EN
三重県 2015
EN
環境省 2020
VU

(写真：桑名市，2006年)

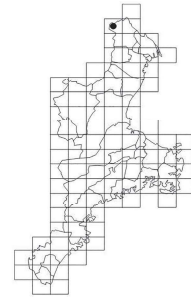
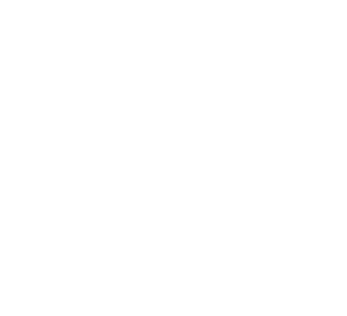
(市川正人)

サツキヒナノウスツボ

被子植物 ゴマノハグサ科

Scrophularia musashiensis Bonati var. *musashiensis*

【選定理由】 既知の生育地点数は5以下であり、各地点の個体数は50未満である。
 【種概要】 山地林内のやや日陰に生えるヒナノウスツボに似た多年草。地下茎は肥大し、根は細い。茎にはやや4稜があり、葉とともに軟弱で無毛である。葉は対生し、1~3 cmのやや翼のある柄、長さ6~11 cm、幅3~5 cmの尖った重鋸歯縁の葉身である。花はヒナノウスツボが7~9月に対し4~5月、円錐花序で多くの花をつけるに対して花序は葉腋から出て1~3花、花冠の長さは7~9 mmに対して大きく9~11 mmなどの相違がある。固有種。
 【分布】 本州（秩父、奥多摩の山地、中央アルプスの伊那側、伊吹、鈴鹿山系）。県内ではいなべ市の山地で記録がある。
 【現況・減少要因】 遷移や斜面の崩壊などが減少要因となる。
 【保護対策】 生育環境を維持することである。



三重県 2025
EN
三重県 2015
EN
環境省 2020
—

(市川正人)

カワミドリ

被子植物 シソ科

Agastache rugosa (Fisch. et C.A.Mey.) Kuntze

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類

昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物

維管束植物
藓苔類
藻類
キノコ

EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

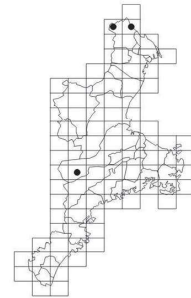
EN
EN
VU

【選定理由】既知の生育地点は5以下。
 【種概要】山地の林縁，路傍などに生育する。全体に強い香りがある。高さ40～100 cm。葉は5～10 cm，基部はハート型にくぼみ，やや長い柄で対生する。8～10月，淡紅色～淡紫色の唇形花が密集して穂になる。一見したところ，外観がナギナタコウジュに似るが，花をよく見ると全く形が違う。
 【分布】国内では北海道から九州，国外では朝鮮，中国，シベリア東部分布する。県内ではいなべ市，大台町での記録がある。
 【現況・減少要因】生育地，個体数は多くはない。林道や河川の改修，植物の遷移などによる減少が考えられる。
 【保護対策】林道の改修などの工事の時に注意を要する。



(山脇和也)

(写真：大台町，2005年，高松隆吉撮影)



三重県 2025
EN
三重県 2015
EN
環境省 2020
—

ケブカツルカコソウ

被子植物 シソ科

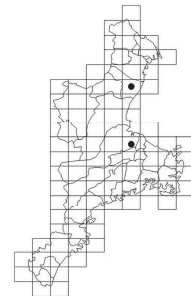
Ajuga shikotanensis Miyabe et Tatew. f. *hirsuta* (Honda) Murata

【選定理由】既知の生育地点は2。絶滅と考えられていたが，2006年に再発見された。個体数はわずかで50前後と思われる。
 【種概要】畔や土手などの里草地に生育するロゼット型の多年草。全体に粗毛を密生。葉は厚い。直立した花茎が単生し，高さ10～30 cm。花期の終わりごろから，花茎基部より走出枝を出す。
 【分布】ツルカコソウ（ケブカツルカコソウを含む）の分布は国内では色丹島，本州。近畿地方では和歌山県と三重県のみ分布。県内では稲生村（現鈴鹿市1928年）と明和町（1925年）での標本記録がある。
 【現況・減少要因】畔や土手のごく狭い範囲にのみ生育している。
 【保護対策】畔や土手の管理を現状のまま維持する必要がある。
 【文献】128。



(藤井伸二)

(写真：明和町，2006年，山本和彦撮影)



三重県 2025
EN
三重県 2015
EN
環境省 2020
—

シマジタムラソウ

被子植物 シソ科

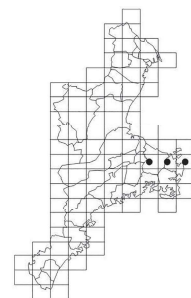
Salvia isensis Nakai ex H.Hara

【選定理由】既知の生育地点数は5以下であり，生育環境は限られている。
 【種概要】日当たりのよい蛇紋岩上の疎林や草地にはえる多年草。茎は直立し，細毛があるか，または毛がなく，高さ20～30 cm。葉は茎の下部に集って対生し，1～2回羽状複葉，小葉は先端のものが大きい。花は茎の先に穂状に付き，淡青紫色，8～9月頃開く。萼は長さ5～6 mm，外面には腺点と粗毛がまばらに生え，内面の中程に白い毛が輪状にはえている。花冠は長さ1 cm内外，筒部は内面中央に輪状に毛がある。雄しべは花の外に突き出る。
 【分布】本州（三重県，愛知県）の一部に固有。県内では南勢地域に生育する。
 【現況・減少要因】蛇紋岩地帯の疎林内や半裸地状の場所に生育する。
 【保護対策】蛇紋岩地帯の森林化を抑制し，草地状態を維持することが必要である。



(中馬千鶴)

(写真：鳥羽市，2017年，飯田順子撮影)



三重県 2025
EN
三重県 2015
EN
環境省 2020
VU

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蕨類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

コナミキ

Scutellaria guilielmii A.Gray

被子植物 シソ科

【選定理由】既知の生育地点数は5以下で、各生育地の個体数は50未満である。

【種概要】海岸近くの草地に生える多年草。茎は分枝し、高さ20~40 cmになる。葉は対生し、上部のものはほとんど柄がなく、下部のものは0.5~20 mmの葉柄がある。花は5月、白色で葉腋に1個ずつつく。

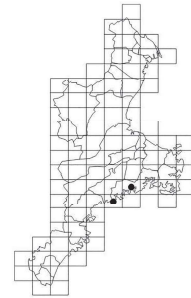
【分布】国内では本州（千葉県以西）から沖縄に分布。県内では南伊勢町および大紀町の海岸部での記録がある。

【現況・減少要因】ニホンジカの食害により個体数が激減している生育地も見受けられる。また、南伊勢町の自生地では理め立てが間近まで迫り、危機的な状況にある。

【保護対策】現在残されている海岸部の自然環境は、海岸近くに生える植物の生育地として保全することが必要である。同時にニホンジカの食圧を低減する施策が必要となっている。

(山本和彦)

(写真：南伊勢町，2000年)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

VU

デワノタツナミソウ

Scutellaria muramatsui H.Hara

被子植物 シソ科

【選定理由】既知の生育地点数は5以下であり、各地点の個体数は50未満である。

【種概要】やや湿った林地に生える多年草。茎は長く這った地下茎から立ち上がり高さ10~30 cmとなり、極短い下向きの毛が生える。葉は卵形から三角状卵形、縁には波状鋸歯が数個あり、基部は広い楔形となる。長さ2~3.5 cm、幅1~2.5 cm、表面にまばらな毛、裏面脈上に細毛を持つ。花は5~6月頃に開き花冠は紫色で15~18 mm、紫斑がない。花穂は3~5 cmである。固有種。

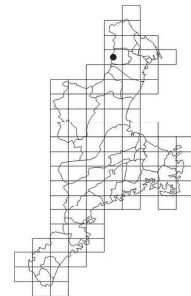
【分布】本州（近畿地方以北のおもに日本海側の山地）。県内ではいなべ市、菰野町、亀山市で記録されている。

【現況・減少要因】植生遷移や土砂崩壊が減少要因と考えられる。

【保護対策】現在の生育環境を維持する必要がある。

(市川正人)

(写真：いなべ市，2018年，池田博撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

イブキジャコウソウ

Thymus quinquecostatus Čelak. var. *quinquecostatus*

被子植物 シソ科

【選定理由】既知の生育地点数は5以下であり、強い開発圧により減少が著しい。

【種概要】小低木で茎は細く、地表をはって分枝繁殖する。葉は対生し、卵形で長さ5~10 mm。花期は8~9月、枝先に紅紫色の唇形花をつける。全草芳香がある。

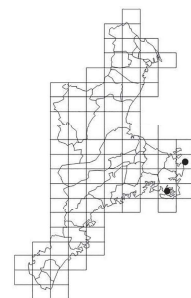
【分布】国内では北海道、本州、九州。国外では朝鮮半島、中国、ヒマラヤに分布。県内では鳥羽市および志摩市で記録がある。

【現況・減少要因】鳥羽市では離島や沿岸の丘陵地に生育していたが、開発圧を強く受け現在は離島に若干が残存している状況である。一方、志摩市の記録は古く、現況は不明である。

【保護対策】開発に際しては本種の生育に十分な配慮を行う必要がある。また、市民への啓発を行うことも重要である。

(岡 与一・半田俊彦)

(写真：鳥羽市，2017年，飯田順子撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

ゴマクサ

被子植物 ハマウツボ科

Centranthera cochinchinensis (Lour.) Merr. subsp. *lutea* (H.Hara) T.Yamaz.

【選定理由】 既知の生育地点数は5以下であり、各地点の個体数は50未満である。

【種概要】 日当たりの良い湿地に生える1年草。茎は直立して硬く10~60 cmで短い剛毛がある。葉は長さ1.5~6 cm, 幅2~8 mmの狭波針形から広線形で全縁または少数の鋸歯があり、両面短い剛毛が生える。花はほとんど柄がなく黄色で長さ2 cm, 8~9月頃, 上部苞葉腋に単生する。蒴果は長さ7 mm, 幅3.5 mmである。固有種。

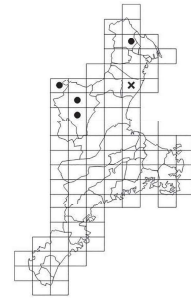
【分布】 本州(関東地方以西), 四国, 九州。県内ではいなべ市, 鈴鹿市, 伊賀市に記録がある。

【現況・減少要因】 現在, いなべ市, 伊賀市に生育するが極少ない。湖沼開発による湿地の消失が減少要因。

【保護対策】 少なくとも今ある環境を残すこと, および採取を防止する。

(市川正人)

(写真: 伊賀市, 2013年)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

VU

シオガマガク

被子植物 ハマウツボ科

Pedicularis resupinata L. subsp. *oppositifolia* (Miq.) T.Yamaz.

【選定理由】 既知の生育地点数は5以下であり、各生育地とも個体数は極めて少ないと考えられる。

【種概要】 山の日当たりのよい草地に生える多年草。茎は根ぎわから数本出て株となり, 高さ約30~60 cm。葉は下部では対生, 中部以上は互生する。苞は葉状でやや小形, 花は8~10月に開き, 萼は長さ5~10 mm, 腹面深く切れ込み背面は円頭で時に2~3の鋸歯がある。花冠は紅紫色で長さ20~23 mm, 上唇の先は短い嘴となる。さく果は長さ8~12 mm。種子は紡錘形, 平滑でやや縦の条がある。

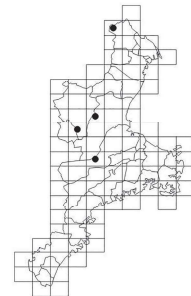
【分布】 国外では, シベリアから東アジアに広く分布。国内では, 北海道の中・南部から本州, 四国, 九州にかけての冷温帯に分布し, 県内ではいなべ市, 津市, 伊賀市で生育の記録がある。

【現況・減少要因】 植生の遷移や人為圧により減少または消滅が予想される。

【保護対策】 既知の生育地や冷温帯に当たる日当たりのよい草地を精査し, 再確認に努め, 確認されたら万全の保護対策を講ずる必要がある。

(葛山博次)

(写真: いなべ市, 2009年, 池田博撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

キヨスミウツボ

被子植物 ハマウツボ科

Phacellanthus tubiflorus Sieb.et Zucc.

【選定理由】 既知の生育地点数は5以下であり、各地点の個体数は50未満である。

【種概要】 山地の木陰に生える寄生植物。はじめ白色, のちに黄褐色になる。カシ類に寄生する。高さ5~10 cmで毛はなく, 茎は多数の鱗片葉に覆われる。花は5~7月に展開し, やや頭状に集まってつく。花冠は2.5~3 cmの筒状で斜上する。花の形態は変異が大きい。

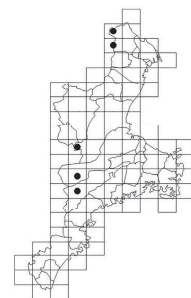
【分布】 日本全国。県内ではいなべ市, 津市, 松阪市, 名張市, 大台町で記録されている。国外ではアジア北東部に分布。

【現況・減少要因】 丈の低い寄生植物で落葉落枝に隠れて目立たない。精査すれば他にも新産地の可能性がある。

【保護対策】 生育環境を維持することである。

(市川正人)

(写真: いなべ市, 2015年)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蕨類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ミカワタヌキモ

被子植物 タヌキモ科

Utricularia exoleta R.Br.

【選定理由】既知の生育地点数は5以下。湿原の開発や溜池などの理め立てによる急激な減少が予想される。生育面積は狭く、個体数も多くない。

【種概要】水面すれすれの泥上を匍匐して、捕虫囊をつけた地中葉で固着する。水中葉はまばらに軸につき、長さはせいぜい1cm位。8～9月に高さ5～8cm位の花軸を生じ、径5～6mmほどの黄色の花を1～3個つける。

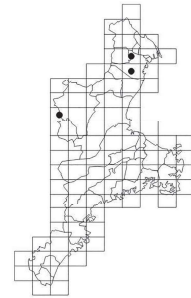
【分布】国内では本州（関東から近畿地方）、九州、沖縄。国外では台湾、インド、オーストラリア、アフリカ。県内では北勢、伊賀地域に生育地がある。

【現況・減少要因】伊賀市といなべ市大安町にそれぞれ1か所。現況不明。大安町の溜池にあったものは、池の半分が埋め立てられたことにより減少、消滅した可能性がある。湿原・溜池開発による急激な減少や遷移による減少も考えられる。

【保護対策】周りの環境を整備し、生育環境を保護する必要がある。

(山脇和也)

(写真：伊賀市，2013年，市川正人撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

VU

イワダレソウ

被子植物 クマツヅラ科

Phyla nodiflora (L.) Greene

【選定理由】既知の生育地点数は1。個体数は50未満。

【種概要】海岸の裸地や岩場に生育する多年草。茎は長く地表を這い、節から根を出す。葉は対生し、当欄状楕円形、長さ1～4cm、幅5～18mm、上半にあらゐり鋸歯があり、圧毛を有する。葉腋から長い柄を持つ円柱状の穂状花序を単生する。

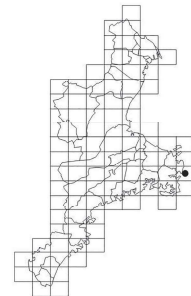
【分布】国内では、本州（関東南部以西）から琉球に分布。国外では、世界の熱帯から亜熱帯に広く分布。県内では、志摩市に分布。

【現況・減少要因】志摩半島の海岸の岩場に生育。個体数は少ない。渥美半島には多産するが、本県では稀。

【保護対策】現状に変更が無ければ問題は無い。

(藤井伸二)

(写真：志摩市，2017年，池田博撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

ヒメモチ

被子植物 モチノキ科

Ilex leucoclada (Maxim.) Makino

【選定理由】既知の生育地は、いなべ市で、藤原岳を含む4地点からの報告がなされていたが、近年では確認されていない。

【種概要】山地の木陰に生える常緑低木。枝は丸くて太く、下部は多少横にはう。葉は狭長楕円形、革質で光沢があり、長さ6～13cm、巾2～3.5cm、両端とがり、全縁、時に上部に鋸歯がある。中肋は下面に隆起する。花は葉腋に1～数个束生し、白色、径約7mm。雄花は4雄ずい、雌花は小型の4雄ずいと1雌ずい。雌雄異株。花期は5～6月。

【分布】日本固有種。北海道、本州（東北、北陸、山陰）の温帯。県内ではいなべ市4地点であるが、現存は確認されていない。

【現況・減少要因】生育地の植生の遷移並びに改変等により減少したと考えられる。

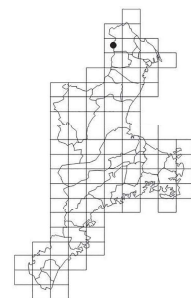
【保護対策】今後の精査による再発見の際には、立地環境の保全につとめる。

【特記事項】標本は三重県総合博物館に収蔵されている。

【文献】163.

(葛山博次)

(写真：群馬県，2014年，池田博撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

—

環境省 2020

—

ヒロハテイショウソウ

被子植物 キク科

Ainsliaea cordifolia Franch. et Sav. var. *maruoi* (Makino) Makino ex Kitam.

【選定理由】既知の生育地点数は5以下であり、各地点の個体数は50未満である。

【種概要】テイショウソウの葉に切れ込みのあるもので、切れ込みに多少の変異もみられる。

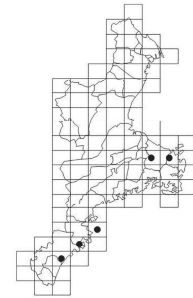
【分布】国内では本州（関東南部、東海道）、伊豆諸島。県内では南勢（伊勢市）、紀州地域（尾鷲市、熊野市）に分布。

【現況・減少要因】生育地は林縁の急崖地や樹陰の乾燥地などにあり、環境の変化により個体が減少するおそれがあり、また人の踏みつけが圧力になると考えられる。

【保護対策】林縁の土木工事や林内の遊歩道の取り付けには、自生地を避ける方法を取り群落の保護を図る。

(花尻 薫)

(写真：熊野市，2016年，山本和彦撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

エンシュウハグマ

被子植物 キク科

Ainsliaea dissecta Franch. et Sav.

【選定理由】既知の生育地点数は5以下。各地点の個体数は50未満である。

【種概要】山地の木陰に生育する。葉は茎の中部以下に輪状につき、葉は掌状に分裂する。9～10月頃、10～30 cmの茎を伸ばし、総状～複総状の頭花を着ける。固有種。

【分布】本州（静岡県、愛知県、三重県）。県内では桑名市、いなべ市、菰野町、度会町に記録がある。

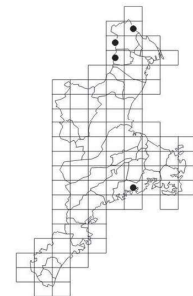
【現況・減少要因】山地の植生遷移や開発（ウインドファーム設置）により減少傾向にある。また、園芸採取も減少の一因である。

【保護対策】各市町村の関係部署に周知・徹底させ、開発時のチェック、生育地の保全を行う必要がある。

【文献】34, 43.

(加田勝敏・市川正人)

(写真：桑名市，2012年，市川正人撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ナガバシロヨメナ

被子植物 キク科

Aster ageratoides Turcz. var. *tenuifolius* Kitam.

【選定理由】既知の生育地点数は5以下。川の上流の溪谷などに生え生育地の個体数は多くない。

【種概要】シロヨメナの溪流型である。山地の溪流の岩上などに生える。葉は線状披針形で、3脈がめだつ。毛が少なくまばら。下部の葉には粗い鋸歯がある。頭花は白色で数個つける。

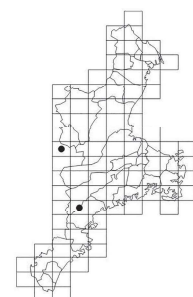
【分布】本州中部以西、四国、九州。県内では名張市、大台町に知られている。

【現況・減少要因】溪流沿いに生育し、大雨などの時の濁流で流されたり埋まってしまう可能性がある。

【保護対策】特になし。

(山脇和也)

(写真：名張市，2022年，池田博撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

—

環境省 2020

—

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

シュンジュギク (シンジュギク)
Aster savatieri Makino var. *pygmaeus* Makino

被子植物 キク科



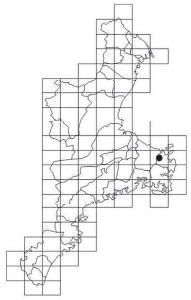
【選定理由】 既知の生育地点数は5以下であり、生育環境は限られている。
【種概要】 蛇紋岩地帯に生える多年草。高さ10 cm内外、根出葉は長い葉柄があり円形、縁に2~3のあらい鋸歯がある。初夏に、葉の間から1本の花茎が伸び、細かな葉を互生する。花茎の先端には、1~2個の頭花をつける。頭花は径13~20 mm、白色または淡青紫色で、5~7月に咲く。集団遺伝解析により、シュンジュギクはミヤマヨメナが蛇紋岩地帯に侵入して分化したものであり、三重と愛知・高知で少なくとも2回独立に並行進化したことが示唆された。

【分布】 日本固有種。近畿地方以西の国内では本州、四国に分布、県内では伊勢市に生育する。

【現況・減少要因】 蛇紋岩地帯の疎林内や半裸地状の場所に生育する。

【保護対策】 蛇紋岩地帯の森林化を抑制し、草地状態を維持することが必要である。

【文献】 156. (中馬千鶴・福田知子)
(写真：伊勢市，2017年，池田博撮影)



三重県 2025
EN
三重県 2015
EN
環境省 2020
—

ホソバノギク (キシウギク)
Aster sohayakiensis Koidz.

被子植物 キク科



【選定理由】 既知の生育地点数は5以下で、未知の生育地もそれほど多くないと推測され、確認されている個体数も少ない。

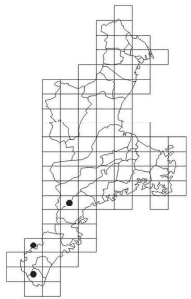
【種概要】 溪流沿いの岩上に生える多年草。地下茎を持ち、茎は高さ30~60 cmで無毛。葉には短い柄があり、葉身は細長くてやや厚く表面に光沢がある。花期は8~10月頃。花柄に長さ0.2~0.3 cmの苞を1, 2個つける。

【分布】 紀伊半島の固有種。県内では大台町、熊野市、紀宝町の溪岩上で生育が確認されている。

【現況・減少要因】 溪流帯は開発されにくい環境であるが、川や溪谷沿いの道路拡幅工事やダム建設工事の影響によって個体数を減少させる可能性がある。

【保護対策】 溪谷や河川沿いの道路拡幅や道路補修の工事に際しては、影響を最小限にとどめるような配慮が必要である。

【文献】 140. (武田明正・藤井伸二)
(写真：紀宝町，2016年，池田博撮影)



三重県 2025
EN
三重県 2015
EN
環境省 2020
VU

クサノオウバノギク
Crepidiastrum chelidoniifolium (Makino) Pak et Kawano

被子植物 キク科



【選定理由】 既知の生育地点数は5以下であり、未知の生育地は今後それほど増えないものと思われる。

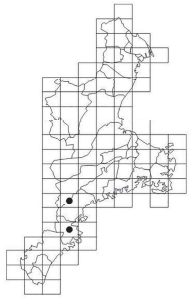
【種概要】 山地に生える1年草。高さ15~45 cm。葉は薄く羽状に全裂し、花は8~11月。総苞は狭い円柱形で、長さ5.5~7.5 mm。内片5個。小花5個。

【分布】 国内では本州（栃木県、奈良県、三重県）、四国。国外では朝鮮半島、中国（東北）に分布。県内では大台町、尾鷲市での記録がある。

【現況・減少要因】 1年草であるため、同一場所に毎年出現するとは限らないが、林道の脇や登山道沿いの落葉広葉樹林の林床に散見される。今のところ個体数には大きな増減はないと思われる。

【保護対策】 林道沿いの裸地にみられることが多いため、林道の改修工事には配慮が必要である。

(山本和彦)
(写真：尾鷲市，2008年)



三重県 2025
EN
三重県 2015
EN
環境省 2020
VU

ホソバオグルマ

Inula linariifolia Turcz.

被子植物 キク科

【選定理由】 既知の生育地点数は5以下。各地点の個体数は少なく50未満である。

【種概要】 オグルマに類似するが、葉の幅6~10 mmと細く、頭花も径18~25 mmと小さいことで区別される。総苞の長さ4~6 mm。

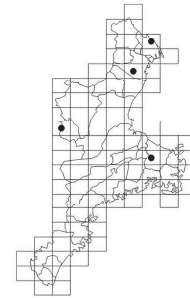
【分布】 本州、九州。県内では桑名市、名張市、四日市市、伊勢市に記録がある。国外では朝鮮、中国、シベリア。

【現況・減少要因】 人里近くの湿地に生育するため、開発圧が強い。

【保護対策】 生育地の保全を要する。

(加田勝敏・市川正人)

(写真：桑名市，2012年，市川正人撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

VU

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

苔苔類

藻類

キノコ

ドロニガナ

Ixeridium dentatum (Thunb.) Tzvelev subsp. *kitayamense* (Murata) Pak et Kawano

被子植物 キク科

【選定理由】 既知の生育地点数は5以下であり、各地点の個体数は50未満である。

【種概要】 川岸の岩の割れ目に生える。小形の植物で根生葉も小さく、葉柄を含めて、長さ3~5 cm、ほとんど全縁。頭花は3~5月に咲く。瀨峡で発見されたのでこの和名がつけられた。

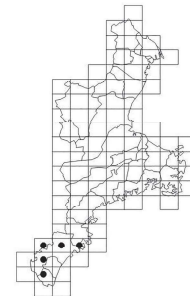
【分布】 国内では紀伊半島南部（三重県、和歌山県、奈良県）。県内では熊野市、紀宝町に分布。瀨八丁附近の岩の上に自生する。

【現況・減少要因】 河川改修による圧力と、増水による川岸の破壊が減少に繋がると思われる。

【保護対策】 河川改修の際、堤防工事や川岸の破壊が自生地周辺で行われる可能性があり、保護に対する理解を得るよう配慮する。

(花尻 薫)

(写真：紀宝町，2014年，山本和彦撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

VU

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

タイミンガサ

Parasenecio peltifolius (Makino) H.Koyama

被子植物 キク科

【選定理由】 既知の生育地点数は1であり、個体数も少ないことからカテゴリーをVU (2015) からENに変更する。

【種概要】 深山の谷間の林下に生える多年草。茎は高さ1.5 m内外になり、高く葉上にのび、根茎は短く分岐する。葉は軟らかく楕形で円形、径35~65 cm、多数の鋭い裂片に分かれる。茎葉は少数で互生。根生葉には長い柄があって、葉柄は太く、中空でやわらかい。秋に茎の上部で多数に分枝し、円錐状に多数の小頭花をつける。各頭花は、白色の5裂した筒状花が6個あり、おしべは淡緑色。5個の短い円柱状の総苞に囲まれる。

【分布】 日本固有種。北陸から近畿北部の冷温帯生育し、県内ではいなべ市に分布する。

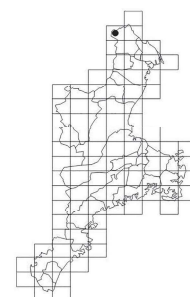
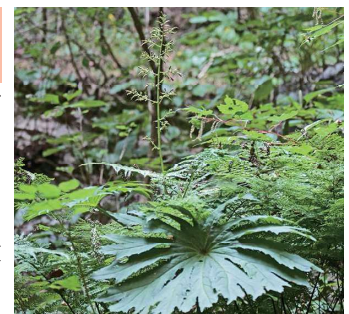
【現況・減少要因】 渓谷沿いに生育することが多く、土石流などにより生育地が埋没または流失する可能性が大きく、近年の豪雨により消失したところもある。

【保護対策】 砂防工事やそれに係る侵入歩行路、資材搬入路の工事の際、人為圧のないよう配慮する必要がある。また採取圧の防止も必要である。

【文献】 45, 51, 81.

(葛山博次)

(写真：いなべ市，2022年，池田博撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ミヤコアザミ

被子植物 キク科

Saussurea maximowiczii Herder var. *maximowiczii*

【選定理由】既知の生育地点数は10以下。各生育地の個体数は少なく、近年の生育情報もない。

【種概要】山地や丘陵の草原に生育する多年草。草丈50~150 cm、葉は4~6対に羽裂する。根生葉は長柄があって花時にも残る。8~10月頃、散房状に頭花をつける。

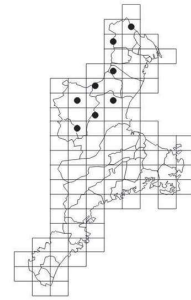
【分布】本州（福島県以西）、四国、九州。県内ではいなべ市、亀山市、津市、伊賀市、名張市に記録がある。国外では朝鮮、中国、アムール。

【現況・減少要因】激減している。植生遷移やニホンジカの食害が減少要因である。

【保護対策】定期的草刈りの実施と防鹿柵設置対策などが考えられる。

【文献】34, 69, 85.

(加田勝敏・市川正人)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

オオダイトウヒレン

被子植物 キク科

Saussurea nipponica Miq. subsp. *nipponica* var. *nipponica*

【選定理由】既知の生育地点数は5以下。ニホンジカによる食害の影響を受けているためか、岩場の限られた立地のみには認められない。

【種概要】深山の林床にまれに見られる多年草。茎は高さ50~100 cm、上部に粉状の細毛がある。葉は薄く、葉柄に翼はない。8~10月、紅紫色の頭花を散房状につける。総苞片は短く外曲し褐色の細毛がある。

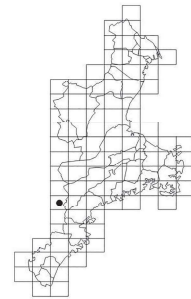
【分布】日本固有種。本州（近畿および中国地方）、四国、九州北部に分布。県内では大台町から記録されている。

【現況・減少要因】生育環境が限定されており、自生地の個体数も多くはない。ニホンジカによる食害の影響をうけているものと思われる。

【保護対策】ニホンジカ等の食害を防ぐ必要がある。生育地は国立公園に含まれている。

【文献】48.

(山本和彦)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

タイキンギク

被子植物 キク科

Senecio scandens Buch.-Ham. ex D.Don

【選定理由】既知の生育地点数は5以下で、各地点の個体数は250未満である。

【種概要】海岸地帯の向陽の急崖地や斜面に群生する多年草。茎はつる状に長く伸びて2~5 mとなり、葉は長三角形、長さ8~11 cm。花期は11月、3月。

【分布】国内では本州（紀伊半島南部の三重県、和歌山県）、四国。県内では紀州地域（尾鷲市、熊野市）に分布。

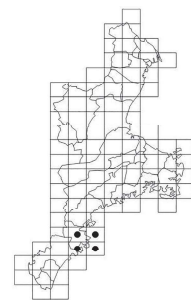
【現況・減少要因】道路工事、急崖地の崩落が減少につながる。

【保護対策】急崖地の道路工事は、斜面を削り岩石が自生地を転石することが多いので、工事の方法について業者の注意をうながすことが必要と思われる。

【特記事項】紀州地域は本種の北限である。

(花尻 薫)

(写真：熊野市，2016年，池田博撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

NT

アオヤギバナ

被子植物 キク科

Solidago yokusaiana Makino

【選定理由】既知の生育地点は3であり、現存は確認されていない。

【種概要】山地の川岸などの岩上に生える多年草。茎は直立または斜上し、高さ20～50 cmになる。葉は線状披針形で、先はとがり、基部は次第に狭くなり柄となり、長さ4～7 cm、巾2～5 mm、下面は緑色。頭花は茎の上部に多数が集まって円錐状につく。舌状花の花冠は濃黄色。花期は8～10月。

【分布】国内では本州、四国、九州に分布。県内ではいなべ市、亀山市、熊野市に分布していた標本記録はあるが、近年は生育が確認されていない。

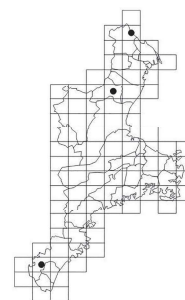
【現況・減少要因】生育地の植生遷移の進行や生育環境の変化により減少しているのではないと思われる。

【保護対策】生育環境の変化、植生の変化、人為による盗掘などに配慮する必要がある。

【特記事項】標本は三重県総合博物館に収蔵されている。

【文献】163.

(葛山博次)



三重県 2025

EN

三重県 2015

—

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

苔苔類

藻類

キノコ

サワオグルマ

被子植物 キク科

Tephrosieris pierotii (Miq.) Holub

【選定理由】既知の生育地点数は10以下。生育地である湿地の開発圧が強い。

【種概要】日当たりのよい山間の湿地に生える高さ60～90 cmの多年草。基部にはへら形で柄の長い葉があり、茎上の葉は無柄で、基部が茎を抱く。黄色の頭花は径3.5～5 cmで、果実は無毛で白い冠毛で飛ぶ。

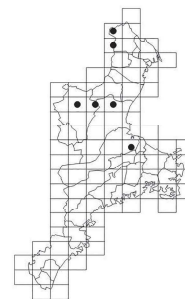
【分布】国内では本州、四国、九州、沖縄。県内ではいなべ市、津市、松阪市、伊賀市で記録がある。

【現況・減少要因】いなべ市、津市、松阪市以外では、生育地の記録は約50年前のものである。湿地の開発や、山間部では遷移による生育地の減少などにより、消滅の可能性もある。松阪市では最近新しく確認された。

【保護対策】生育地の湿地の保護や遷移を止める対策が必要である。

(山脇和也)

(写真：松阪市，2023年，山本和彦撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

カンボク

被子植物 レンブクソウ科

Viburnum opulus L. var. *sargentii* (Koehne) Takeda

【選定理由】既知の生育地点数は5以下であり、個体数は各生育地点とも極めて少ない。

【種概要】高さ2.5～3 mの落葉低木。葉には3～4 cmの長柄、上部に一对の蜜腺があり、対生、葉身は3中裂し、裂片は鋭く尖りあるいは鋸歯があり、基部はほぼ切形で長さも巾も6～10 cm。5～6月、枝先に複散房状の花序を出し、多数の白色花を開き、中央の小さい正常花のまわりには、花冠が非常に大きい装飾花がとりまいている。正常花は花冠5裂、おしべは花冠より高く伸びて5本、葯は濃紫色である。果は球形で8～10 mm、赤熟する。ブナ帯の構成要素である。

【分布】日本全土および東亜の冷温帯。県内では鈴鹿山脈北部、伊賀地域、台高山脈に分布する。

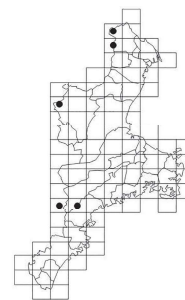
【現況・減少要因】生育地の植生遷移にともない消滅のおそれがある。さらに花期や果実の赤熟期には人為圧にさらされ樹勢劣化の状況にある。

【保護対策】生育地の森林の中・高木層の繁茂による遮光を排除する間伐、枝打ちなどの管理が必要であり、また採取の防止に努める必要がある。

【文献】57, 139.

(葛山博次)

(写真：滋賀県，2013年，市川正人撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蕨類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ナベナ

被子植物 スイカズラ科

Dipsacus japonicus Miq.

【選定理由】既知の生育地点数は5以下。個体数は少ない。いなべ市の自生地は砂防ダム敷設により消滅のためVUからENに変更となった。

【種概要】日当たりのよい山地に生える越年草で、高さ1m以上になる。全体に刺状の剛毛がある。葉は下部のものは羽状となり翼のある柄がある。花は紫色、8～9月に咲き、多数集まって径2cmほどの球状の頭花を形成する。総苞片は線形で1列に並び、反りかえる。

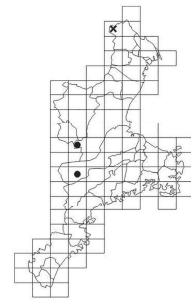
【分布】本州、四国、九州、朝鮮、中国に分布。県内ではいなべ市、津市、松阪市から記録されている。

【現況・減少要因】林縁、崩壊地、日当たりのよい山間の草地等、攪乱された不安定な立地環境に生育。遷移が進行し、林分が閉鎖するなど、生育環境が安定化してくると姿を消す。

【保護対策】自生地周辺に多様な立地環境を残しておくことが重要。

(山本和彦)

(写真：松阪市，2008年，池田博撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

ウスバヒヨウタンボク

被子植物 スイカズラ科

Lonicera cerasina Maxim.

【選定理由】既知の生育地点数は5以下である。最近ほとんど発見されていない。個体数も少ない。

【種概要】西日本に生育する落葉低木。葉は倒卵状長楕円形で長さ4～10cm。4～5月に頂に帯黄白色の2花つける。液果は楕円形で、下部で合着し、長さ7～8mm、6月に紅熟する。

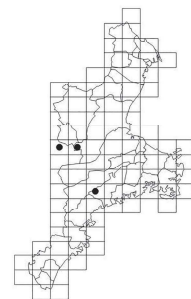
【分布】国内では本州（紀伊半島、山陽）、四国、九州の山地に点在。県内では紀州、中南勢、伊賀地域に分布。

【現況・減少要因】近年では津市、名張市、大台町、大紀町で確認されている。森林の伐採や開発等で消滅する可能性がある。

【保護対策】生育地については、森林の伐採や登山道整備などの時、詳細な調査が必要である。

(山脇和也)

(写真：大紀町，2007年，山本和彦撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

VU

キンキヒヨウタンボク

被子植物 スイカズラ科

Lonicera ramosissima Franch. et Sav. ex Maxim. var. *kinkiensis* (Koidz.) Ohwi

【選定理由】既知の生育地点数は1。個体数は50未満である。

【種概要】山地の日当たりのよい林縁や疎林内に生育する落葉低木。4～5月頃葉腋に1.5cm内外の花柄を出し、淡黄色の筒状花を2個つける。葉は長楕円状披針形で鋭尖頭。両面ともに有毛。苞は子房と同長。固有種。

【分布】本州近畿地方（三重県、京都府、大阪府、兵庫県）、四国（香川県）。県内では熊野市に記録されている。

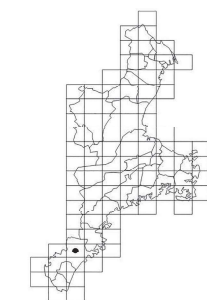
【現況・減少要因】紀州地域の山地を精査すれば、他の生育地が見つかる可能性はあるが、スギ・ヒノキの植林が大半を占める現状では生育適地はあまりにも少ない。

【保護対策】花または果実がなければ見落としがちである。従って生育地の保護対策も難しい。生育には日当たりのよい林縁や落葉広葉樹の疎林が確保される必要がある。

【特記事項】標本は大阪市立自然史博物館に所蔵。

【文献】44。

(加田勝敏・市川正人)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

EN